

# 町内遺跡発掘調査事業概報Ⅱ

字上ノ国市街地詳細遺跡分布調査  
向井宅遺跡発掘調査

1999・3

上ノ国町教育委員会



# 序

天の川河口付近西側から大潤湾に沿って字上ノ国 の市街地が形成されて います。

この地区は江戸時代の前期からすでに戸数百四、五十と記されており、 古くから集落が形成されていたと推測されています。

近年、国指定史跡上之国勝山館跡の発掘調査が進むに従い、直下のこ の地区には城下町が作られていた筈だとの指摘を歴史学の諸先生から受け るようになりました。平成7年に本篠浪屋敷遺跡、平成8年に凸米沢屋敷 遺跡の調査が行われ、擦文時代から江戸時代にかけて人々の営みがあつた ことがわかりました。

昨年度には、これらの調査結果並びに歴史学の諸先生の指摘を踏まえ、 上ノ国市街地の分布調査を行いました。調査の目的は、上ノ国地区に人 が住み始めてから勝山館の時代を経て、現代に至るまでの町の移り変わり や、その時代の様子、地形を知ることにありました。

調査の方法は、同地区に在住する130人の承諾を得て、家と家の間、庭 の片隅に1m四方の調査区を設けるものであり、全道的には初めてともい える調査です。場所によっては、2.5mほどの深さまで掘り下げないと、 昔の人たちが生活していた面まで至らない箇所もあったようです。

その結果、縄文から勝山館時代、江戸時代に至る遺構、遺物が発見され、 長年にわたり、人々の営みがあつたことがわかりました。

また今年度、大潤地区の国道より海側の並びの向井啓吉氏から、住宅の 新築計画と調査への協力の申し出があり、緊急調査を行ったところ、中世 から近世に至る遺構、遺物が検出され、多大な成果を収めました。 これらの調査を進めるにあたり、ご協力をいただきました向井啓吉氏をはじめとした字上ノ国、字勝山市街地在住の皆様、関係諸機関に深く感謝申 し上げるものであります。

平成11年3月

上ノ国町教育委員会

教育長 上野秀勝

## 本文目次

### 序

本文目次／挿図目次／表目次／写真図版目次  
例言／引用参考文献

### 字上ノ国市街地分布調査

I 調査の概要	1
II 調査	2
1. 調査区	2
2. 出土遺物の概要	22
III 小括	33

### 向井宅遺跡

I 調査の概要	34
II 遺構確認調査	34
1. 層位	34
2. 集石	39
3. 柱穴	40
4. 土壙	40
5. 出土遺物の概要	40
III 小括	54
IVまとめ	54

### 挿図目次

第1図 字上ノ国市街地分布調査テストピット位置図	3
第2図 テストピット土層堆積図他	5
第3図 テストピット土層堆積図他	6
第4図 テストピット土層堆積図他	7
第5図 テストピット土層堆積図他	12
第6図 テストピット土層堆積図他	13
第7図 テストピット土層堆積図他	14
第8図 テストピット出土遺物(陶磁器)	24
第9図 テストピット出土遺物(陶磁器)	25
第10図 テストピット出土遺物(陶磁器)	26
第11図 テストピット出土遺物(陶磁器他)	27
第12図 テストピット出土遺物(鉄製品他)	28
第13図 テストピット出土遺物(石製品他)	29
第14図 テストピット出土遺物(木製品)	30
第15図 調査区遺構配置図	35
第16図 調査区土層堆積図	35
第17図 第IV層遺構配置図	37

第18図 第VI層遺構配置図	38
第19図 土壙2・3平面図他	39
第20図 調査区出土遺物(陶磁器)	41
第21図 調査区出土遺物(陶磁器)	42
第22図 調査区出土遺物(陶磁器)	43
第23図 調査区出土遺物(陶磁器)	44
第24図 調査区出土遺物(陶磁器他)	45
第25図 調査区出土遺物(木製品他)	46
第26図 調査区出土遺物(木製品)	47
第27図 調査区出土遺物(木製品)	48
第28図 調査区出土遺物(木製品他)	49
第29図 調査区出土遺物(石製品他)	50

### 表目次

表1 テストピット土層堆積表	11
表2 テストピット土層堆積表	15
表3 テストピット土層堆積表	16
表4 テストピット土層堆積表	17
表5 テストピット土層堆積表	18
表6 テストピット土層堆積表	19
表7 テストピット土層堆積表	20
表8 テストピット土層堆積表	21
表9 テストピット土層堆積表	22
表10 遺物観察表(鉄製品他)	23
表11 遺物観察表(陶磁器)	31
表12 遺物集計表(陶磁器)	32
表13 遺物集計表(鉄製品他)	32
表14 第3・4グリッド南北セクション 東壁土層(A~A')	36
表15 第2・4グリッド東西セクション 北壁土層(B~B')	36
表16 遺物観察表(陶磁器)	51
表17 遺物観察表(鉄製品他)	52
表18 遺物集計表(陶磁器)	53
表19 遺物集計表(鉄製品他)	53

### 附図1 時代別遺物出土テストピット位置図 (縄文・擦文・中世)

### 附図2 時代別遺物出土テストピット位置図 (近世前期・中期)

### 附図3 時代別遺物出土テストピット位置図 (近世後期)

## 写真図版

- PL. 1 字上ノ国市街地分布調査遺構検出状況
- PL. 2 字上ノ国市街地分布調査土層堆積状況
- PL. 3 向井宅遺跡遠景・遺構検出状況
- PL. 4 向井宅遺跡土層堆積状況
- PL. 5 字上ノ国市街地分布調査出土遺物
- PL. 6 向井宅遺跡出土遺物
- PL. 7 字上ノ国市街地分布調査遠景・柱穴検出状況
- PL. 8 字上ノ国市街地分布調査遺物・遺構検出状況
- PL. 9 字上ノ国市街地分布調査土層堆積状況
- PL. 10 字上ノ国市街地分布調査土層堆積状況・向井宅遺跡遠景
- PL. 11 向井宅遺跡遺構検出状況
- PL. 12 向井宅遺跡遺構検出状況
- PL. 13 向井宅遺跡遺構検出状況
- PL. 14 向井宅遺跡遺物検出状況
- PL. 15 字上ノ国市街地分布調査出土遺物
- PL. 16 字上ノ国市街地分布調査出土遺物
- PL. 17 字上ノ国市街地分布調査出土遺物
- PL. 18 字上ノ国市街地分布調査出土遺物
- PL. 19 字上ノ国市街地分布調査出土遺物
- PL. 20 字上ノ国市街地分布調査出土遺物
- PL. 21 字上ノ国市街地分布調査出土遺物
- PL. 22 向井宅遺跡出土遺物
- PL. 23 向井宅遺跡出土遺物
- PL. 24 向井宅遺跡出土遺物
- PL. 25 向井宅遺跡出土遺物
- PL. 26 向井宅遺跡出土遺物
- PL. 27 向井宅遺跡出土遺物
- PL. 28 向井宅遺跡出土遺物
- PL. 29 向井宅遺跡出土遺物
- PL. 30 向井宅遺跡出土遺物
- PL. 31 向井宅遺跡出土遺物
- PL. 32 字上ノ国市街地分布調査出土遺物

## 例 言

1. 本書は平成9年度に実施した字上ノ国詳細遺跡分布調査事業及び平成10年度に実施した向井宅遺跡の緊急発掘調査について概要をまとめたものである。
2. 発掘調査の体制は次のとおりである。

調査主体者 上ノ国町教育委員会  
教育長 和泉定夫（～平成9年9月30日）  
上野秀勝（平成9年10月1日～）  
指導 史跡上之国勝山館跡調査研究専門員  
東大名誉教授 石井進  
橋女子大学教授 朝尾直弘  
神奈川大学特任教授 網野善彦  
東北学院大学教授 桜森進  
東北芸術工科大学特任教授 仲野浩  
主管 上ノ国町教育委員会文化財課  
課長 松崎水穂  
課長補佐 渡部孝之  
文化財係長 齊藤邦典  
博物館整備係長 笠浪甲衛  
（～平成10年3月31日）  
博物館整備係 笠谷将人  
（平成10年4月1日～）  
博物館整備係・学芸員 松田輝哉  
臨時事務補 細川より子  
発掘担当者 齊藤邦典  
調査員 長内孝幸（平成9年5月1日～  
平成10年3月31日）  
三浦英俊（平成10年4月1日～）  
平成9年度 字上ノ国市街地分布調査  
調査補助員 竹内江美子、山崎洋子、笠谷  
奈智子  
作業員 青木千秋、浅原すみ、井越祥子  
小田川喜美子、大谷弓子、奥寺京子、川  
合芽子、川口泰子、齊藤圭子、笠浪竹志、  
杉山稻子、鈴木千春、住吉春子、田畠康  
子、沼沢園枝、八田綾子、八田揚子、藤  
田裕美、細川キヨ子、松本津枝子、目黒  
加奈子、森恵美子  
平成10年度 向井宅遺跡発掘調査  
調査補助員 竹内江美子  
作業員 青木千秋、浅原すみ、大谷弓子、  
川口泰子、笠浪竹志、鈴木千春、住吉春

- 子、松本津枝子、森恵美子
3. 本書の編集は齊藤、三浦が協議の上、次のとおり分担し、文末に分担者名を記した。

字上ノ国市街地分布調査  
I. 調査概要、II-1. 調査区、III. 小括  
：齊藤  
II-2. 出土遺物：三浦  
テストピット土層堆積表：齊藤  
遺物観察表・集計表：三浦  
向井宅遺跡  
I. 調査概要、II-2. 集石、II-3. 柱穴、  
II-5. 出土遺物、III. 小括：三浦  
II-1. 層位、II-4. 土壤、IV. まとめ：齊藤  
土層堆積表、遺物観察表・集計表：三浦  
なお出土陶磁器の肥前・唐津製品について器種、年代等の鑑定にあたって佐賀県教育庁文化財課の大橋康二氏にご教示を賜った。記述等に誤りがあれば、全て筆者の責である。
4. 採集の作成は担当者、調査員の指示により調査補助員、作業員が行った。
5. 土層の土色は「新版標準土色帳」（農林水産技術会議事務局）を、遺物の色調名は「標準色彩図表A」（日本色研事業株式会社）を用い、目測で比定した。
6. 本書に掲載の調査時の写真は齊藤が、遺物写真は三浦が撮影した。
7. 本書に掲載の各遺跡の調査及び本書の作成にあたり、次の関係機関ならびに各位にご指導、ご援助賜った。御芳名を記し、厚く感謝申し上げる。

文化庁記念物課 小林克 板井秀弥、佐賀県教育庁文化財課 大橋康二、北海道教育庁文化課 木村尚俊 種市幸生 千葉英一 石栗正 清水孝幸 藤原秀樹、青森県教育庁文化課 鈴木和子、檜山教育局 加藤裕 富永誠 澤田博生、富山大学 宇野隆夫 前川要、  
神奈川大学短大部 田島佳也、愛知県陶磁資料館 楠崎彰一、佐賀県立九州陶磁文化館  
家田淳一、八戸市博物館 佐々木浩一 大野寧、市立函館博物館 長谷部一弘、北海道埋蔵文化財センター 佐藤和雄 田口尚 田中哲郎 三浦正人、市浦村教育委員会 柳原

滋高、堺市埋蔵文化財センター 島谷和彦、  
青森県埋蔵文化財センター 坂本真弓、瀬戸  
市埋蔵文化財センター 藤沢良祐 金子健一、  
愛知県史編纂室 城ヶ谷和広、東北町教育委  
員会 長内孝幸 田中寿明、千歳市教育委員会  
豊田宏良、南茅部町教育委員会 阿部千  
春 福田祐二、乙部町教育委員会 森広樹  
藤田巧、石狩市教育委員会 石橋孝夫、江別  
市教育委員会 野中一宏 稲垣和幸 佐藤一  
志、伊達市教育委員会 青野友哉 小島朋夏、

松前町教育委員会 久保泰、平取町教育委員  
会 森岡健治 長田佳宏、泊村教育委員会  
田部淳、虻田町教育委員会 角田隆 角田弥  
生、奈良大学 橋口亘、豊原熙司

8. 字上ノ国市街地分布調査及び向井宅遺跡の調  
査の実施にあたっては、土地所有者である向  
井敬吉氏はじめ字上ノ国・勝山市街地の皆  
さんから多大の御理解と御協力を頂戴しまし  
た。御迷惑をおかけしたことをお詫び申し上  
げ、併せて深く感謝申し上げます。

### 引用参考文献

- 『上ノ国村史』 1956年 松崎岩德  
『松前町大津遺跡発掘報告書』 1974年 松前町  
教育委員会  
『榮浜』 1983年 八雲町教育委員会  
『国内出土の肥前陶磁』 1984年 佐賀県立九州  
陶磁文化館  
『館崎遺跡』 1985年 福島町教育委員会  
『肥前地区古窯跡調査報告書 第2集 百間窯・  
横口窯』 1985年 佐賀県立九州陶磁文化館  
『上ノ国漁港遺跡 -昭和58・60年度発掘調査報  
告書-』 1987年 上ノ国町教育委員会  
『日本の人形』 1988年 堺市博物館  
『伊万里市文化財調査報告書第27集 瓶屋窯跡・  
瓢箪窯跡・餅田窯跡』 1989年 伊万里市教育委員会  
『特別史跡 五稜郭跡』 1990年 函館市教育委  
員会  
『16世紀末から17世紀前半における中国製染付碗・  
皿の分類と編年の予察』『関西近世考古学研究I』  
1991年 上田秀夫  
『佐賀県有田町 谷窯跡の発掘調査』 1992年  
有田町教育委員会  
『考古学ライブラリー-55 肥前陶磁』 1993年  
大橋康二  
『瀬戸市史陶磁史篇四』 1993年瀬戸市史編纂委  
員会  
『美濃窯の焼き物』 1993年 多治見市教育委員会

- 『概説 中世の土器・陶磁器』 1995年 中世土  
器研究会  
『円筒土器下巻式図録集』 1995年 南北海道考  
古学情報交換会  
『特別史跡朝倉氏遺跡発掘調査報告書I~V』  
1979~1996年 福井県教育委員会 福井県立一乗  
谷朝倉氏遺跡資料館  
『財瀬戸市埋蔵文化財センター 研究紀要 第  
5輯』 1997年 財團法人 瀬戸市埋蔵文化財セ  
ンター  
『波佐見町文化財調査報告書第4~9集 波佐見町  
内古窯跡群調査報告書』 1993~1997年 波佐見町  
教育委員会  
『14~16世紀の青磁碗の分類』『貿易陶磁研究  
No.1-No.5(合本)刻版』 1998年 上田秀夫  
『14~16世紀の白磁の形式分類と編年』『貿易陶  
磁研究 No.1-No.5(合本)復刻版』 1998年 森田  
勉  
『15、16世紀の染付碗、皿の分類とその年代』  
『貿易陶磁研究 No.1-No.5(合本)復刻版』 1998  
年 小野正敏  
『日本出土銭叢覧』 1996年 兵庫埋蔵銭調査会  
『史跡上ノ国勝山館跡I~XIX』 1980~1998年  
上ノ国町教育委員会  
『原歌遺跡S地点』 1998年 上ノ国町教育委員会



# I 字上ノ国市街地分布調査概要

## 1. 調査

### (1) 調査経緯

以前からこの上ノ国町字上ノ国地区では米沢屋敷、笹浪屋敷、久末屋敷等15世紀～近世にかけての遺物、遺構が数多く発見されており、15世紀～16世紀後半に位置される史跡上ノ国勝山館跡時代～近世に至る町場がこの地区に形成されていたのではないかといううことで調査を行った。

この町内の分布調査は当初平成8年度からの予定であったが、平成8年度には米沢屋敷、久末屋敷遺跡等の調査があったため、実質的には平成9年度に調査が行われた。

調査予定地点はこの集落内を実際に歩き、約180箇所を想定した。調査予定地点は各家の玄関横、軒下、家と家の間、裏の敷地等である。

しかし調査地点の約95%が民有地のため、各家の敷地で調査を行いたい旨の承諾をもらいに歩いたところ、約140箇所の調査箇所となった。

### (2) 調査方法

調査は平成9年9月中旬～11月上旬までの約30日間で約150m<sup>2</sup>行い、この集落の西側の通称大洞地区から川尻地区へ順次調査区を移動していった。

調査区は約140箇所で、それぞれ1m×1m～1.5mのテストピット（以下TPと略）の調査である。

調査方法は各TPにてまず近現代の盛土を除去後、まず近世のKO-dかOS-aの火山灰を目指してひたすら掘り下げ、近世の面からは出土する遺物及び壁面の土層堆積状況、掘り下げた面が自然堆積か人為的堆積か、また柱穴その他の遺構の有無を平面的及び壁面の観察を行い、平面的に確認できた場合は移植ゴテにて調査を行い、実測、写真撮影等を行った。遺物は盛土出土のものはそのまま取り上げ、それ以下の土層では調査区の近くに標高を示す地点がない場合が殆どだったので、地表面からのマイナスで示し、層位は土層の土色および組成を遺物カードに記した。各調査区の調査終了後、壁面の土層堆積状況を実測、写真撮影を行った。

### (3) 調査経過

9月中旬 調査開始  
大洞地区TP調査

10月上旬 TP18～22区にて近世整地面上にて柱穴確認。その内18、29、21区にて中世整地面上の柱穴及び同層出土美濃皿ほか中世陶磁器検出。重文旧筆浪家横TP26にて胎土目唐津皿多量に検出。TP28にて近世整地面上に柱穴確認。

10月中旬 集落中央部分の地区を調査。近世、整地面が殆どない状況である。特に中世の整地面は確認出来なかった。

10月中旬～下旬 集落中央部分～川尻地区中通り付近を調査。川尻地区中通りに入していくに従ってTPから調査中に激しい湧水に見舞われ、バケツを使用して水を汲み出しながらの調査となる。遺物は近世のものが多い。

10月下旬～11月上旬 川尻地区の奥及び国道沿いを調査。各TPでは湧水が激しく、基盤、あるいは無遺物層まで掘り下げられない箇所もあった。遺物は少なくなってきた。字勝山地区山裾付近では途中まで掘り下げるとガスが噴出している箇所もあり安全確保のため基盤まで掘り下げることを中断した箇所もあった。

### (4) 基本層序

上ノ国市街地において大洞地区での上ノ国漁港周辺、国道沿いでは山側と海側、上ノ国市街地中心部、川尻地区、字勝山地区等海側、山側等土層の堆積がかなり異なり、一概に標準的な土層堆積はない。尚各地区において存在しない層が多々あるがTP全体において確認された層は概ね以下のとおりである。

盛土層 近現代において家屋の敷地内や道路の整地盛土層である。箇所によって堆積の厚さは異なる。

I層 旧表土層 近現代整地盛土前の旧表土自然堆積層 近現代伊万里碗、皿等出土  
OS-a 火山灰層と思われるもの 1741年降灰の渡島大島火山灰層と考えられ、土層内に斑点状に堆積する。堆積のないTPが95%以上を占める。  
KO-d 火山灰層 1640年代降灰の駒ヶ岳D火山灰層。土層内に純層で10～15cmの厚さで堆積する。主に集落中央部分山側の近現代まで沼地等低湿地だった箇所のTPにおいて確認されている。

堆積のない箇所が60%を占める  
近世整地盛土層 KO-d火山灰層の前後にロード

ム、基盤礫（基盤を構成する岩盤の剥離したもの）等で堅致に整地した層。近世伊万里碗、皿、唐津皿擂鉢等近世陶磁器多量出土。  
中世整地層 ローム、基盤礫（基盤を構成する岩盤の剥離したもの）等で堅致に整地した層。美濃碗、皿、中国青磁、白磁、染付出土。

B T - m 10世紀朝鮮白頭山噴出火山灰  
縄文層 縄文晩期上ノ国式が大洞地区～集落中央部分海側TPから、縄文前期円筒下層式が川尻地区から出土。  
砂 無遺物層 TP 設定箇所海側に存在する。  
ローム 基盤

（齊藤邦典）

## II 調査

TP 1～3（土層堆積状況は第2図TP 1～3、位置は第1図）集落中央部分山側清淨寺敷地内である。土層堆積状況はいずれも近現代盛土層の下にプライマリーな状態の自然堆積層がある。I層は近現代の旧表土層。II層には灰色火山灰が斑点状に堆積しており、OS-aかと思われ、この層は近世の時代と考えられる。3の上面には黄褐色火山灰（BT-m）の堆積があり、この層は10世紀前後と考えられる。4から縄文時代後期の土器が出土している。TP 2ではIIからの掘りこみの掘り方を持った柱穴が壁面にて観察されており、近世18世紀代にこの付近に建物があった。場所的には国道から清淨寺へいく参道の脇である。

TP 5（土層堆積状況は第1図TP 5、位置は第1図）現国道に面した箇所で清淨寺の向いにある。土層堆積はやはり近現代盛土層の下にプライマリーな堆積が見られる。堆積状況はTP 1～4と同じである。95点の遺物が確認されており、近世唐津袋物、甕が多い。

TP 7（土層堆積状況は第2図TP 7、位置は第1図）大洞地区的民家の庭先での調査。土層堆積は遺物からみるとTP 7の3の下部まで近世陶磁器が出土しており、P 1は近世の時期のものと考えられる。またその下部の5はローム質の土壤に玉砂利、基盤礫の含有が多く、しっかりした整地面と考えられ、その面に平面図（第2図土層堆積図）で見られるように多数の掘り方をもつ柱穴や、小ピットが存在する。この面から擦文土器が出土しているが、近世陶磁器も混入することから近世の時期の整地層と考えられる。

ここは最下部基盤までは土層の堆積がすべて人为的堆積によるものであり、旧地形の上に整地を繰り返し行い、現在に至っていると考えられる。

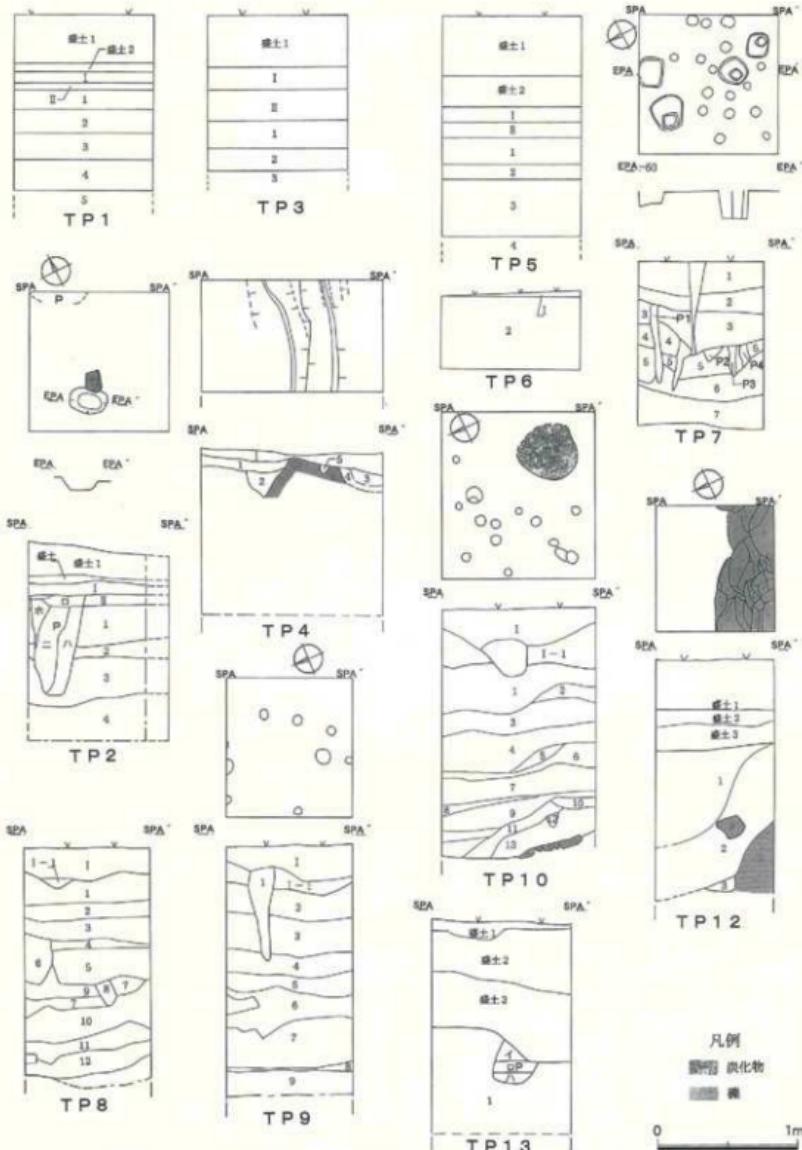
TP 8～10（土層堆積状況は第2図TP 8～10、位置は第1図）大洞地区的漁港へ至る道路に面し

た畠地である。TP 8の土層堆積では3回のしきりした整地面が確認されている。しかしそのうち2は近世～近代までの遺物のばらつきが激しく近現代整地層であると考えられる。しかし9のロームと基盤礫で構成されているしっかりした層からは近世陶磁器ではなく、中世中国白磁皿等が出土しておらず近世～中世の時期の生活面と考えられる。その下の層からは擦文土器の出土がある。TP 9の土層堆積でも5の面から近世伊万里が出土し近代がまったく混入しないところから、5は近世の整地面と考えられる。8、9の自然堆積層からは擦文土器が出土しており、プライマリーであることから擦文層である。TP 10の土層堆積においても地表面から-100の面で近世整地層があり、平面的にはこの面で小ピット、炭化物集積（第2図土層堆積図）が確認されている。これらのことからこのTP 8～10においては擦文、中世、近世と3時期にわたり人為的痕跡が認められた。

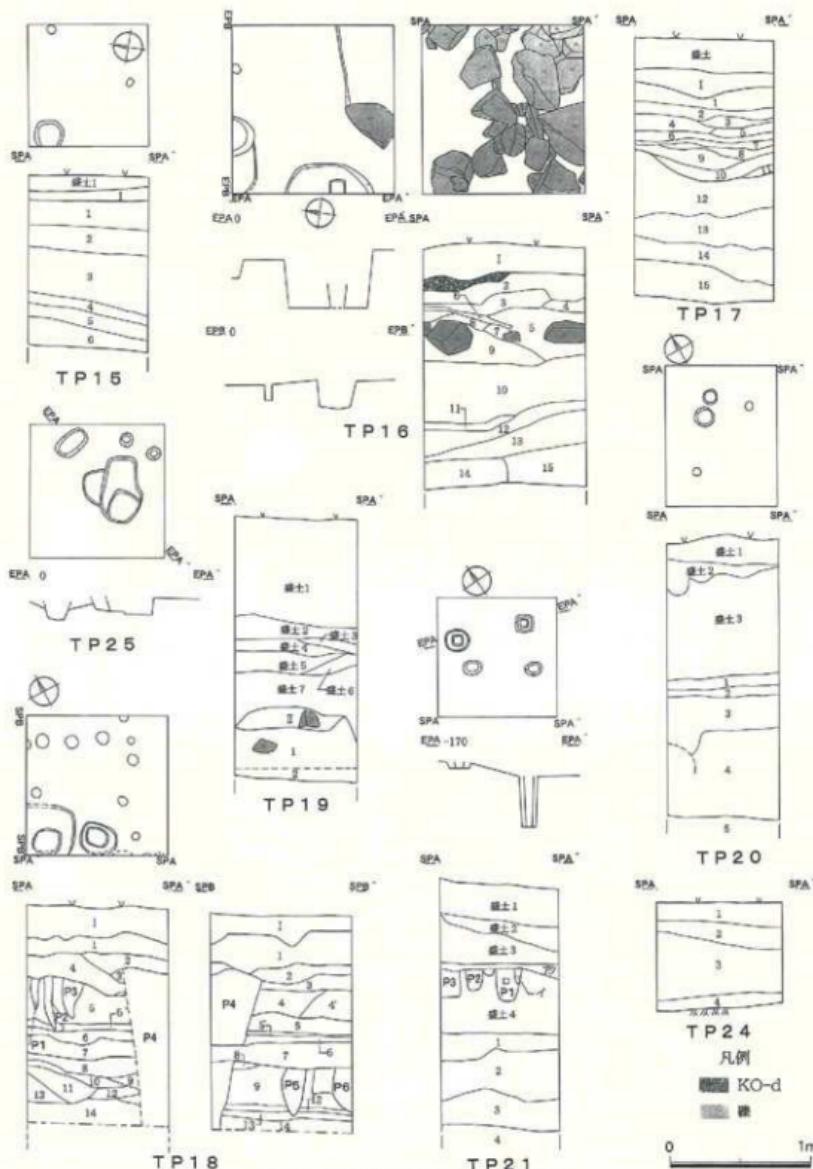
TP 12（土層堆積状況は第2図TP 12、位置は第1図）土層堆積は2から近世前半～後半の陶磁器が出土している。1からは近世のほかに近代の陶磁器も混ざっており、1は近代の時期である。最下部の石積みはこれらからすると2及び石積みは近世のものと考えられる。石積みはかなり大きい円礫でしっかり組まれており、人工的な構築物で石垣と考えられる。

TP 13、15、17（土層堆積状況は第3～4図TP 13、15、17位置は第1図）TP 13は上ノ国八幡宮境内の奥である。近現代の工事によりかなり搅乱を受けており、近現代以前の生活面は残されていない。TP 15の土層堆積は3以降7までは山からの土砂流れ込みによる自然堆積。2の面で中世白磁皿出土。整地面の形成はない。TP 17の土層堆積も15と同様、9から下の層は砂粒砂礫層であり、やはり山からの土砂流れ込みによる自然堆積層で

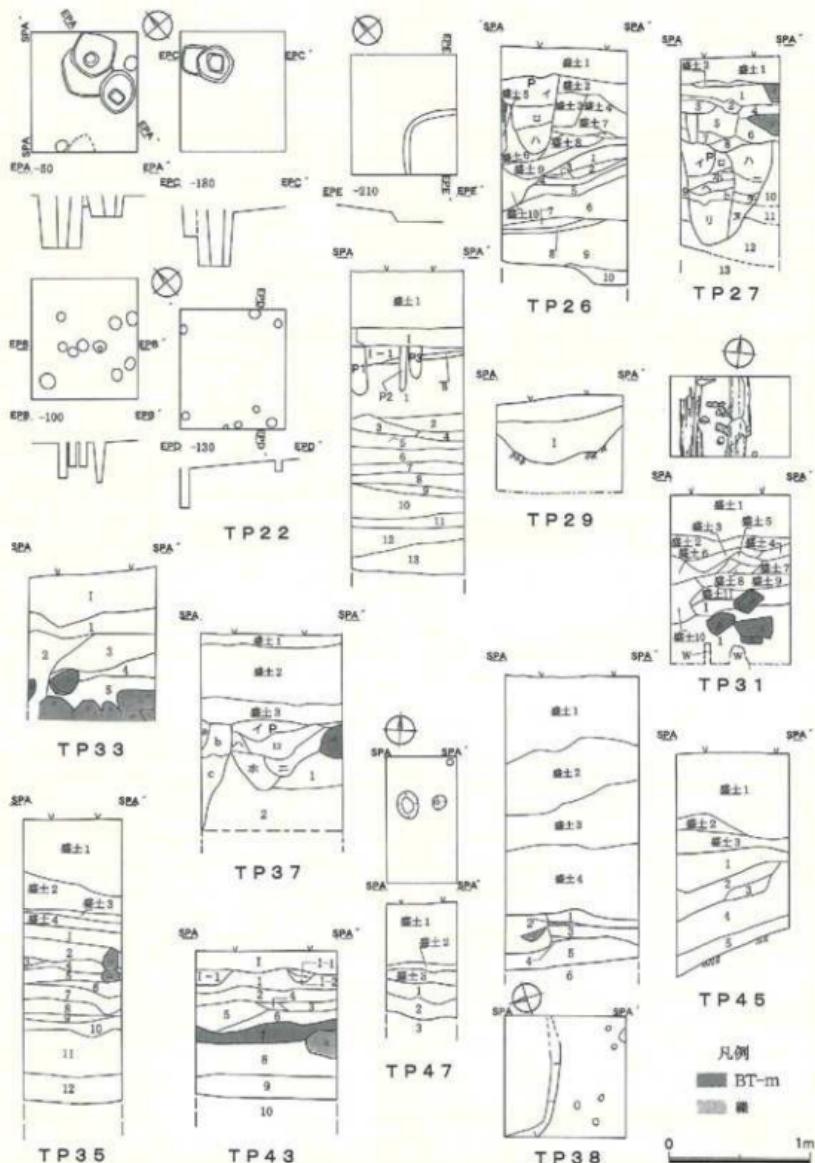




第2図 テストビット土層堆積図他



第3図 テストピット土層堆積図他



第4図 テストピット土層堆積図他

ある。尚1、2、3付近からは近世後半伊万里が出土しており、自然堆積層であることから、この面が近世後半の時期と思われる。従ってこの9以下の層は近世後半以前の層となりそれ以前の時期に山からの多量の砂礫の流入があったと考えられる。

T P 16（土層堆積状況は第3図TP 16、位置は第1図）土層堆積は基本的には最下層から1のKO-d面までは整地面ではなくすべて自然堆積であり、それも山からの水流による砂、砂礫層が殆どを占める。特に5～9の時期においてはTP 16平面図において見られるようにかなり大きな礫が裏の山の斜面から落ちてきているようである。遺物も少量である。これらTP 15～17はいずれも山側に立地しているため、近世後半以前においては、水流による土砂、砂礫の流れが激しく整地面は見当たらず、遺物も皆無である。

T P 19（土層堆積状況は第3図TP 20、21、位置は第1図）土層堆積は1から小破片ながら近世前半～後半の肥前、唐津の碗、皿が多量に出土しており近世の自然堆積層である。

T P 20、21、22（土層堆積状況は第3図TP 20、21、位置は第1図）漁港へ行く現在の道路と旧道の間の畑地である。TP 20の土層堆積は4が基盤礫と砂礫の整地面であり、ここから16世紀後半美濃大黒皿、佐賀県浜玉町山瀬窯の1580～1590年代の肥前薬灰釉ぐい呑み（註1）が検出されておりこの面が16世紀後半～末葉の面である。さらに3の自然堆積面は近世前半の唐津皿等が出土しており、近世前半の層である。TP 21は小破片ながら3の面で近世肥前碗出土。TP 22はIIに灰色火山灰がシルトの中に含有されており、これがKO-dか。3の面、7の面の自然堆積面、12の整地面において柱穴確認。遺物が12の層から出土しないため時代は不明であるが周囲の調査区の状況から近世～中世の柱穴の可能性が高い。

T P 24、25（土層堆積状況は第4図TP 24、25、位置は第1図）いずれも重文旧笠浪家前のテストピット。土層堆積はいずれもシルト層ではなく基盤砂礫層のみである。特に25はその堆積も殆どなく、基盤に至る。しかし第1図で見られるように柱穴の残存部と思われる深さ10cm程の落ち込みが見られた。

T P 26（土層堆積状況は第4図TP 26、位置は第

1図）旧笠浪家横の調査区である。土層堆積は1以下の比較的腐植の発達した面上に基盤砂礫、シルトの混層により盛土整地（盛土1～10）されている。この盛土整地層には10YR 8／2灰白の火山灰が盛土3～盛土10で霜降り状に多量に混入されている。この火山灰が2面からは柱穴が掘りこまれている。旧笠浪家に関連する柱穴と考えられる。また6が近世前半1580年代～1610年代の胎土目唐津皿（第8図5～7、9）出土層であり、これが近世前半自然堆積層である。尚1以下の自然堆積層には所々に細粒砂が堆積しており、水の流れがあったことがわかる。

T P 27（土層堆積状況は第4図TP 27、位置は第1図）国道より山側の民家の玄関横の調査区。土層堆積は5の面に整地面があり、近世肥前碗、皿の出土から近世中半～後半の時期の整地面と考えられる。またこの柱穴はやはりあまり時期差のない近世の時期ものと考えられる。

T P 29（土層堆積状況は第4図TP 27、位置は第1図）国道より山側の調査区で、家と家の間の小路。TP 27よりさらに山側に位置する。遺物、遺構、包含層は全くない状況である。

T P 31（土層堆積状況は第4図TP 31、位置は第1図）調査区は国道より海側の家の並びで、家と家の間である。土層堆積状況をみるとかなりの盛土整地を行い、現在の町並みを作り出している。I層の下の1からは近世の肥前碗、皿が出土しており、近世の層である。従って、最下部の木製品は近世の時期と考えられる。この木製品は中央部分が抉られた状態で、左右両サイドはほぼ直角に立ち上がっており、磯舟のような形状を呈する。さらに南北に伸びるようであるが、約1m四方の調査区のため全貌は不明である。

T P 33（土層堆積状況は第4図TP 33、位置は第1図）TP 29と同様国道より山側の家並みの裏手の畑地であり、山の崖が迫っている。土層堆積はIは畑の耕作土である。2、3は砂粒、砂礫層であり、多量の水の流れがあったことを物語っている。4、5についてはシルトであり、5から近世陶磁器が出土している。これらTP 29や33の大溝地区的山側の土層堆積状態から見ると、家の前の調査区では近世面の遺物、遺構が見られるが、裏手には殆ど人為的痕跡が見られない。

T P 35（土層堆積状況は第4図TP 35、位置は第

1図) 国道より海側の家並みの調査区である。土層堆積は4~6に整地面が発達し、近世中半~後半の遺物が出土し(第10図36)、8の砂層の前の9、11から近世前半遺物(第9図18)、唐津胎土目皿出土。尚9、11は木質腐食土層であり、当時は低湿地の様相を呈していたと思われる。11下部からは獸骨も出土している。その下12は砂層である。

TP37、38(土層堆積状況は第4図TP37、38、位置は第1図) TP37は檜面から土壌2基が確認されている。いずれも盛土3の近現代の層の下からの掘りこみ。遺物は地表面から-70以下(盛土3より下)から近世のものが多く、この土壤は古くても近世のものと考えられる。TP38では土層は1は近世面。この面にて近世後半肥前皿、層内に層状をなす火山灰はKO-dかOS-a。土壤は1からの掘りこみである。4はBT-m。海岸に面しているためいづれも最下部は砂層であるが、縄文晩期の層である。

TP43(土層堆積状況は第4図TP43、位置は第1図) 調査区が山側のため山からの崩落土で基盤砂礫層が多い。土層堆積は5、6の面で近世遺物出土。7はBT-m。9から縄文土器。近世の整地面はない。

TP45(土層堆積状況は第4図TP45、位置は第1図) 海岸線に最も近い調査区である。土層堆積は砂主体の5の縄文層、4の自然堆積層の後、2、3の近世整地層、1の近世~近現代自然堆積層となる。胎土目唐津皿(第8図8)その他近世遺物も-80~-120cmであり、2、3からの出土である。中世遺物も出土しているが中世面は未確認。

TP46(土層堆積状況は第5図TP46、位置は第1図) TP45の隣家の裏庭。土層はかなりの擾乱を受けた状態であるが、3~10が近世整地盛土、この中で-120cmから肥前碗(第9図20)、その他近世陶磁器がいづれも-90~150cmの近世整地面から出土。11以下は砂層である。遺物は出土していない。海岸に近いため近世の時期からかなりしっかりした整地をしている。

TP47(土層堆積状況は第4図TP47、位置は第1図) 近世の肥前碗が数点出土しているがすべて排水土からのため層位は不明。1~3は自然堆積層。2の面から小ピット検出。

TP52(土層堆積状況は第5図TP52、位置は第

1図) 集落中央部、山側の低湿地である。土層堆積は6、7は沼地の状態でBT-m陥没、その後、腐食した植物繊維質がやや入る3で低湿地化、その後KO-dとなる。遺物も皆無であり、中世、近世整地層もなく現代に至り、整地して使われた箇所である。

TP53、56(土層堆積状況は第5図TP53、56、位置は第1図) 集落中央部から国道に沿って東側の山側の家並みの間の空き地である、TP52同様土層は沼地→低湿地の堆積である。プライマリーな状態で2つの火山灰層が残されている。現代以前の人の痕跡はなく遺物も皆無である。

TP58(土層堆積状況は第5図TP58、位置は第1図) 調査箇所は上ノ国町郷土館裏。土層はTP53、56と同様、沼地→低湿地の堆積である。人為的痕跡は見当たらない。現代盛土から若干の遺物あり。

TP61(土層堆積状況は第5図TP61、位置は第1図) 遺物の出土はない。整地盛土は現代に至るまでない。

TP62(土層堆積状況は第5図TP62、位置は第1図) 川尻地区の国道に面した一段低くなった畠地である。上ノ国町郷土館の国道を挟んだ向かいである。激しい湧水のため途中までしか調査できなかった。土層堆積は2までは完全な水没状態。3には水の流れがあったことを物語る細砂粒が堆積する。KO-d堆積後も腐植は発達しない。その後盛土を行い畠地としている。近現代の盛土を除き、低地での自然堆積である。遺物は出土していない。

TP63(土層堆積状況は第5図TP63、位置は第1図) TP62の南側に隣接する畠地。TP62に比しやや海に近い位置である。やはり湧水が激しいため途中までの調査である。2の近世の斑点状の火山灰(KO-dかOS-a?)の堆積の前の4は砂質ながら腐食した植物層が混在することから近世以前は海浜植物の生えた砂浜と考えられる。2、3は白っぽい粘土質の土であり、62とはかなり違う様相を示している。水底だった可能性が強い。人為的な堆積だとすると水田として使われた可能性もある。

TP68(土層堆積状況は第5図TP68、位置は第1図) TP63のやや北東。現在小路となっている箇所。土層堆積はBT-m以下では腐植の発達し

た粘土層の後やや灰色味を帯びた粘土層が堆積しており、その中に灰色火山灰が混入している。人為的に攪乱を受けたような感じである。また2についても1の白色火山灰が混入しており同様な状態である。図では1はKO-d、3はBT-mとしたが、3は火山灰でない可能性が強い。そう考えると、2、4の人為的と考える層は江戸期以後の生活面と考えることができる。この土層が人為的だとするとやはりTP63と同様に水田等の使われ方をしていた可能性が考えられる。また1についてもKO-dではあるがプライマリーではなくブロック堆積の可能性も考えられる。

TP70（土層堆積状況は第5図TP70、位置は第1図）TP68のやや南側、現在庭として使用されている箇所である。土層堆積は4において若干の火山灰が混入したシルト層である。斑点状に堆積していることからOS-aかもしれない。それ以前の5は腐植層であり、湿地であったと考えられる。火山灰以後5、3で水没化し、I層の後盛土をし、現代に至っている。出土遺物はすべて盛土。このことから江戸時代以降、この地区は（TP62、63、68、70）付近は江戸期以降一度水没状態になり、その後整地を行い現在に至っているようである。

TP71、73、75（土層堆積状況は第5図TP71、73、75、位置は第1図）川尻地区。やはり上ノ国町郷土館の国道を挟んだ向かいの畠地。激しい湧水のため、最下層まで掘りきれなかった。土層堆積は基本的に63、68等とほぼ同じ堆積状態であるがKO-d以降、陸地化しシルトの発達が極めて良い。

TP76（土層堆積状況は第5図TP76、位置は第1図）川尻地区国道側の中通に面した箇所でTP62～75より80mほど集落中央よりである。土層堆積はこのあたりにくくると粘土層の発達がなくなりシルト層と砂層となる。近世以前は砂が発達しており、海浜の状態である。2-1、2-2の自然堆積面から柱穴の掘りこみがある。この層から近世中半～後半の肥前の皿が出土しており、近世の層である。さらに近世と思われる整地層の1-1、1-2がある。

TP77（土層堆積状況は第5図TP77、位置は第1図）川尻地区国道側の中通に面した地区。土層は2の砂層からイの土壌が掘りこまれており、覆

土に灰色火山灰が混入する。この火山灰は江戸期のものと思われ、この土壌は新しくても近世のものと考えられる。覆土、掘りこみ面からの遺物の出土はない。

TP79（土層堆積状況は第5図TP79、位置は第1図）1、2層から近世前半～後半の肥前の皿等が出土しておりこの面が近世と考えられる。最下層は砂層である。

TP81（土層堆積状況は第5図TP81、位置は第1図）川尻地区国道側の中通に面した地区で、集落中央部分である。遺物はすべて盛土から出土。全体として砂層が発達しており、1以前は海浜地帯であり、整地層等の人为的痕跡は見当たらない。1、2が近世面か。

TP85、87、91（土層堆積状況は第5～6図TP85、87、91、位置は第1図）川尻地区の2本ある中通のうち、海側の中通に面した家並みの一角である。

土層堆積はTP85は遺物からみると3から近世前半～中半の唐津皿等が出土しており、その時期と考えられる。またこの面から土壌、柱穴が掘りこまれている。TP87は遺物から2、3は近世、4は縄文層。91はやや鉄分を多く含んだ砂層からなる。遺物は皆無、現代以前に人为的痕跡なし。

TP96、99（土層堆積状況は第6図TP96、99、位置は第1図）川尻地区の海側の家並み箇所。96は旧神社跡地。土層堆積は1の黒色シルト層に灰色火山灰が斑点状に入る。この層はプライマリーであり、火山灰も降灰したままの状態と思われる。近世面。遺物はなし。P2は近世柱穴。4以下縄文層。以下砂層。99は最下層まで近代遺物が入っている。調査区中もっとも川に近い部分。もと川底。整地層はない。

TP103～105（土層堆積状況は第6図TP103、104、105位置は第1図）これらの調査区はTP96の仲通を挟んだほぼ向かい側。土層堆積は103は2の整地面から柱穴が掘りこまれているが、2から近代遺物が出土しており、近代の柱穴。それ以下の層は砂層。平面図の柱穴も時代は近代。104は1の自然堆積面から掘りこみの柱穴。1から近世中半～後半の肥前皿、皿出土。従って柱穴は近世。4の黒色砂から縄文前期円筒下層d一括土器出土。縄文層。105は1からのP3、P4の掘り込みの柱穴確認。1、3、4はシルトと砂の混層

で非常によくしまった整地面である。これらの層から近世中半～後半の肥前碗、皿が出土している。それ以下は砂層であり、この面で初めて整地をしている。またP1、P2についても同じ時代の柱穴である。これらTP103～105にはKO-d、OS-a、BT-m火山灰の堆積は見られない。

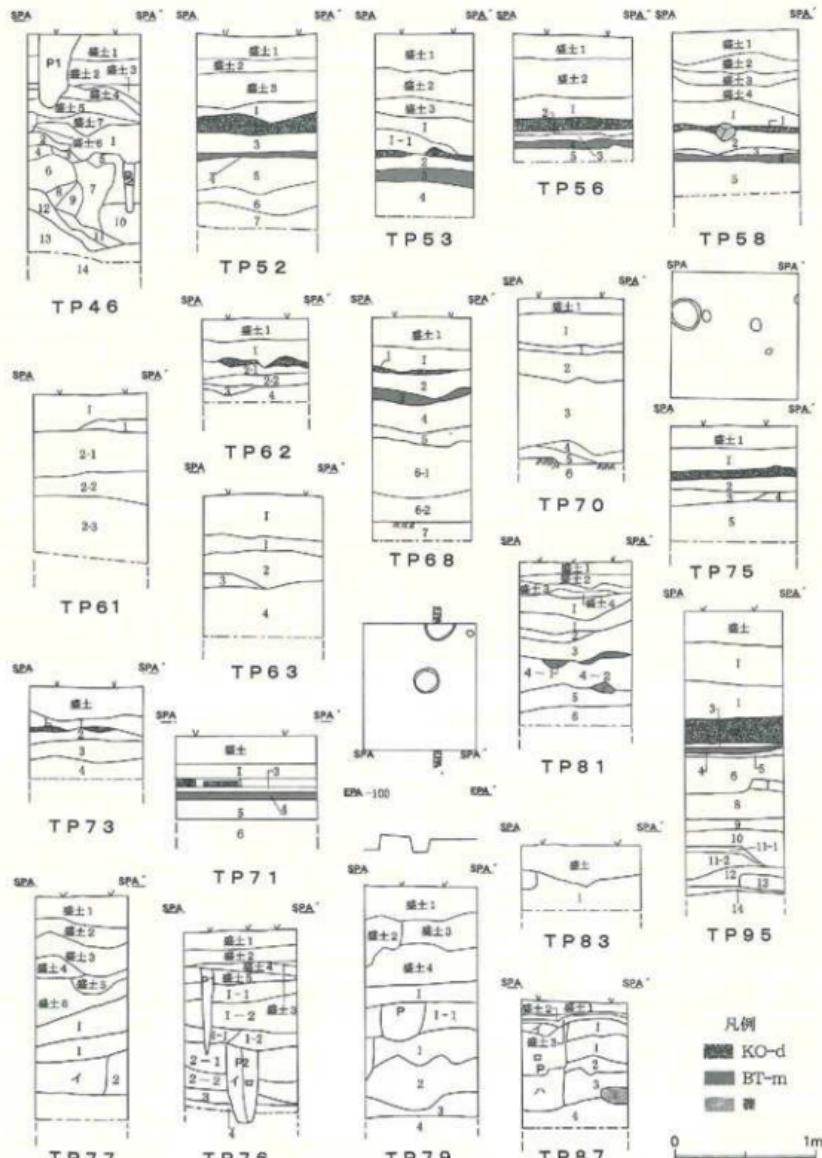
TP109、110、112、117（土層堆積状況は第6図 TP109、110、112、117位置は第1図）これらの調査区は川尻地区のもっとも東側に位置する。TP109は遺物はすべて盛土出土。土層堆積は4の面まで玉砂利と粘質土の混層。6の掘りこみの小ピット確認。6はプライマーであり、若干炭化物が入る層である。6までは基本的に粘土層で途中8、9がやや腐植の入る粘土層である。基本的には68、70と同様に水没状態であったようである。しかし、火山灰がなく遺物もこれらの層から検出されずその時代は不明である。TP110はTP68とはほぼ同様な堆積である。TP112は最下層が砂地。その後7、8の灰色粘土層の沼地底状態、5、6の腐植の発達した粘土の低湿地状態の後2、3

の黄褐色土の水底状態となり、近現代に至っている。どの層からも人為的痕跡は認められない。近現代に至り、はじめて使用された箇所と言える。TP111～115まで同様な堆積であるTP117は若干粘土層の色調は異なるが、基本的にTP111～115と同様な堆積である。これらの調査区では最下部は基本的に砂層である。

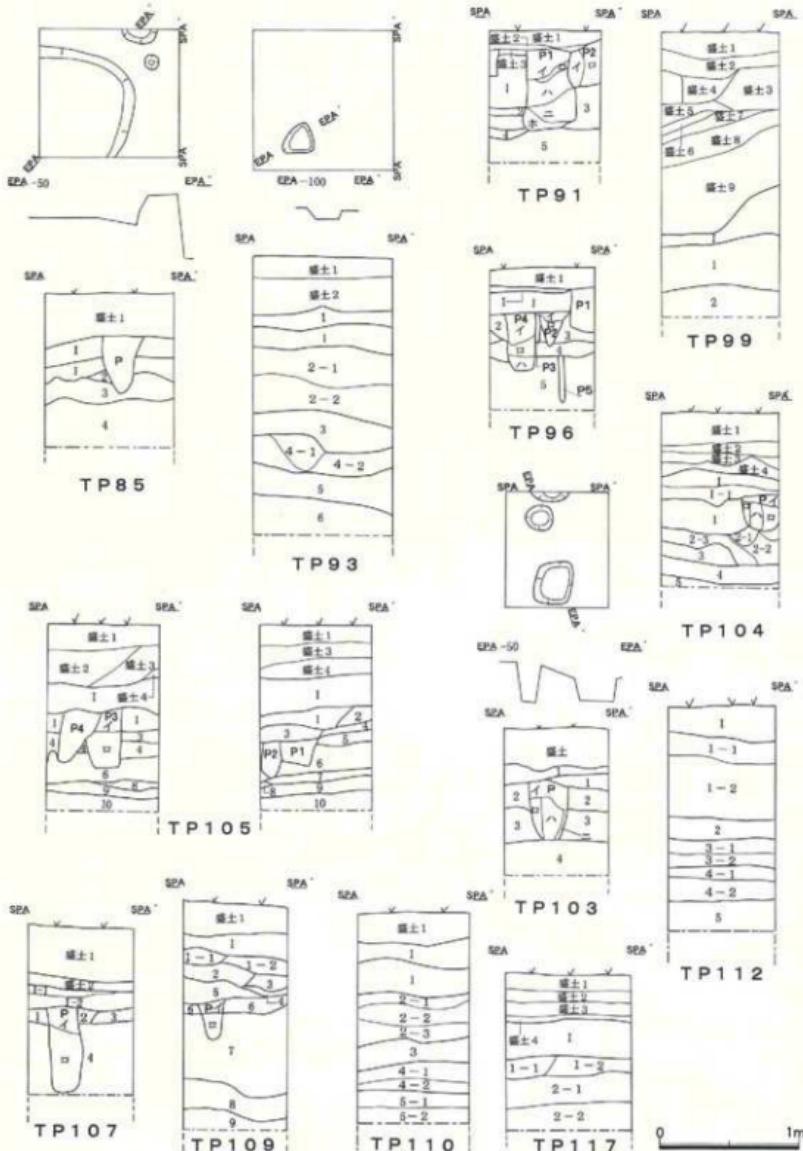
TP93、95、よし栄駐車場地点（土層堆積状況は第6図 TP93、第5図 TP95、第7図よし栄駐車場地点位置は第1図）土層堆積はTP93は3の面にて図のように浅いピットあり。3、4-1、4-2はシルトと砂の混層であり、人為的な層である。この層から遺物はなく、またKO-d等の火山灰の堆積もなく、4-1で7.5YR4/4褐色火山灰がありBT-mと考えられるが、再堆積である。平面図のピットの時期は不明。5は繩文層。最下部は砂層。TP95、よし栄駐車場地点は基本的にKO-d位までは沼地や湿地状態であり、それ以後乾燥状態になってから遺物等が出土するようになる。TP52とはほぼ同様な土層堆積である。よし栄

表1 テストピット上層地層表

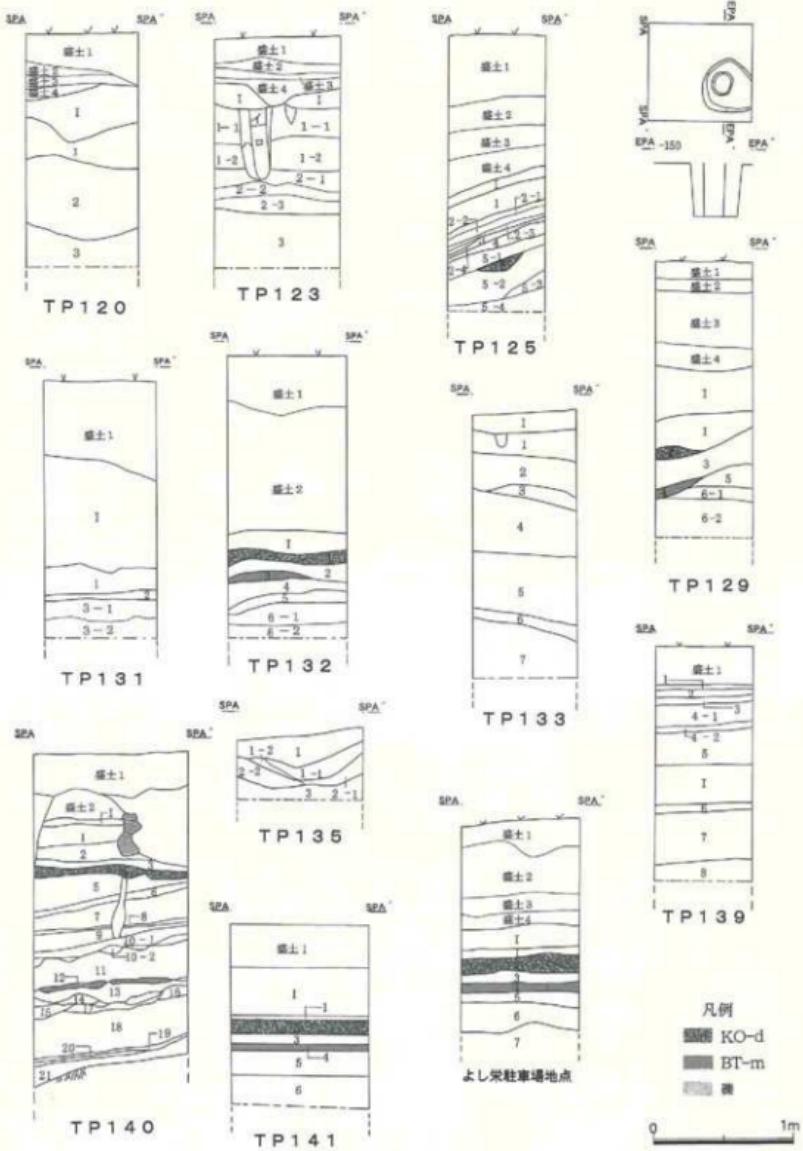
番号	前面記号	記述	土色	土性	組成	成因	参考
1		砂質	褐色	砂			
2		砂質	褐色	砂+シルト	灰色火山灰		
3		砂質	褐色	砂			やや粗
4		砂質	褐色	砂+シルト	シルト		
5		砂質	褐色	砂	黄褐色火山灰上面埋積		
6		砂質	褐色	砂	シルト	下部 遺文後期	
7		砂質	褐色	砂	シルト	シルト	
8		砂質	褐色	砂+シルト	シルト	シルト	
9		砂質	褐色	砂	シルト	シルト	
10		砂質	褐色	砂	シルト	シルト	
11		砂質	褐色	砂	シルト	シルト	
12		砂質	褐色	砂	シルト	シルト	
13		砂質	褐色	砂	シルト	シルト	
14		砂質	褐色	砂	シルト	シルト	
15		砂質	褐色	砂	シルト	シルト	
16		砂質	褐色	砂	シルト	シルト	
17	10YR4/3	にじいろ	褐色	シルト	青緑色、炭化物	やや粗	
18	10YR5/4	にじいろ	褐色	シルト	褐色、玉砂利を含む	やや粗	
19	10YR5/4-5/6	にじいろ	褐色	シルト	褐色、玉砂利を含む	やや粗	
20	10YR5/4-5/6	にじいろ	褐色	シルト	褐色、3%	やや粗	
21	10YR5/6	にじいろ	褐色	ローム質	青緑色、瓦礫	粗	
22	10YR5/6	にじいろ	褐色	シルト	青緑色	粗	



第5図 テストビット土層堆積図



第6図 テストピット土層堆積図他



第7図 テストピット土層堆積図他



表3 テストピット上層地盤

P.T	深度(位置)	DIS notation	下地	土性	組成	構造
17	15	10YR5/6	砂質土	砂質土	砂質土	やや粗
18	11	10YR3/2	風化	シルト	シルト	やや粗
土層堆積	11	10YR4/6	風化	シルト	シルト	やや粗
S.P.A.~	21	10YR3/3	砂質土	シルト	小土砂利+細礫混入 塵化物	やや粗
S.P.A.~	21	10YR3/2	風化	シルト+風化物	白色六方柱透人	やや粗
	21	10YR5/6	砂質土	シルト+風化物	大風化透水透人	やさしくやや粗
	21	10YR6/6	砂質土	シルト+風化物	風化透水透人	やさしくやや粗
五	11	10YR6/6	砂質土	シルト+風化物	風化透水透人	やさしくやや粗
	6/10YR6-7/4	明灰岩~灰岩	シルト	砂利	砂利	やや粗
	7/10YR4/2	灰岩	シルト	砂利	砂利	やや粗
	8/10YR6/3	明灰岩+砂岩	シルト	砂利+玉体	砂利	やや粗
	9/10YR6/8	明灰岩+砂岩	シルト	砂利+玉体	砂利	やや粗
	10/10YR5/3	明灰岩	シルト	砂利+玉体	砂利	やや粗
	11/10YR5/5	明灰岩	シルト	砂利+玉体	砂利	やや粗
	12/10YR5/2	灰岩	シルト	砂利+玉体	砂利	やや粗
	13/10YR6/2	灰岩	シルト	砂利+玉体	砂利	やや粗
	14/10YR6/6	灰岩	シルト	砂利+玉体	砂利	やや粗
P.T.	10/10YR4/4	明灰岩~灰岩	シルト	炭化物	粗	ビット層
P.T.	11	10YR4/4	灰岩~透	シルト	砂利	粗
西北部斜面 土層堆積	11	10YR3/3	明灰岩	シルト	SP.A.-A. 1	同じ同じ
土層堆積	11	10YR4/6	明灰岩	シルト	SP.A.-A. 1	同じ同じ
S.P.A.~	21	10YR3/2	砂質土	シルト	小土砂利+細礫混入 塵化物	やや粗 S.P.A.-A. 2と同じ
S.P.A.~	31	10YR5/2	砂質土	シルト+風化物	SP.A.-A. 3同じやや粗化物多い	
	4/10YR3/2	砂質土	シルト+風化物	白色六方柱透人	SP.A.-A. 4と同じやや粗	
	5/10YR3/2	砂質土	シルト+風化物	白色六方柱透人	SP.A.-A. 5と同じやや粗	
4	5/10YR4/4	明灰岩	シルト	砂利+玉体	SP.A.-A. 6と同じ やや粗	
	5/10YR6/6	明灰岩	シルト	砂利+玉体	SP.A.-A. 7と同じ やや粗	
5'	11/10YR6/6	明灰岩	シルト	砂利+玉体	SP.A.-A. 8と同じ やや粗	
	6/10YR6-7/4	明灰岩~灰岩	シルト	砂利+玉体	SP.A.-A. 9と同じ やや粗	
	7/10YR4/2	灰岩	シルト	砂利+玉体	SP.A.-A. 10と同じ やや粗	
	8/10YR6/3	明灰岩	シルト	砂利+玉体	SP.A.-A. 11と同じ やや粗	
	9/10YR6+10YR5/2	明灰岩+砂岩	シルト+砂利	砂利+玉体	SP.A.-A. 12と同じ やや粗	
	10/10YR6/6	明灰岩	シルト	砂利+玉体	SP.A.-A. 13と同じ やや粗	
	11/10YR6/2	明灰岩	シルト	砂利+玉体	SP.A.-A. 14と同じ やや粗	
	12/10YR6/2	明灰岩	シルト	砂利+玉体	SP.A.-A. 15と同じ やや粗	
13/II	11/10YR3/4	明灰岩	シルト	炭化物	粗	ビット層
	11/10YR3/4	明灰岩~灰岩	シルト	砂利	粗	ビット層
西北部斜面 土層堆積	21	10YR3/3	明	砂+シルト	SP.A.-A. 1	同じ同じ
西北部斜面 土層堆積	21	5/10Y5/4	明灰岩	砂+シルト	西北部 土の上層	
西北部斜面 土層堆積	31	10YR4/4	明	砂+シルト	西北部 土の中層	
西北部斜面 土層堆積	41/10Y4/5	二重土質	砂質土+粘土	西北部 土の下層		
31	11/10YR5/1	明灰岩	シルト	田波上		
西北部斜面 土層堆積	21/10YR6/6	明灰岩	高級透			
西北部斜面 土層堆積	31/10YR5/1	明灰岩	シルト			
4	4/10YR3/4	明灰岩	シルト	砂利	粗	
P.1	4/10YR3/4	明灰岩	シルト	砂利	粗	
P.2	10/10YR3/4	明灰岩	シルト+砂利	高級透 砂利+風化物		
P.3	11/10YR3/4	明灰岩	シルト+砂利	高級透 砂利+風化物		
西北部斜面 土層堆積	21/10YR4/3	二重土質	砂			
上層地盤	11/10YR4/3	二重土質	炭化物	白色火成岩混入		
	11/10YR4/3	二重土質	風化物+粘土質	火成岩混入		
	2/10YR3/4	明灰岩	シルト	生透鏡、酸化帶、次世自然地縫	西北部裏山 枝木	
	31/10YR3/4	明灰岩	シルト	酸化帶、次世自然地縫	自然地縫	
	41/10YR3/4	明灰岩	シルト	酸化帶、次世自然地縫	自然地縫 小ビット	
	5/10YR5/3	二重土質	シルト+川西端	川端		
	9/10YR5/3	二重土質	シルト+川西端	川端		
	4/10YR4/4	明灰岩	シルト	酸化物地帯	やや粗 自然地縫 小ビット	
	9/10YR6/4	二重土質	シルト	酸化物地帯	やや粗 自然地縫 小ビット	
	10/10YR6/4	二重土質	シルト	酸化物地帯 + 鮎上	粗	
	11/10YR6/4	二重土質	シルト	酸化物地帯 + 鮎上	粗	
	12/10YR4/4	明灰岩 (6.0%) + シルト (3.0%) + 塵化物 (1.0%)	シルト	炭	やや粗 植地苗 枝木	
13						
28	11/10YR5/2	明灰岩	砂利		土坑付裏山	
西北部斜面 土層堆積	21/10YR6/6	明灰岩	高級透+粘土		小ビット	
土層堆積	31/10YR5/4	二重土質	砂利		粗	
	4/10YR5/2	明灰岩	シルト		やや粗	
29	11/10YR6/4	明灰岩	シルト+高級透	炭化物 1% 高級透 1%		
	2/10YR5/4	二重土質	砂利	炭化物 1% 高級透 1%		
	10/10YR5/4	二重土質	シルト+高級透	シルト 5.0% 高級透 7.0		
	4/10YR5/2	明灰岩	シルト	砂 (5.0%) 酸化帶+次世		
	5/10YR5/2	明灰岩	シルト	砂 (5.0%) 酸化帶+次世		
	6/10YR5/3	二重土質	シルト	砂 (5.0%) 酸化帶+次世		
	8/10YR3/3	明灰岩	シルト	砂 (5.0%) 酸化帶+次世		
	9/10YR5/2	明灰岩	シルト+川西端	砂 (5.0%) 酸化帶+次世		
	10/10YR7/2	二重土質	砂利	交響り合せ+次世透鏡となる	粗	
	11/10YR7/2	二重土質	砂利+高級透	交響り合せ+次世透鏡となる	粗	
	10/10YR7/2	二重土質	シルト+高級透	交響り合せ+次世透鏡	粗	
	11/10YR5/4	二重土質	シルト+高級透	交響り合せ+次世透鏡	粗	
	12/10YR5/4	二重土質	シルト+高級透	交響り合せ+次世透鏡	粗	
	13/10YR4/2	明灰岩	シルト+高級透	交響り合せ+次世透鏡	粗	
	14/10YR5/4	二重土質	シルト+高級透	交響り合せ+次世透鏡	粗	
	15/10YR5/4	二重土質	シルト+高級透	交響り合せ+次世透鏡	粗	
	16/10YR5/4	二重土質	シルト+高級透	交響り合せ+次世透鏡	粗	
	17/10YR5/4	二重土質	シルト+高級透	交響り合せ+次世透鏡	粗	
27	11/10YR4/2	明灰岩	シルト+高級透	交響り合せ+次世透鏡	粗	
	11/10YR4/2	明灰岩	シルト+高級透	交響り合せ+次世透鏡	粗	
	11/10YR4/2	明灰岩	シルト+高級透	交響り合せ+次世透鏡	粗	



表5 テストピット土壤性質

P.T. 番号	表面層序 名	10YR4/10B 色	ト合 成	組 成	通 考
45	110YR3/2 風化	沙			
	110YR4/4 風化	沙			
P2	110YR3/3 風化	シルト	玉砂利、瓦礫混入 水堆		
47	110YR3/2 風化	沙			
西北部 土壌地帯	210YR4/2 風化	沙	よりやや粘り有		
	210YR4/4 風化	沙	粘性あり		
西北部 土壌地帯	210YR4/5 にごい風化	沙山灰	KO-d		
	110YR2/2 風化	シルト	一概な確認。10YR4/10B 大山灰 5%		
	42 2 SYR4/6 赤風化	大山灰	B1-m		
	32 2 SYR3/2 赤風化	シルト	粘性強、赤、茶、葉植物物 10% 余		
	32 2 SYR3/1 赤風化	粘土			
	32 2 SYR3/2 赤風化	粘土			
	32 2 SYR3/3 赤風化	粘土			
	53 1 10YR3/3 風化	シルト	粘性		
西北部 土壌地帯	110YR6/4 にごい風化	シルト	砂粒少、10YR6/3にごい風化大山灰		
	110YR6/4 風化	大山灰	大山灰(6%) : シルト(40%)		
	210YR2/2 風化	シルト	風化強、粘性あり		
	210YR4/2 風化	粘土	大山灰がまだらに入る KO-d		
	210YR4/4 風化	粘土			
	210YR4/5 風化	粘土			
	56 1 10YR4/3 風化	シルト	粘性少、坚硬		
西北部 土壌地帯	110YR6/3 にごい風化	シルト	砂粒少、粘性あり		
	110YR6/3 風化	KO-d			
	210YR4/2 風化	シルト			
	310YR2/2 風化	シルト	粘性あり		
	310YR2/3 風化	粘土			
	310YR4/2 風化	粘土			
	310YR4/3 風化	粘土			
	310YR4/4 風化	粘土			
	310YR4/5 風化	粘土			
	56 1 10YR4/3 にごい風化	シルト	砂粒少、粘性あり		
西北部 土壌地帯	110YR6/3 にごい風化	シルト	KO-d 砂粒多		
	210YR2/2 風化	シルト	風化強、粘性多		
	310YR2/3 風化	シルト	粘性少、風化物の多量		
	310YR4/3 風化	粘土			
	310YR4/4 風化	粘土			
	310YR4/5 風化	粘土			
	56 1 10YR4/4 風化	シルト	粘性		
西北部 土壌地帯	110YR3/2 風化	シルト	玉砂利混入 5%		
	110YR3/2 風化	シルト	玉砂利 7%		
	110YR3/2 風化	シルト	玉砂利 10%		
	110YR7/3 にごい風化	大山灰	巨土量、風化物		
	110YR7/3 にごい風化	KO-d	OS-a&s-KO-d		
	110YR7/3 ～洗流風化				
	110YR5/3 にごい風化	シルト			
	110YR5/3 風化	シルト + 粘土			
	310YR6/3 にごい風化	粘土	泥水質、やや密		
	310YR6/3 風化	粘土			
	110YR4/3 風化	粘土	粘土(不定植物)		
	110YR7/3 粘質土	粘土			
	210YR6/2 風化	粘土	10YR7/2にごい風化大山灰混入 やや粘性あり		
	310YR6/2 風化	粘土			
	410YR4/3 風化	粘土	粘土、植物質が入る		
	410YR4/3 風化	粘土	砂粒、粘性、風化物混入		
	110YR6/3 にごい風化	大山灰	KO-d		
	210YR4/4 風化	シルト	10YR6 / 2風化強大山灰		
	310YR4/6 オリーブ緑	大山灰			
	410YR5/3 風化	粘土	10YR7 / 大山灰 5%		
	410YR5/3 風化	粘土	粘土質		
	310YR5/3 風化	粘土	砂粒入り、風化物含		
	310YR5/3 風化	粘土	風化質多、少々密		
	7 SYR5/1 風化	粘土			
	70 1 10YR4/4 風化	シルト	砂粒、風化物質		
	110YR5/2 にごい風化	粘土			
	110YR5/2 風化	粘土			
	210YR5/2 風化	粘土			
	410YR5/2 風化	粘土			
	310YR5/2 風化	シルト	10YR6 / 2風化強大山灰 5%		
	67 7 SYR5/3 にごい風化	粘土			
	70 1 10YR4/3 風化	シルト	田面上		
	110YR5/2 にごい風化	シルト + 大山灰			
	210YR3/3 風化	シルト			
	42 2 SYR5/4 オリーブ緑	大山灰			
	610YR5/5 風化	粘土	且下-m?		
	610YR3/2 風化	シルト	粘性あり		
	110YR2/2 風化	シルト + 粘土	シルト質上：砂粒 5% KO-d		
	210YR2/4 にごい風化	粘土	10YR7/3にごい風化大山灰 5% KO-d		
	210YR2/3 風化	粘土			
	410YR2/3 風化	砂			
	70 1 10YR4/4 風化	シルト	砂粒、大山灰、砂利		
	110YR6/3 にごい風化	大山灰	KO-d		
	210YR4/2 にごい風化	シルト	ロード、10YR5/2にごい風化大山灰		
	310YR4/2 風化	シルト	ロード質、10YR6/3にごい風化大山灰		
	410YR2/2 風化	シルト			
	510YR4/4 風化	砂			
	70 1 - 10YR4/2 にごい風化	シルト	風化物質		
	10YR4/2 にごい風化	砂 + シルト	砂 8.0 + シルト 2.0、風化物 3%		
	10YR5/2 風化	シルト	砂 7.0 + シルト 1.0、風化物 2%		
	10YR5/2 風化	シルト	砂 7.0 + シルト 1.0m 大きな		
	10YR5/1 風化	シルト	10YR8 / 3 大山灰 2% 不ぞろ		
	10YR5/2 風化	シルト			
	310YR2/2 風化	砂			
	410YR5/4 にごい風化	砂			



表7 テストピット土壤整理表

Pit号	色調	細	成	固	
	細面層	HIS notation	土性	地質	
(6)	R-4-4	10YR2/2	砂地	シルト	砂質
	R-5	10YR2/2	砂地	砂	砂質
99	10YR2/2	砂地	砂	砂質	砂質
南北高架	10YR3/4	砂地	砂	砂質	砂質
上層地盤	210YR2/3	砂地	砂+粘土	砂質	砂質
103	10YR3/3	砂地	シルト	砂質	砂質
南北高架	10YR3/2	砂地	シルト	砂質	砂質
上層地盤	210YR2/4	砂地	シルト	砂質	砂質
	10YR2/4	砂地	砂	砂質	砂質
	10YR2/4	砂地	砂	砂質	砂質
	10YR2/3	砂地	砂	砂質	砂質
104	10YR2/3	砂地	シルト	砂質	砂質
P-1	10YR2/2	砂地	シルト	砂質	砂質
P-10	10YR4/3	（こい）黄褐色	砂+シルト	砂質	砂質
P-18	10YR3/3	砂地	シルト	砂質	砂質
P-22	10YR4/3	（こい）黄褐色	砂+シルト	砂質	砂質
105	10YR2/3	砂地	シルト	砂質	砂質
1-1	10YR3/3	砂地	シルト	砂質	砂質
1-2	10YR2/2	砂地	シルト	砂質	砂質
2-1	10YR3/4	砂地	砂	砂質	砂質
2-2	10YR4/6	砂地	砂	砂質	砂質
2-3	10YR3/4	砂地	砂	砂質	砂質
3	10YR3/4	砂地	砂	砂質	砂質
41	10YR2/3	砂地	砂	砂質	砂質
51	10YR4/6	砂地	砂	砂質	砂質
P-14	10YR3/4	砂地	シルト	砂質	砂質
P-20	10YR3/3	砂地	シルト	砂質	砂質
P-28	10YR3/3	砂地	シルト	砂質	砂質
(106)	10YR2/2	砂地	シルト+砂	砂質	砂質
南北高架	10YR2/2	砂地	シルト+砂	砂質	砂質
南北高架	317	SVR2/2	砂+粘質土	砂質	砂質
南北高架	317	SVR2/2	砂	シルト+砂	砂質
南北高架	417	SVR2/2	砂地	粘質土+砂+シルト	砂質
南北高架	517	SVR2/2	砂地	砂+粘質土	砂質
南北高架	617	SVR2/3	砂地	砂+粘質土	砂質
南北高架	717	SVR2/2	砂地	砂+粘質土	砂質
南北高架	817	SVR2/2	砂地	砂+粘質土	砂質
南北高架	917	SVR2/2	砂地	砂+粘質土	砂質
南北高架	1017	10YR4/3	（こい）黄褐色	砂	砂質
P-1	10YR3/3	砂地	シルト+砂	砂質	砂質
P-2	10YR3/3	砂地	シルト+砂	砂質	砂質
P-3	10YR3/3	砂地	シルト+砂	砂質	砂質
P-30	10YR3/3	砂地	シルト+砂	砂質	砂質
P-4	10YR3/2	砂地	シルト+砂	砂質	砂質
P-40	10YR3/2	砂地	シルト+砂	砂質	砂質
107-1	10YR3/3	砂地	砂	砂質	砂質
107-2	10YR3/2	砂地	砂	砂質	砂質
南北高架	110	10YR3/4	砂地	砂	砂質
南北高架	120	10YR4/6	砂地	砂	砂質
南北高架	130	10YR4/5	（こい）栗褐色	砂	砂質
P-1	10YR2/3	砂地	シルト+砂	砂質	砂質
P-1	10YR3/4	砂地	シルト+砂	砂質	砂質
P-2	10YR3/2	砂地	砂	砂質	砂質
109	10YR3/2	砂地	砂+砂利	砂質	砂質
南北高架	1-1	10YR3/3	砂地	砂+砂利	砂質
南北高架	1-2	10YR3/3	砂地	砂+砂利	砂質
南北高架	210YR3/2	砂地	砂+砂利	砂質	砂質
南北高架	310YR2/3	砂地	砂+砂利	砂質	砂質
南北高架	410YR3/2	砂地	砂+砂利	砂質	砂質
南北高架	510YR4/3	（こい）黄褐色	砂+砂利	砂質	砂質
南北高架	610YR4/2	砂地	砂+砂利	砂質	砂質
南北高架	710YR4/2	砂地	砂+砂利	砂質	砂質
南北高架	810YR4/3	（こい）黄褐色	砂+砂利	砂質	砂質
南北高架	910YR4/4	（こい）黄褐色	砂+砂利	砂質	砂質
P-1	10YR4/2	（こい）黄褐色	砂+砂利	砂質	砂質
P-2	10YR4/2	（こい）黄褐色	砂+砂利	砂質	砂質
110	10YR4/2	（こい）黄褐色	砂+砂利	砂質	砂質
南北高架	110	10YR4/2	（こい）黄褐色	砂+砂利	砂質
南北高架	-1	10YR4/2	（こい）黄褐色	砂+砂利	砂質
南北高架	-2	10YR4/2	（こい）黄褐色	砂+砂利	砂質
南北高架	-3	10YR4/2	（こい）黄褐色	砂+砂利	砂質
南北高架	-4	10YR4/2	（こい）黄褐色	砂+砂利	砂質
南北高架	-5	10YR4/2	（こい）黄褐色	砂+砂利	砂質
南北高架	312	SV5/1	（灰）灰	粘土	粘土
4-1	2-SV3/2	砂地	粘土	粘土	粘土
4-2	2-SV3/2	砂地	粘土	粘土	粘土
4-3	2-SV3/5	砂地	粘土	粘土	粘土
4-4	2-SV3/2	砂地	粘土	粘土	粘土
112	10YR4/3	（こい）黄褐色	砂+粘土	砂質	砂質
南北高架	-1	10YR6/8	明栗褐色	粘土	粘土
南北高架	-2	10YR5/4	（こい）黄褐色	粘土	粘土
南北高架	210YR4/4	砂地	粘土	粘土	粘土
南北高架	3-1	10YR3/2	砂地	シルト	粘土
南北高架	3-2	10YR3/2	砂地	シルト	粘土
南北高架	4-1	2-SV3/2	砂地	シルト	粘土
南北高架	4-2	2-SV3/2	砂地	粘土	粘土
南北高架	510Y4/1	（灰）灰	砂	砂	砂質
113	10YR4/6	（灰）灰	粘土	粘土	粘土
南北高架	-1	10YR5/3	（こい）黄褐色	粘土	粘土
南北高架	-2	10YR5/3	（こい）黄褐色	粘土	粘土
南北高架	-3	10YR5/3	（こい）黄褐色	粘土	粘土

P.I.T	地名	河川断面	地質	成	特
1201	110 YRS 3/4 沿岸	砂	シルト	砂利混在。JYRS 3/2 に、瓦礫大山灰岩砂	やや硬
東西北側 土質地盤	110 YRS 3/4 沿岸	砂	シルト	砂利 2.0%、瓦礫 0.5%、瓦礫ア	やや硬
117. SYR 3/3 沿岸	砂+鉄	シルト	砂利 3.0%、鐵 0.1%	-	やや硬
317. SYR 3/4 沿岸	砂+鉄+鐵	シルト	17. SYR 4/4 砂利地との混層	-	-
123. 1 10 YRS 4/3 に近い高瀬	砂	シルト	砂利地物、炭化物、砂利混在	軟	軟
123. 2 10 YRS 4/3 に近い高瀬	砂	シルト	-	-	-
123. 3 10 YRS 4/2 に近い高瀬	砂	シルト	-	-	-
123. 4 10 YRS 4/2 に近い高瀬	砂	シルト	-	-	-
123. 5 10 YRS 4/2 に近い高瀬	砂	シルト	砂利 7.0%、ローム 3.0	硬	-
P-1 4 10 YRS 4/4 高瀬	砂	シルト	-	-	-
P-1 5 10 YRS 4/4 高瀬	砂	シルト	-	-	-
P-1 6 10 YRS 4/4 に近い高瀬	砂	シルト	-	-	-
P-1 7 10 YRS 4/4 に近い高瀬	砂	シルト	-	-	-
123. 1 117. SYR 3/2 沿岸	砂	粉砂	粉砂地盤	やや硬	-
東西北側 土質地盤	117. SYR 3/3 沿岸	砂	炭化物混入、無機物少量、日光地盤	やや硬	-
117. SYR 3/5 沿岸	砂	シルト	やや粘性、無機物混入し堅地	やや硬	-
2-1 2 7. SYR 8/1 沿岸	砂	シルト	-	-	-
2-2 2 7. SYR 8/2 沿岸	砂	シルト	-	-	-
2-3 2 7. SYR 8/2 沿岸	砂	シルト	炭化物混入	やや硬	-
2-4 2 7. SYR 8/2 沿岸	砂	シルト	炭化物混入	やや硬	-
317. SYR 4/3 沿岸	瓦礫層+砂	シルト	瓦礫地盤	硬	-
417. SYR 4/2 に近い高瀬	砂	シルト	自然地盤	やや硬	-
5-1 2 5Y4/3 オリーブ色	瓦礫層+砂	シルト	自然地盤	ややソフト	-
5-2 2 5Y4/6 オリーブ色	瓦礫層+砂	シルト	ややしまりあり、自然地盤	ややソフト	-
5-3 2 5Y4/6 オリーブ色	瓦礫層+砂	シルト	自然地盤	ややソフト	-
5-4 2 5Y4/6 オリーブ色	瓦礫層+砂	シルト	瓦礫層+砂+シルト+瓦礫+くぼ状	ソフト	-
610 YRS 5/2 安養場	火山灰	シルト	KO-1	-	-
129. 1 110 YRS 3/3 沿岸	砂	粉砂	粉砂地盤	ソフト、やや硬	-
南北東北 土質地盤	110 YRS 3/2 沿岸	砂	シルト	10196.32 c.m. 瓦礫大山灰 1.0%	地盤あり、クラク、無
210 YRS 5/2 安養場	火山灰	シルト	KO-1	無	-
312. 5 Y 4/3 沿岸	砂	シルト	5Y4/3	無	-
312. 5 Y 4/3 沿岸	砂	シルト	粉砂 1.0%、且丁一層	やや硬	-
312. 5 Y 4/3 沿岸	砂	シルト	ローム質 K.O.: 粉砂地盤 2.0	無	-
6-1 2 5Y4/2 オリーブ色	シルト	シルト	-	-	-
6-2 2 5Y4/2 地場	シルト	シルト	-	-	-
131. 1 2 5Y4/2 残灰質	シルト	シルト	瓦利ヨコムダ 大 灰	無	-
南北東北 土質地盤	110 YRS 4/3 に近い高瀬	砂	粉砂地盤、細粒あり	-	-
210 YRS 6/3 沿岸	砂	シルト	KO-1	-	-
210 YRS 6/3 沿岸	砂	シルト	瓦利ヨコムダ 大 灰	無	-
45SY6/3 オリーブ色	シルト	シルト	瓦利ヨコムダ 大 灰	無	-
515Y6/2-2 オリーブ色	シルト	シルト	-	-	-
6-1 2 SYS 2/1 沿岸	シルト	シルト	-	-	-
6-2 2 SYS 2/1 沿岸	シルト	シルト	-	-	-
133. 1 117. SYR 3/3 沿岸	砂	シルト	瓦利ヨコムダ 大 灰	ややソフト	-
南北東北 土質地盤	117. SYR 3/4 沿岸	砂	砂	砂	ややハード
317. SYR 3/3 沿岸	砂	シルト	砂	砂	ハード
317. SYR 3/5 沿岸	砂	シルト	砂	砂	ハード
317. SYR 4/2 沿岸	瓦礫層	シルト+瓦礫地	瓦利ヨコムダ+シンド武	ハード	-
7110 YRS 5/2 に近い高瀬	砂	シルト	瓦利ヨコムダ+シンド武	ハード	-
8110 YRS 5/3 に近い高瀬	砂	シルト	瓦利ヨコムダ+シンド武	ハード	-
135. 1 7. SYR 3/3 沿岸	砂	シルト	瓦利ヨコムダ+シンド武	ハード	-
135. 2 7. SYR 3/3 沿岸	砂	シルト	瓦利ヨコムダ+シンド武	ハード	-
2-1 7. SYR 3/3 沿岸	砂	シルト	瓦利ヨコムダ+シンド武	ハード	-
2-2 7. SYR 4/3 沿岸	砂	シルト	瓦利ヨコムダ+シンド武	ハード	-
310 YRS 4/3 に近い高瀬	砂	シルト	シルトテラス、5 c.m. 大の種多量の入る	無	-
139. 1 110 YRS 3/1 沿岸	砂	シルト	10196.32 c.m. 瓦礫大山灰地盤	地盤	-
東西南東 土質地盤	210 YRS 4/4 沿岸	砂	粉砂	粉砂、2 ~ 4 cm 粒砂	無
210 YRS 4/4 沿岸	砂	粉砂	-	-	-
310 YRS 4/4 沿岸	砂	粉砂	粉砂	無	-
4-1 2 5Y4/6 オリーブ色	シルト	シルト	粉砂 5.0	無	堅
4-2 2 5Y4/6 オリーブ色	シルト	シルト	粉砂	無	堅
312. 5 Y 4/4 沿岸	シルト	粉砂	粉砂 4.0、2 ~ 4 cm 粒砂	無	堅
1 15YS/2 オリーブ色	シルト	シルト	瓦利ヨコムダ 1 cm ~ 5 mm 大、やや堅地あり	無	-
6-2 2 SYS 2/3 オリーブ色	シルト	シルト+シルト	5 ~ 6 cm 大の種多量 8.0%、シルト 2.0%	無	-
7-2 2 SYS 2/3 オリーブ色	シルト	シルト	-	-	-
8-7 2 SYR 3/1 沿岸	シルト	シルト	粉砂	無	-
140. 1 110 YRS 3/3 沿岸	砂	シルト+物	粉砂	無	-
140. 2 110 YRS 3/3 沿岸	砂	粉砂	1.5 褐色、下部粒子細い、下部細かい	無	-
3 110 YRS 3/3 沿岸	砂	粉砂	粉砂質	無	-
4 110 YRS 3/3 沿岸	砂	シルト	粉砂化	無	-
5 110 YRS 3/3 沿岸	砂	シルト	粉砂化	無	-
6 110 YRS 3/3 沿岸	砂	シルト	粉砂化	無	-
7 110 YRS 3/3 沿岸	砂	シルト	粉砂化	無	-
140. 1 110 YRS 3/3 沿岸	砂	シルト	粉砂化	無	-
140. 2 110 YRS 3/3 沿岸	砂	シルト	粉砂化	無	-
3 110 YRS 3/3 沿岸	砂	シルト	粉砂化	無	-
4 110 YRS 3/3 沿岸	砂	シルト	粉砂化	無	-
5 110 YRS 3/3 沿岸	砂	シルト	粉砂化	無	-
6 110 YRS 3/3 沿岸	砂	シルト	粉砂化	無	-
7 110 YRS 3/3 沿岸	砂	シルト	粉砂化	無	-
140. 1 110 YRS 3/3 沿岸	砂	シルト	粉砂化	無	-
140. 2 110 YRS 3/3 沿岸	砂	シルト	粉砂化	無	-
3 110 YRS 3/3 沿岸	砂	シルト	粉砂化	無	-
4 110 YRS 3/3 沿岸	砂	シルト	粉砂化	無	-
5 110 YRS 3/3 沿岸	砂	シルト	粉砂化	無	-
6 110 YRS 3/3 沿岸	砂	シルト	粉砂化	無	-
7 110 YRS 3/3 沿岸	砂	シルト	粉砂化	無	-

表9 テストピット土層堆積状況

P.T.	面	色調	土性	土度	地	面
番号	前面層序	115測定位置	上部	下部	標本、其質地、ローム質	
140	115-YR3/2	黒褐色	シルト	粘土	17-19灰褐色	
	115-YR3/2	灰褐色	粘土	粘土	17-19灰褐色	
	115-YR3/4	灰褐色	粘土	粘土	17-19灰褐色	
	117-YR2/1	灰褐色	シルト	粘土	17-19灰褐色	
	118-YR2/1	オリーブ	シルト	粘土	17-19灰褐色	
	119-YR2/1	オリーブ	シルト	粘土	17-19灰褐色	
トトモ	115-YR2/2	黒褐色	シルト	粘土	褐色、植物質、炭化物微量	ややソフ
佐賀盆地北東部	115-YR2/2	灰褐色	シルト	粘土	Q3-d	ソフト
佐賀盆地	115-YR2/2	灰褐色	火山灰	火山灰	KO-d	ややソフ
	115-YR2/2	灰褐色	シルト	粘土		ややソフ
	115-YR4/4	褐色	火山灰	火山灰		ややソフ
	115-YR4/2	灰褐色	粘土	粘土		ややソフ
	115-YR2/2	灰褐色	粘土	粘土		ややソフ
	115-YR2/2	灰褐色	シルト	粘土	褐色透葉、植物質多量	ややソフ
	115-YR2/2	灰褐色	シルト	粘土	植物質微量	ソフ
141	1	灰褐色	シルト			
	2	白	火山灰			
	3	黒	シルト			
	4	灰褐色	火山灰			
	5	灰	ローム質			
	6	黑		標本上層		

駐車場地点で陶磁器のほかに第11図60の1630~1640年代の肥前唐人形、(註1) 第12図70の小刀、71~74の煙管、第13図86の刀装具の鍔等バリエーションに富んでいる。

T P 120、125、129、131(土層堆積状況は第7図、120、125、129、131、位置は第1図) 調査は国道沿いの最も東側の町営住宅付近、字勝山地区。住宅の裏手はすぐ山である。土層堆積はTP 120は調査最下面まで砂礫層であり、山からの崩落土。TP 125は5の面以下は基盤粒砂礫が主体となつておらず、裏山からの崩落があったと考えられる。その後湿地状態、1で乾燥後I層となる。尚5-2上面にてKO-dと思われる江戸期火山灰あり。遺物は盛土層のみ。TP 129は6-1、6-2は低湿地状態。1、2が近世面。平面図の柱穴はB T-mとKO-dの間の3面である。この面からの遺物はない。TP 131は2のKO-d以下は低湿地。TP 127~132の箇所は殆ど現代に至るまで低湿地状態で人為的痕跡がないと考えられるが、TP 129の柱穴は例外である。

TP 133、135(土層堆積状況は第7図133、135位置は第1図) TP 137、139から東側小沢をひとつ挟んだ畠地である。土層堆積は全体に基盤粒砂礫が主体の層である。TP 133の一部に粘土質の堆積がある。山からの崩落土となる。遺物なし。

TP 141(土層堆積状況は第7図141位置は第1図) 川尻地区TP 71~73付近。TP 71~73では盛土からのみの遺物の出土であったが、ここでは火山灰上面から第14図95~99の木製品をはじめとした陶

磁器等多数の遺物の出土があった。(註1) 佐賀県教育庁文化財課 大橋康二氏からご教示を賜った。誤りは筆者の責である。

(齊藤邦典)

## 2. 出土遺物の概要

字上ノ国市街地分布調査で出土した遺物は陶磁器、金属製品、木製品、土器など総点数3,387点である。その主体を占めるのは陶磁器である。2,925点出土しており、中世後半から現代のものまでみられる。その内最も多く出土したのは伊万里で約43%、次いで唐津約11%となる。舶載製品は少なく、陶磁器全体の1.4%ほどである。また土器は縄文前期、後期、晚期、擦文時代のものが陶磁器に比して少数ではあるが見られる。

舶載品(第8図1~2) 青磁、白磁、染付が出土している。青磁、白磁は細片であったので、図示したものはないが、青磁は稲花皿、内外面無文の碗が出土している。白磁については高台に抉り込みの入る皿を中心に出土している。染付はいわゆる漳州窯系と考えられる製品(1)が多いが、筈筒底をもつ皿(2)、口縁が端反る皿もいくらか見られる。また景德鎮窯製の製品も若干含まれる。

瀬戸・美濃(第8図3) 大窓の皿を中心に出土している。3は見込を円形に輪ハギする皿で、高台内には輪ドチの跡が残る。ほかに見込に印花文を施す皿、口縁が端反る皿がみられる。

備前(第8図4) 備前のすり鉢が1点出土している。口縁端部を内面から指で押し出して片口部

を作っている。

唐津（第8図5～13）364点出土し、その内36%が皿である。次いで鉢、壺がそれぞれ23%づつ出土している。皿には胎土目をもつもの（5～9）、砂目をもつもの（10）、蛇の目に釉ハギするもの（11、12）が見られる。大皿には三鳥の技法を使ったもの（13）のほかに二彩御目文を施したもののが見られる。

肥前（第9図14～31、第10図32～46、第11図47～51、60）初期のものから近代に至るまでの製品が絶えることなく出土している。碗48%、皿32%、瓶14%であり、この3器種で9割以上を占める。60の人物は型で成形した後、頭部には薄茶色、胴部には透明な釉をかけている。底面から背面にかけて台に固定するためと考えられる穴が貫通している。図示しえなかつたが60の他に鏡軸を施した一回り大きい人物がもう一個体出土している。42と47には鉛ガラスによる接合痕が見られる。特に42の底面には「草間氏」ではないかと思われる文字が記入されており、接合に際して持ち主の名を記入したものと考えられる。他にも鉛ガラスによる接合を施したものに幕末から明治初頭のものと

考えられる瀬戸・美濃の碗が出土している。また肥前系陶器も出土しており、近世前半期のものと見られる京焼風陶器も若干見ることが出来る。

近代瀬戸・美濃（第11図52～57）近代以降に属すると考えられる陶磁器が857点出土しているが、その中で明治時代に生産されたと考えうるものを見出しました。

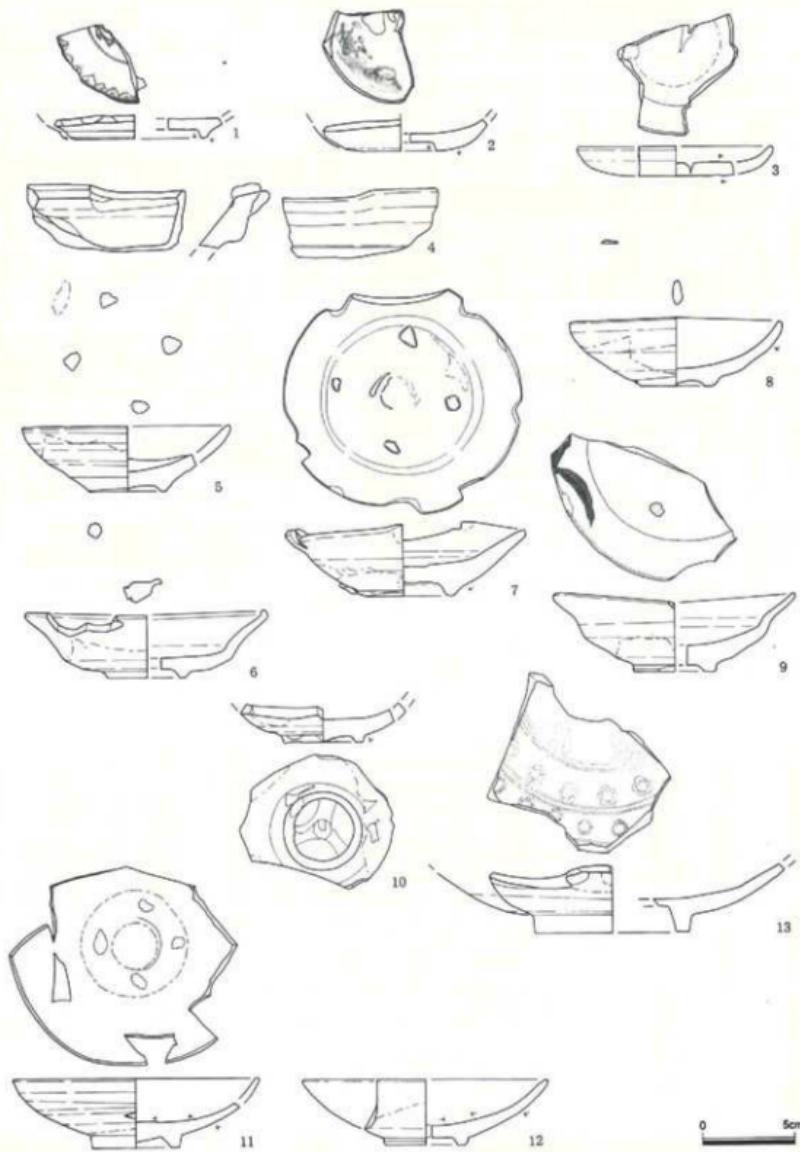
土製品（第11図61）テストピット13から素焼きの人物が出土している。頭部は欠損しているが、胴部の様子から仏像と考えられる。前面は型押しで成形し、側面と背面は器具により調整している。また下面には直径3ミリの穴が開いている。製作した時期は不明であるが、近世中期から後期にかけての遺物が出土する層位から出土しているので、恐らくその頃のものではないかと推定している。

土器（第13図91～94）繩文土器160点、擦文土器30点が出土している。94は円筒下層d1式に相当する。

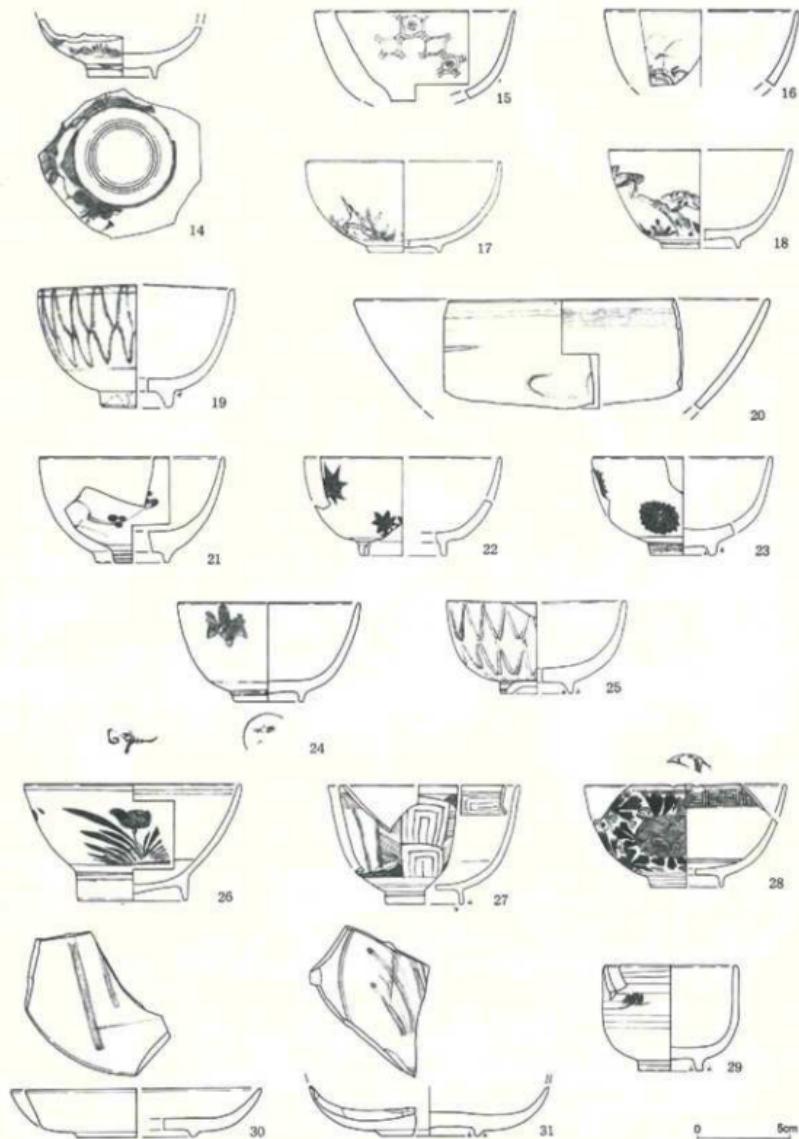
鉄製品（第11図58・59・62、第12図63～70）鉄製品は194点出土している。用途が判明しているものは129点であり、そのほとんどが釘などの建築資材である。

表10 出土遺物観察表（鉄製品他）

出土番号	種類	参考	出土TP	直径 mm	幅 mm	厚さ mm	重さ g
第12038	鉄器	平らな盤。	13	25	38	17.3	11
第12039	鉄器	丸形。	99	90	30	7	19.4
第12040	鉄器	丸形。	37	34.5	8	2	2.4
第12042	不明	複数の丸形、穴が4ヶ所開く。内1ヶ所は完全には穿孔されていない。	78	136	16	6	18.6
第12043	手鏡	鏡脚の一側を丸形。	9	100	18	9	8.2
第12044	手鏡	木片の背側。	74	128	15	9	4.3
第12045	手鏡	鏡脚を丸形。	131	58	10	5.5	99.9
第12046	手鏡	鏡脚を丸形。	91	71	7	2	12.9
第12047	手鏡	鏡脚を丸形。	20	82.5	16	2	39.9
第12048	金具	用法不明。	26	82	13.5	8	48.4
第12049	衛衣	鏡脚の端を折り曲げて作る。	よし田原家蔵	150	36	9	
第12050	刀子	刃先。	よし田原家蔵	64	3	5	2.7
第12051	修理	修理用。中に柄の一端が残る。	よし田原家蔵	21	7	10	1.7
第12052	修理	修理用。	よし田原家蔵	57	6	5	2.1
第12053	修理	修理用。	よし田原家蔵	58	9	9	3.3
第12054	修理	缺口修理。	よし田原家蔵	59	8	9	1.8
第12055	衛衣	鏡脚。	103	43	12.5	9	91.7
第12056	修理	火薬のつ裂きを修理。中に柄の一端が残る。	11	38	9.5	9.5	4.6
第12057	修理	修理用。	73	24.5	10	0.5	0.5
第12058	修理	修理用。	77	47	11	1.1	3.1
第12059	火薬盒	火薬盒。	106	24.5	1.1	2.8	
第12060	火薬盒	火薬盒。	106	22.7	1	1.8	
第12061	火薬盒	火薬盒。	27	23	1	2.2	
第12062	火薬盒	火薬盒。	28	25	1.3	3.6	
第12063	火薬盒	火薬盒。	29	23.5	2.2	4.7	
第12064	火薬盒	火薬盒。	37	29	22.5		
第12065	火薬盒	火薬盒。	よし田原家蔵	34.5	18.5	6	5.7
第12066	火薬盒	火薬盒により変形する。	2	125	37	45	
第12067	修理	修理。	27	78	60	22	
第12068	修理	修理用。鏡脚、鏡面、仕上げ面。	140	124	80	34	
第12069	修理	修理用。ナットを万能ドリルで作る。削除。	20	65	79	21	
第12070	修理	修理。	141	328	130	21	
第12071	修理	3×1両方の穴が開く。	141	372	108	105	
第12072	修理	修理。	141	334	38	25	
第12073	修理	修理。	141	462	124	9	
第12074	修理	修理に打抜き修理。	141	349	149	15	
第12075	修理	修理に打抜き修理。	51	302	42	22	
第12076	修理	本口を鋸の刃で切る。	51	226	92	22	



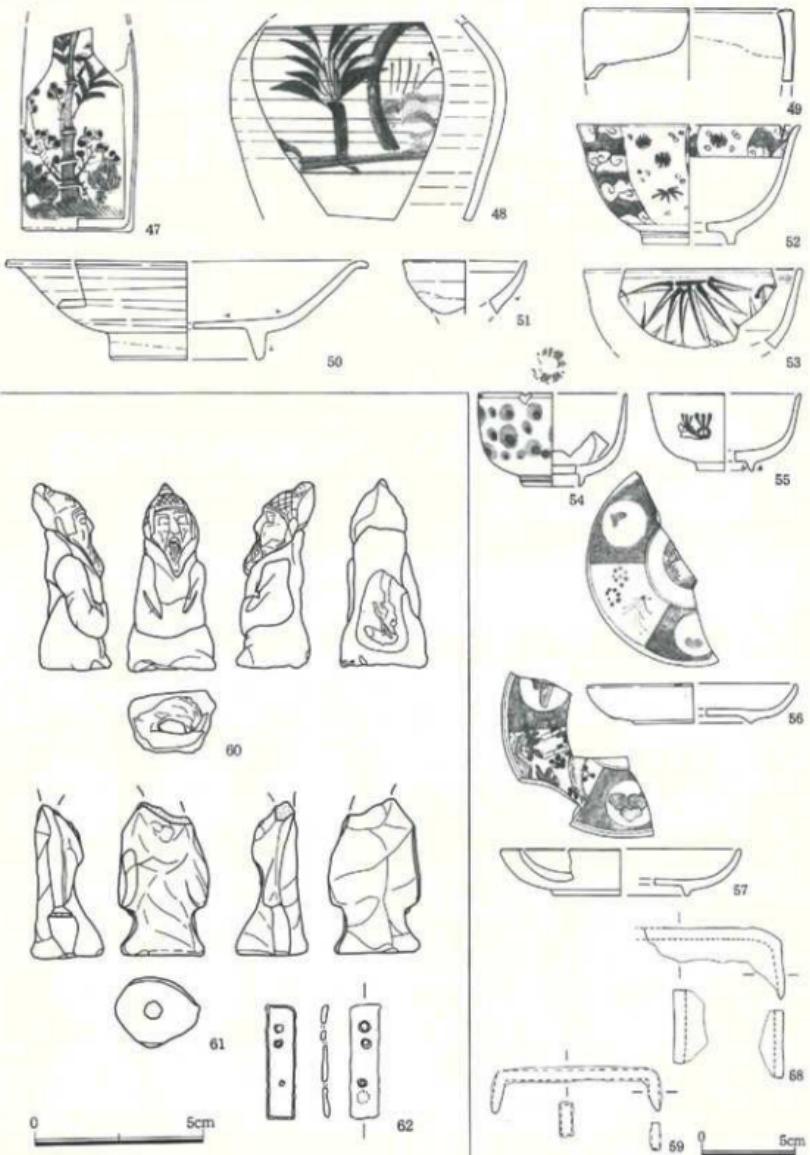
第8図 テストピット出土遺物



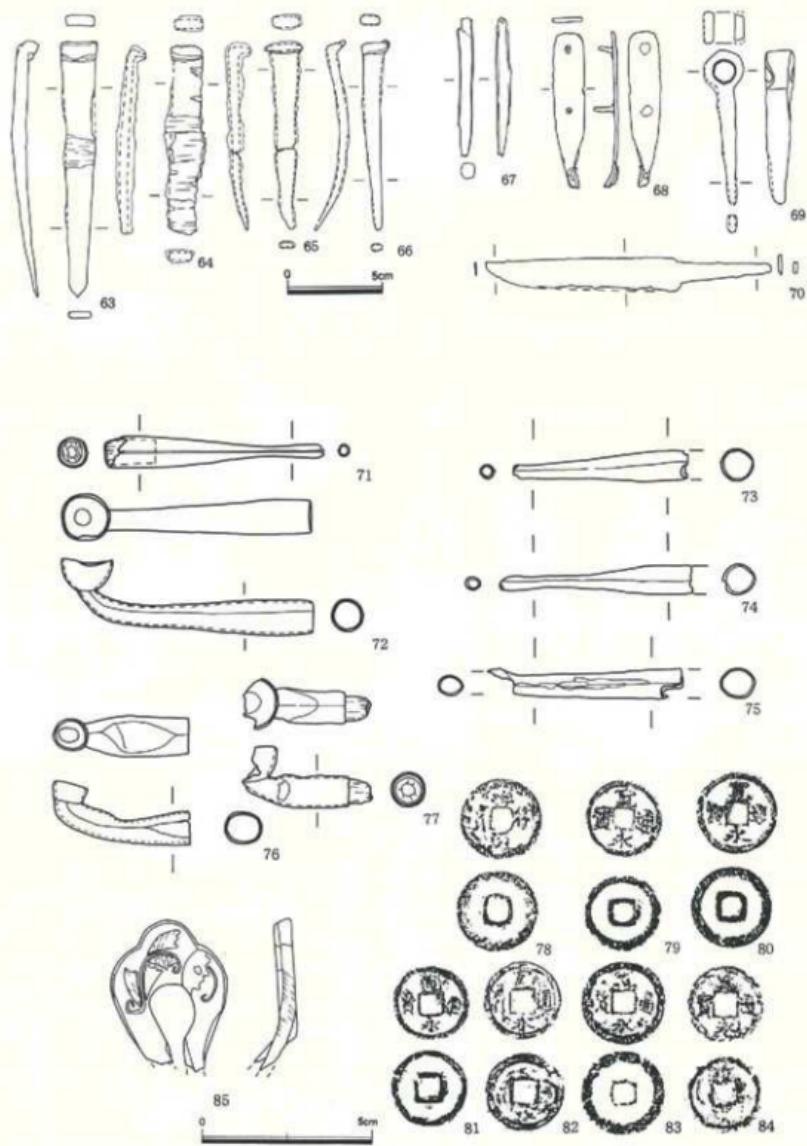
第9図 テストピット出土遺物



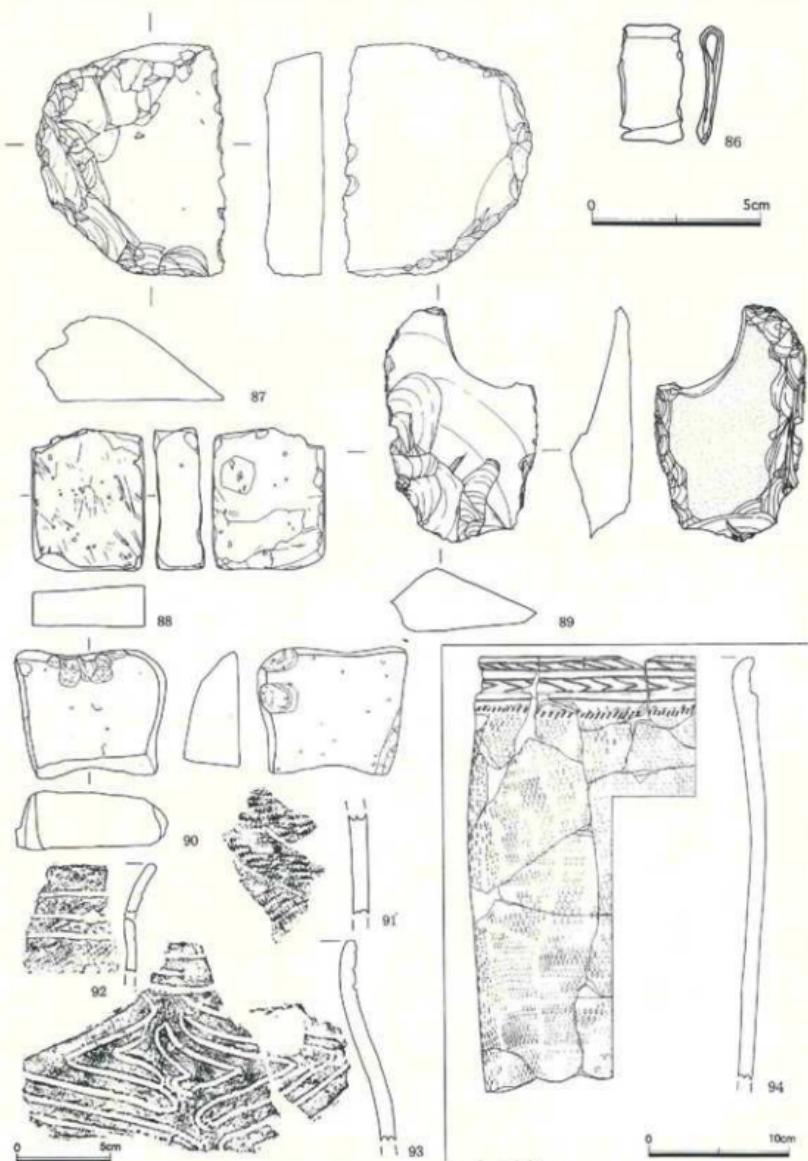
第10図 テストピット出土遺物



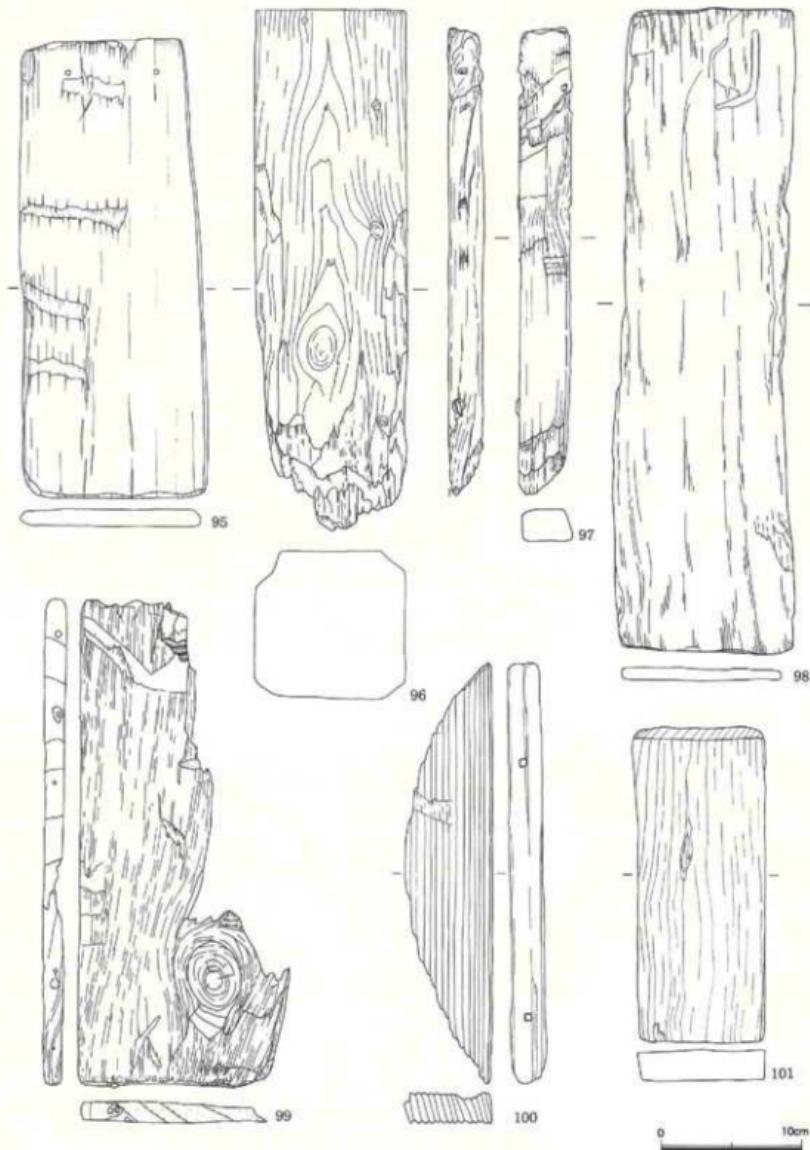
第11図 テストピット出土遺物



第12図 テストピット出土遺物



第13図 テストピット出土遺物



第14図 テストピット出土遺物





銅製品（第11図62、第12図72～84、第13図36）  
銅製品は17点出土している。その内煙管が雁首部、  
吸口部合わせて10点出土している。特によし栄駐  
車場地点では5点の煙管がまとめて出土してい  
る。銅鏡は全部で11点出土している。その内7点  
が寛永通宝であるが鋳造時期にはらつきが見られ  
る。84は寛永通宝が2枚、鏡によって接着してい  
る。86は刀装具ひとつで刀の锷元に装着するば

きである。

木製品（第14図95～101）森良貴宅とテストビッ  
ト51から集中して木製品が出土している。100を  
除き、図示した木製品いずれも建築材であり、打  
ち込んだ釘が残るもの（97・99）もみられる。  
100は桶底である。弧の部分の反対側の側面に2  
ヶ所木釘が残っている。（三浦英俊）

### III 小 括

字上ノ国市街地を大きく分けると大潤地区、集  
落中央部分、川尻地区、勝山地区となるが、標準  
的な土層の堆積ではなく、各地区によつてきわめて  
ばらつきのあるものであった。火山灰についても  
KO-dについては90%、BT-mが60%の調査  
区で堆積がなかった。以下各地区における土層堆  
積から中世～現代にいたる状況を考えたい。

（第1図ほか）大潤地区TP7～10の漁港に至る  
道路に沿つた箇所では、近世のしっかりした整地  
面が確認されている。擦文、中世遺物も出土して  
いる。またTP18～22の現国道から漁港へ至る道  
路の取り付け部分では近世のほかに中世の整地面  
も確認されている。国道沿いの大潤地区的海側では  
家並みに平行して近世の面が確認されているが  
裏手からは確認されていない。一方同じ大潤地区的  
現国道挟んだ山側の家並みの裏手（TP13、14、  
16、23、28、29、30、33）では一様に、近世後半  
以前の下の層は裏手にすぐ迫っている山からの土  
砂、砂礫層であり、遺物、遺構は皆無であった。  
やはり家並みの前の調査区からは近世の整地層が  
確認された。このことから現在と並ぶ近世において  
は現国道直下に集落が形成され集落を縦断する  
道路はかなり幅の狭いものであったと考えられる。  
一方集落中央部の現国道がカーブする付近の調査  
区では海側では近世整地面が確認されるが、山側  
では不明である。この地区は砂層がかなり上まで  
堆積しており、近世以前は海浜と推測される。  
しかし、よし栄駐車場地点では近世の整地層は確  
認されず、低湿地にもかかわらず、1m<sup>2</sup>の調査区に  
70点強の遺物が出土し、その中に肥前系唐人形や  
10点ほどの煙管が出土することからこの付近に  
一般民家と性格を異なる施設があったと考えら  
れる。さらに現国道沿いの上ノ国町郷土館周辺で  
沼地、腐植層の発達が極めて良好現在以前に人の

痕跡はなく近世には沼地だったと考えられる。川  
尻地区には中通が海に平行して2つある。海側の  
中通の調査区での海側の並びでは（TP86、90、  
91、96～102）砂層の発達が良く現代まで人為的  
痕跡なし。山側の調査区（TP85、87、104、105）  
では繩文～近世の遺物が確認され近世整地面も一部  
ではあるが確認される。一方山側（国道より）  
の中通では現国道との間の低地となつていて畑地  
(TP62～64、69、71～75)では江戸期まで白色  
粘土層の堆積が見られ腐植も発達せず、水底であつた  
と推測される。この粘土以前にやや腐植気味の  
粘土層がみられ、国道を挟んだ向いの郷土館付近  
と同様に沼地と考えられる。江戸期火山灰堆積後  
乾燥状態となっている。粘土は灰色火山灰の下に  
堆積しており、近世以前である。さらに川尻地区  
の東側天の川に面した調査区TP109～117では黄  
褐色粘土層が発達しており、沼地、水底で近現代  
まで人為的痕跡がない。この地区は近現代に至り、  
整地し使われた箇所であるといえる。一方遺物の  
分布状態（付図）は中世では大潤地区、集落中央  
部分までの分布である。この中で、TP18～22、  
米沢屋敷では整地面も確認され、向井宅遺跡付近  
でも包含層がある。近世前半では大潤地区から川  
尻地区一帯にかけて分布が見られ、整地面も中通  
地区まで伸びている。しかし海側中通の海側では  
遺物はない。近世中期では川尻地区でやや分布が  
多くなるが大潤地区において分布が少くなる。  
後期では大潤地区では前半のように再び分布しはじ  
め、川尻地区では一層分布するようになる。これらのことから町は徐々に中世～近世にかけて大  
潤地区から川尻地区へ発展していったことがわかる。

（齊藤邦典）

# 向井宅遺跡

## I 調査の概要

### 1. 調査の経緯

向井宅遺跡は北に天然の良港である大洞湾を望む砂丘上に位置し、所在地は上ノ国町字上ノ国111-1番地である。本遺跡の南には史跡上之国勝山館跡があり、本遺跡を含む上ノ国地区が勝山館に附属する町屋ではないかと言われている。

本遺跡を含む上ノ国地区では平成9年9月から11月にかけて分布調査を実施しており、縄文・擦文から近世・近代にかけての遺物が出土している。特に本遺跡の周辺では中世から近世初頭にかけての遺物が集中して出土しており、向井氏の旧宅裏に掘ったテストピットからも近世遺物が出土している。また本遺跡から西に50mほどの位置にある米澤光一氏の住宅建設に伴う緊急発掘調査で縄文時代から近世にかけての遺構・遺物が検出されている。

平成10年3月に向井啓吉氏より住宅建設の事前協議書の提出を受けた。上ノ国町教育委員会では緊急で発掘調査を行うことにした。

### 2. 調査の方法

本遺跡の調査は以下の方法で行った。住宅建設予定地のはば中央に南北方向のトレンチを入れ、土層の様子を確認した。その結果、住宅建設予定地の北半分の範囲では現代の石積みがあり、調査によって崩落の危険性があることがわかった。そのため調査は残りの南半分で行うこととした。調査範囲に東西方向のトレンチを入れ、国道側から順に1区、2区、3区、4区とし、地区設定後、メインセクションで層位を確認しつつ掘り下げていった。

遺物の取り上げは層位毎を基本とし、出土位置、出土レベルを計測し、記録した。

4月1日 調査開始。南北トレンチを設定。

4月8日 第IV層集石を検出。

4月15日 土壌3を検出。

4月16日 石組み柱根の半截を行い、打ち込みの杭の周りに石を固めたことが判明。

4月17日 第VI層集石を検出。

4月21日 調査区における全ての調査を終了。後日、業者により埋め戻される。(三浦英俊)

## II 遺構確認調査

### 1. 層位

基本層序は次のとおりである。

盛土 近現代の整地盛土層

I層 近現代の旧表土層 赤褐色礫を多量に含む

II層 近世中半～後半の整地盛土層。10YR 4／4褐色～10YR 2／2黒褐色シルト～砂礫 基盤砂礫、砂粒を多量に含む。玉砂利も微量含有。8層ほどに細分される。

III層 1640年代降灰KO-d駒ヶ岳D火山灰純層

IV層 近世前半の整地盛土層。2.5YR 4／2灰褐色シルト～10YR 3／1黒褐色シルト。基盤砂礫、砂粒、玉砂利含有。粘質土、火山灰微量含有。細分される。

V層 近世前半～中世の自然堆積層。10YR 2／2黒褐色シルト。砂粒砂礫が含まれる。極めて湿った状態であり、自然木片、木製

品出土。細分される。第22図36、第21図26～28胎土目唐津皿等出土

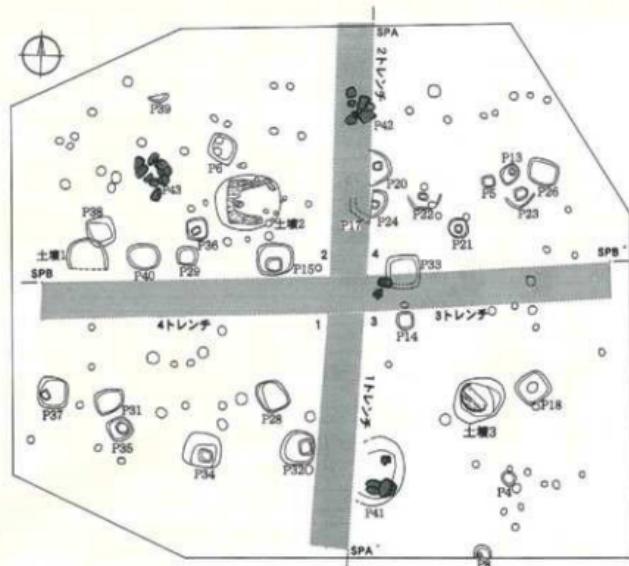
VI層 中世の自然堆積層。10YR 2／1黒～10YR 2／2黒褐色シルト～粗砂 自然木片小片で含有。やや湿性あり。第20図1、2等の中国白磁皿、瀬戸・美濃焼軸小皿等出土

VII層 中世～10世紀までの自然堆積層。10YR 2／2黒褐色～10YR 3／2黒褐色シルト。遺物は出土しない

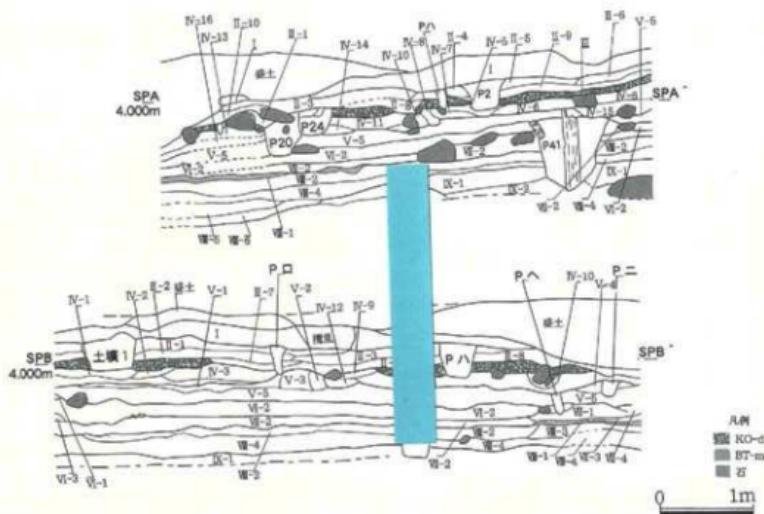
VIII層 10世紀朝鮮白頭山B T-m火山灰純層～7.5YR 3／2黒褐色シルト B T-m含有。遺物は出土しない

IX層 7.5YR 2／2黒褐色シルト+10YR 3／1微砂。自然木のやや大型の太い木の幹等が数本検出される。遺物は出土しない

S P A-A' (第16図) 調査区を南北に継続しているセクション。全体としてかなり多量の子供の



第15図 調査区遺構配置図



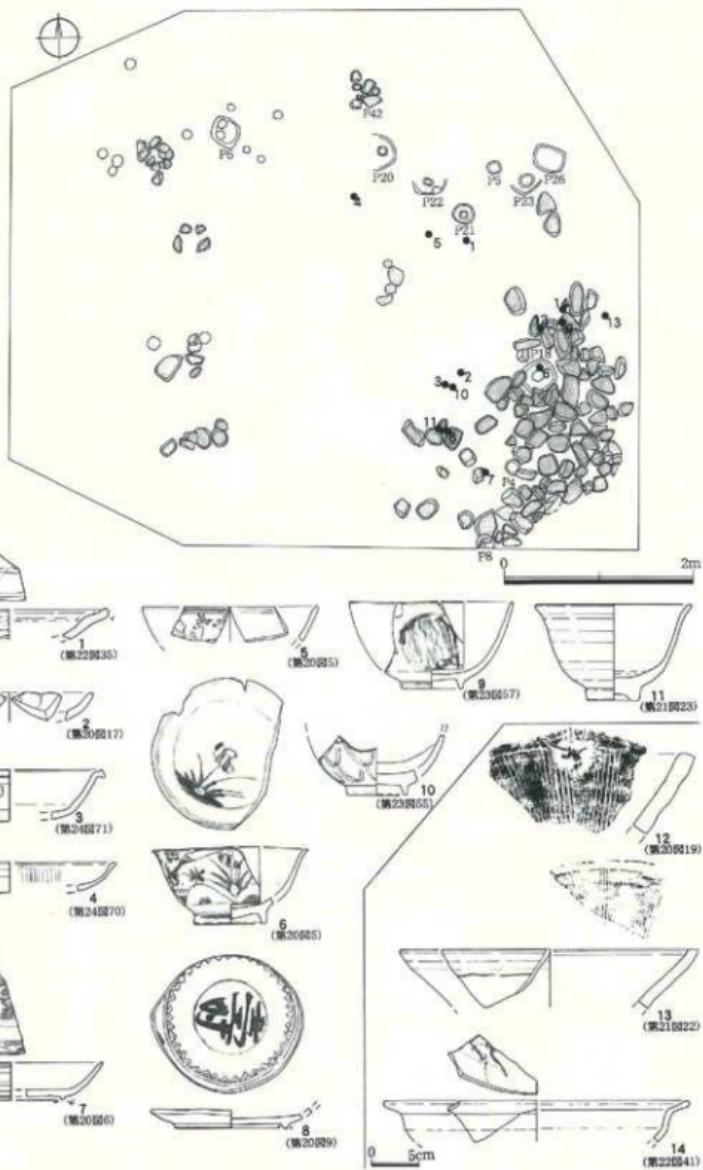
第16図 調査区土層堆積図

表14 第3、4グリッド南北セクション東壁土層 (SPA-SPA')

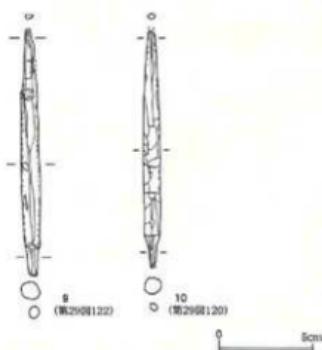
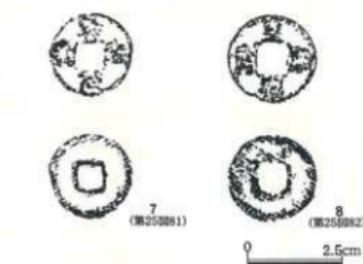
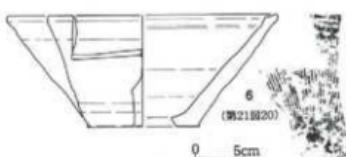
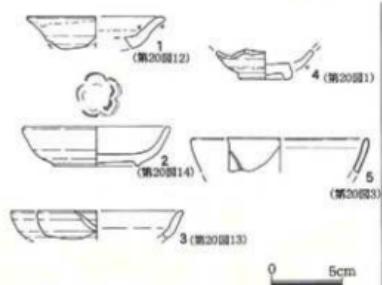
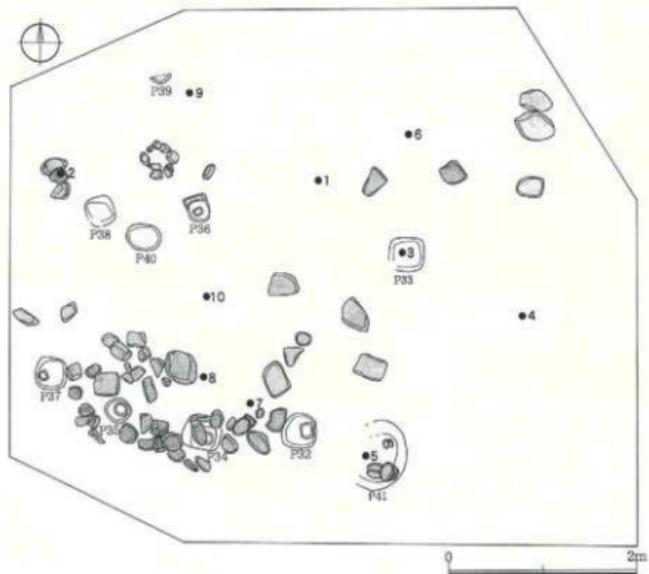
壁土	7.5YR4/6	明暗	木質多く含む。	
I	7.5YR4/4	明暗	玉砂利、小礫を少々含む。C少量。	ソフト
B-3	10YR3/2	明暗	砂利、細粒少々含む。粘土質。	
B-4	10YR3/2	明暗	大礫2個、砂利、C少量。	ハード
B-5	10YR4/4	暗	KO-dブロック状含む。	
B-6	10YR4/4	暗	玉砂利がII-3に比べる間に多い。KO-dブロック混入。	
B-8	10YR2/2	明暗	中礫、玉砂利を少々含む。ローム粉。	ソフト
B-9	10YR3/2	明暗	中礫、大礫は少々含む。火山灰を少量含む。	ソフト
B-10	7.5YR3/3	暗	玉砂利を含む。粘土質。	ソフト
B	10YR4/2	明暗	KO-d、Cや少々多い。	
B-5	10YR3/3	暗	大礫や砂利、ローム粉が多い。C少量。	ソフト
B-6	10YR3/1	明暗	大礫、小礫、C少々や少々土質。	ソフト
N-2	2.5YR4/2	灰暗	大礫やローム粉多い。C少量。	ソフト
B-8	砂			
N-11	10YR4/2	灰暗	大礫や多い。砂粒、砂粒混入。Cブロック状に全体に混じる。	
N-13	10YR3/2	明暗	砂粒、C少量。	
N-14	砂			
N-15	10YR5/1	明暗	大礫、小礫、C少量、やや粘土質。	ややソフト
B-16	10YR3/1	明暗	砂粒混入。	ソフト
V-5	10YR2/2	黑	全体に木質混入。	ハード
M-2	10YR2/1	黑	全体に木質混入。	ハード
V-2	10YR2/3	明暗	シルト BT-mブロック含む。	ややソフト
V-1	10YR3/4	明暗	シルト BT-m	ややハード
V-2	7.5YR3/2	明暗	シルト木質を多量に含む。	ややソフト
V-6	10YR2/1	黑	シルト中に砂利を少々含む。木質多量に混入。	ややソフト
B-1	7.5YR2/2	明暗	シルト(50%50でそれぞれブロック状に混じる)	ややソフト
V-3	10YR3/1	明暗		
R-2	2.5YR3/2	明暗	砂 粒	
P43			注記なし。	
P20	10YR3/1	明暗	火山灰が全面に有。C少量、砂粒質。	ソフト
P2-4-1	10YR2/2	明暗	火山灰、C少量、粘土質、薄性。	ソフト
P2-4-2	10YR2/2	明暗	火山灰、C少量、粘土質、薄性。よりやや暗い。	ソフト
P2-4-3	10YR3/1	明暗	火山灰、C少量、粘土質、薄性。	ソフト

表15 第2、4グリッド東西セクション北壁土層 (SPB-SPB')

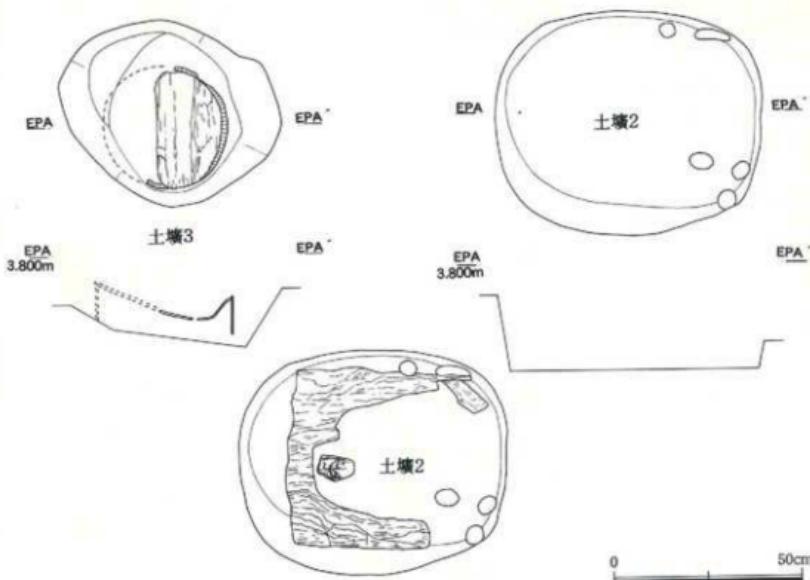
壁土	7.5YR4/6	明暗	赤褐色 多量に含む。	
I	7.5YR3/2	明暗	玉砂利、小礫を含む。C少量。	ソフト
B-3	10YR4/4	灰暗	小礫、基盤部、C混入。KO-d印点状に入る。	
B-2	10YR4/2	灰暗	玉砂利。	
B-3	10YR3/2	明暗	砂粒、小礫を少々含む。粘土質。	ハード
B-7	10YR3/2	明暗	火山灰主体。粘土質 Cやや多い。薄性。	
B-8	10YR2/2	明暗	中礫、玉砂利少々含む。ローム粉	ソフト
B	10YR4/2	明暗	KO-d Cやや多い。	
N-1	10YR4/2	灰暗	玉砂利中に粘土質少々混じる。火山灰少量混じる。	
N-2	10YR4/2	灰暗	玉砂利中に粘土質少々混じる。火山灰少量混じる。	
N-3	10YR4/2	灰暗	玉砂利中に粘土質少々混じる。火山灰少量混じる。	
N-4	10YR3/1	明暗	基盤部、砂粒、粘土質。	
N-5	10YR3/1	明暗	粘土質。玉砂利	
N-10			注記なし。	
N-11	10YR4/2	灰暗	大礫や多い。砂粒、砂粒質。Cブロック状に全体に混じる。	
N-12	10YR4/1	灰灰	粘土質。玉砂利	
V-2	10YR3/1	明暗	砂粒質。	
V-2	10YR3/1	明暗	粘土質。玉砂利	
V-3	10YR3/2	明暗	玉砂利、大礫少々、火山灰少々。	
V-4	10YR2/2	明暗	大礫、小礫、砂質混じり。C少量。	ハード
V-5	10YR2/1	黑	全体に木質混入。	ハード
V-1	7.5YR2/2	明暗	シルト、木質少々含む。	ややソフト
V-2	10YR2/1	黑	全体に木質混入。	ハード
V-3	10YR2/1	黑	砂粒、木質少々含む。	ややハード
V-1	10YR3/2	明暗	シルト、火山灰の残骸あり。	ややソフト
V-2	10YR2/3	明暗	シルト、BT-mブロック混じる。	ややソフト
V-3	10YR2/2	明暗	シルト。	ややソフト
V-4			注記なし。	
V-1	10YR3/4	明暗	シルト、BT-m	ややハード
V-2	7.5YR3/2	明暗	シルト。	ややソフト
V-3	10YR2/2	明暗	シルト。	ややソフト
V-4	10YR2/1	黑	シルト、木質を少々含む。	ややソフト
V-5	10YR1.7/1	黑	シルト、木質をわざわざ含む。	ソフト
V-6	7.5YR2/1	黑	シルト。	ソフト
B-1	7.5YR2/2	明暗	シルト(50%50でそれぞれブロック状に混じる)	
V-3	10YR3/1	明暗		
P33	10YR2/2		木質混入	ソフト
P11	10YR3/3	明暗	砂粒、C、火山灰少々混じる。	ソフト
P11	10YR2/1	黑	玉砂利多い。木質を含む。	ソフト
P2	10YR3/2	明暗	砂粒、玉砂利多い。C少量。	ソフト
P12	10YR4/3	にごり青黒	砂質混じり	
土境1			注記なし	



第17図 第IV層遺構配置図



第18図 第VI層遺構配置図



第19図 土壌2・3平面図他

頗る大的の標が入る。P20、P24の重複している柱穴はいずれもKO-d火山灰層からの掘りこみで17世紀代、P2、Pハは近世後半～近代の柱穴。P41はVI層からの掘りこみで中世の柱穴である。柱根は14～15cm、約5寸の太さであり、しっかりした柱穴である。この掘りこみ面の状態は極めて湿性に富んだものであり、湿地で整地等もない。掘りかたの土も粘土等で突き固めておらず、自然木片が入っている周囲の土であり、丁寧なつくりりの柱穴ではない。

S P B-B' セクション（第16図）調査区を東西に横断している北壁セクション。土壌1は深さ20cm程と浅く、60cm程の直径である。覆土は自然埋没状態である。近世後半の時期。P33はVI層からの掘りこみで中世の柱穴である。全体の層の状態は、IX層に自然木の大型のものがあり、土層の堆積もフラットな状態ではなく、南西～東北へ、陸側から海側へ掘鉢状になりながら緩やかな傾斜を持っている。自然木もその掘鉢状のほぼ中央部にあるため一定の水の流れがあったことを物語つ

ており、浅い沼地であったと考えられる。VI層までは砂礫が殆ど入らず、やや粘性があり、湿性のあるシルト層であり、細かな草や小木片が入る。草木の生い茂った低湿地が想定される。V層ではVI層までの低湿地の状態に砂礫が含有されるようになる。ややVI層までは違い、水の流れがあったようである。極めて湿性に富んでいる。IV層以降砂礫、玉砂利がかなりの量含有していく。その後砂礫等が多く下のV層と異なり比較的乾燥状態になってきている。

## 2. 集石

(1) 第IV層集石（第17図・PL.11）第IV層では3区に集中して頗る大的の石が広がっている。第IV層検出の集石は調査区範囲を超えて山側にまで続いているようである。ひとつひとつの石の大きさは比較的そろっているが、散らばり方に規則性は認められず、また個方を持つものも見られなかった。第IV層で出土した遺物は16世紀末～17世紀初頭の様相を示すものでほとんどを占めており、集石もこのころのものと言えよう。遺物の分布は集石の

ある3区と4区にかたよっている。この集石の性格は不明であるが、石を敷いた何らかの配石遺構とは考えにくく、建物の屋根に葺いた屋根板を押さえていた石ではないかと思われる。

(2) 第VI層集石(第18図・PL.13) 第VI層検出の集石は第IV層の集石よりも密度は低く、石の大きさも拳大の大きさのものから頭よりも大きなものまで様々である。第VI層の集石も第IV層の集石と同じく散らばり方に規則性は認められず、また堀方を持つものも見られず、したがって掘え置いたものではない。第VI層における出土遺物の時期は15世紀前半から16世紀末までと時期幅が見られる。第VI層の集石も山側に向かって続いていることが考えられるため規模は不明である。この第VI層集石も性格は不明である。

### 3. 柱穴

本遺跡からは柱本体が残存する杭・柱穴を含め、多数のビットを検出した。しかしながら調査区範囲が約30m<sup>2</sup>と極めて狭いために明瞭な建物跡・構列を検出しえなかつた。本項では本遺跡に特徴的な杭・柱穴を挙げて記述するにとどめた。

(1) P41(PL.12) 3区と1トレーナーの境界に位置する。西半分を1トレーナーを掘り進む関係で破壊してしまったが、長軸1m、平面形楕円を呈する掘立柱である。堀方を1m掘り、柱を立てている。堀方から青磁の碗(第20図3)が出土している。

(2) P43(PL.12) 2区中央に位置する打ち込みの杭である。杭を打った後にその周りを拳大の石を使って固めている。杭本体は北に傾いて打ち込まれている。このような石組みを施した杭は他に2本見られる。(三浦英俊)

### 4. 土壙

土壙2(第19図・PL.12.5~6) 長軸70cm、短軸60cm、深さ20cmの不正円形を呈する。V層掘りこみ。時期的には中世~近世初頭の時期の遺構である。土壙内に幅45cm、長さ47cm程の木質が残存している。さらにその内部には杭が打ちこまれた状態で検出された。PL.12.5の土層堆積で見るよう、この杭は土壙2が埋没後、覆土上から打ちこまれたものである。

土壙3(第19図・PL.11-4) は長軸55cm、短軸50cm、深さ15cmの不正円形を呈する。V層掘りこみ。時期的には中世~近世初頭の時期の遺構である。

る。土壤内に直径32cm程の桶の底部が残存している。据え置かれていたと思われる。

(齐藤邦典)

### 5. 出土遺物の概要

本遺跡から出土した遺物は、陶磁器を中心に木製品、骨角器、鉄製品、石製品、擦文土器など総数1154点である。このうち陶磁器は852点を数え、473点が近世陶磁器である。船載の陶磁器は15世紀のものから近世初頭のものまで見ることが出来るが、その数は41点と全体に占める割合は低い。

国産陶磁器では、伊万里、唐津、瀬戸・美濃、越前、珠洲、瓦器などが出土している。出土量が最も多いのは伊万里で陶磁器全体の38%、次いで唐津が15%である。

白磁(第20図1~2) 高台に抉りを入れた皿

(2) や体部下半分露胎で付高台の皿(1)といった15世紀代に位置づけられるものが出土している。史跡上之国勝山館跡で多く出土する端反皿は1点のみであった。

青磁(第20図3) 瓢のみが出土している。運舟をもつもの(3)のほかに、図示はしていないが内外面無文で高台内を蛇の目に彫りハギする碗が出土している。

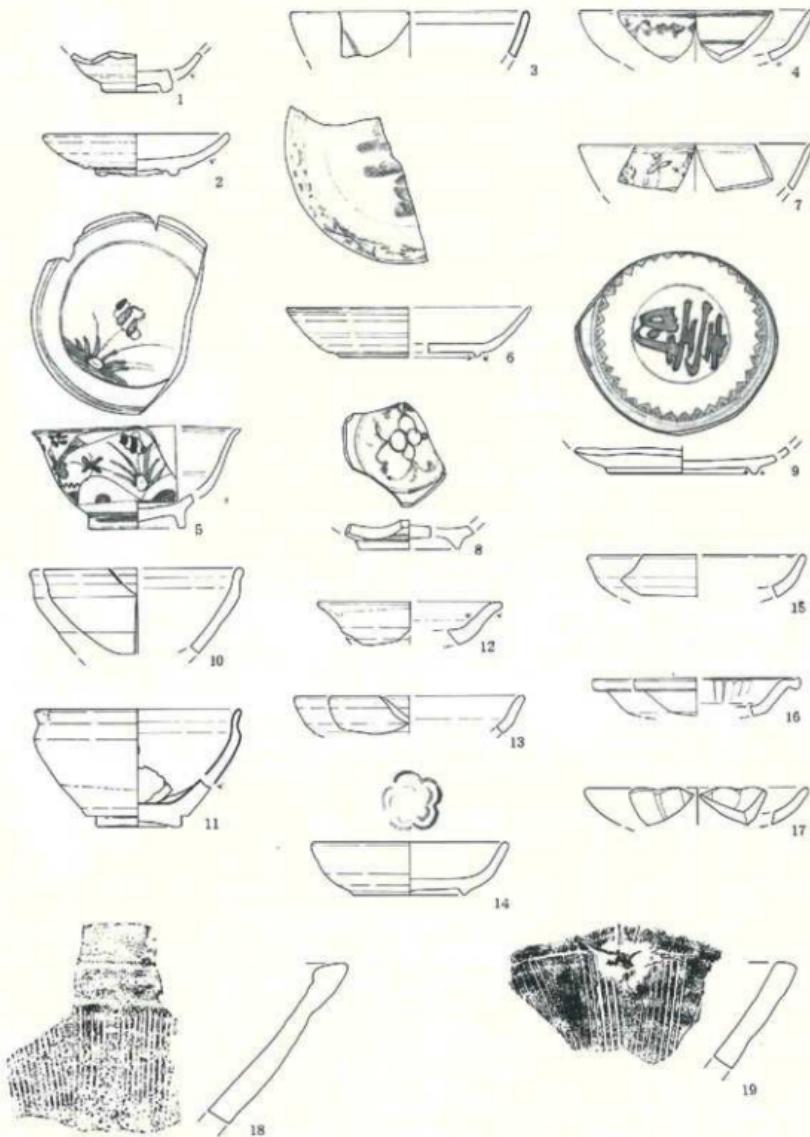
染付(第20図4~9) 陶器質の胎土をもつ粗製の皿(4)、植物織維の圧痕や砂が高台に付着する碗・皿(5~8・9)や高台内底面にカンナ削り跡・残す皿(6)が出土している。

瀬戸・美濃(第20図10~17、第22図35、第24図65~66) 天目茶碗(10・11)、皿類が出土している。天目茶碗は大窯3段階のものである。同時期のものと考えられる破片があると2点出土している。11は内面にススが付着しており、他用途への使用が考えられる。12は古瀬戸後期に属する縁付小皿である。ほかに図示はしていないが、同じく古瀬戸後期に属する大皿類の破片が出土している。17は志野の菊皿である。図示したもののかにもう1点出土している。

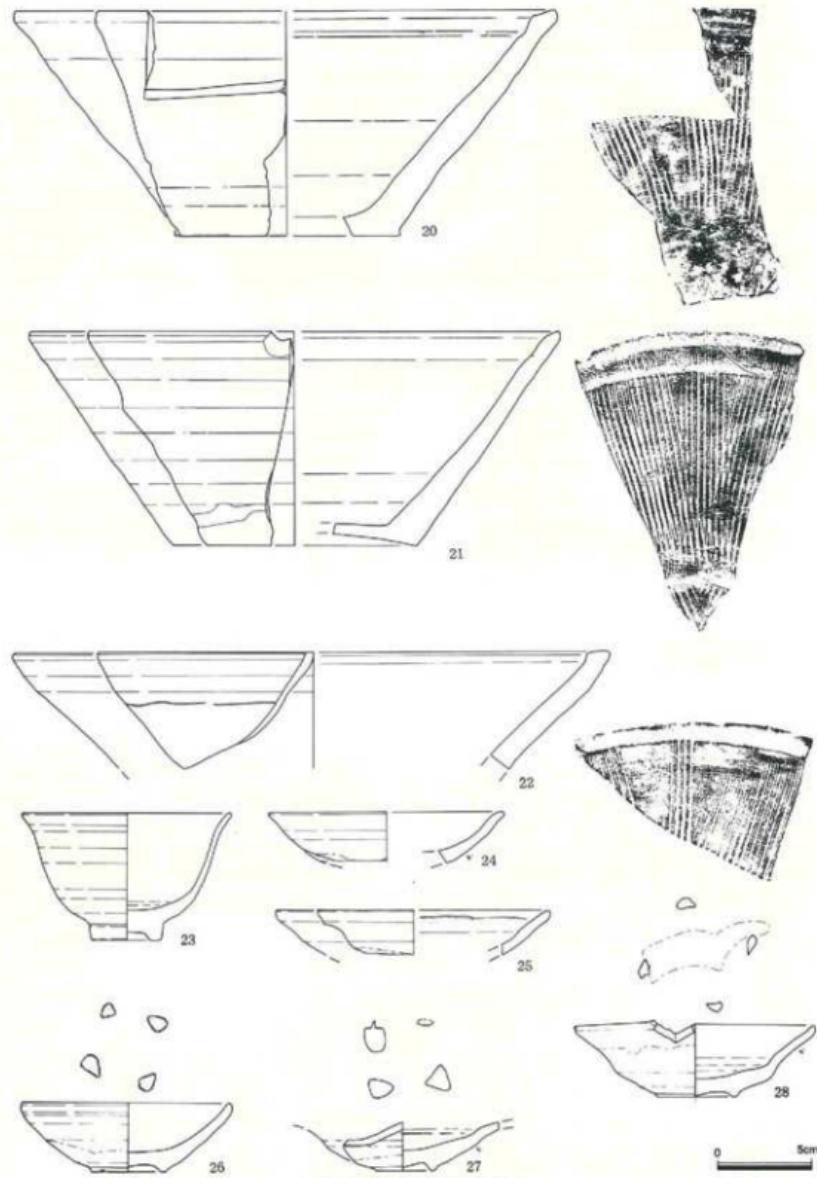
珠洲(第20図18) 珠洲製品はすり鉢5点が出土しており、いずれも吉岡編年のVI期に該当する。

瓦器(第20図19) 瓦器すり鉢が3点出土している。19は口縁部内面に釘と考えられる鉄製品の一部が付着している。

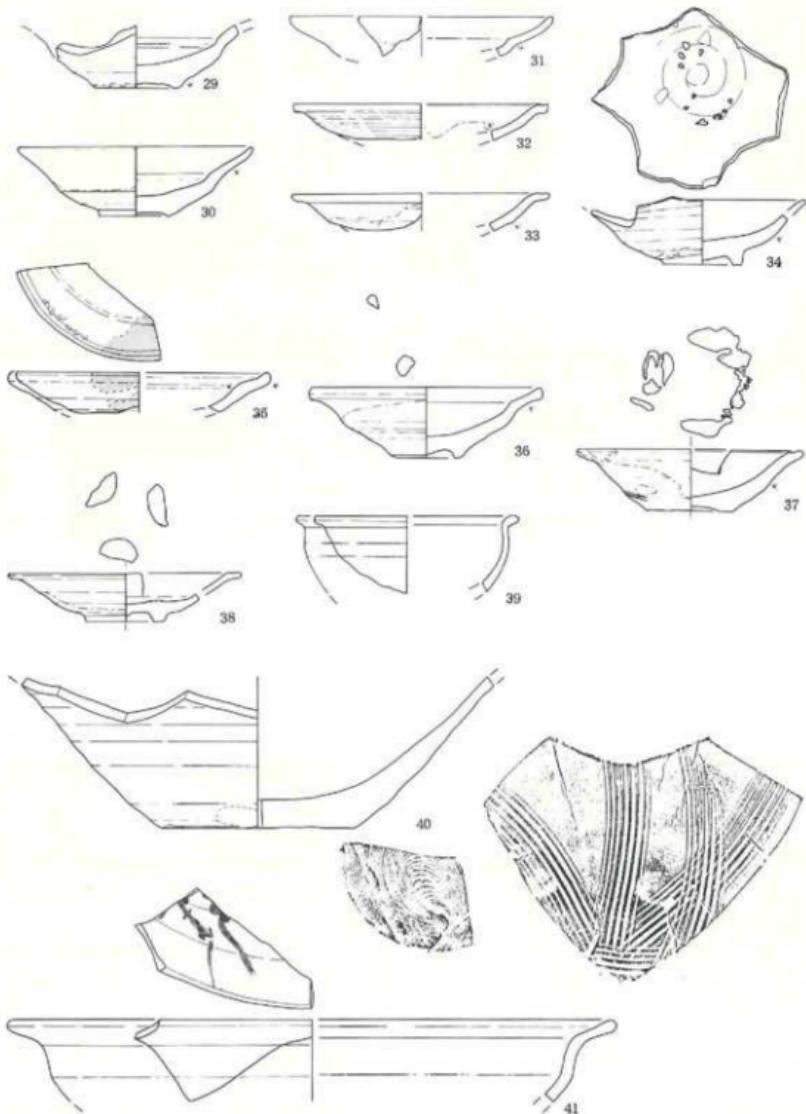
越前(第21図20~22) 16世紀末から17世紀前半にかけて生産されたと考えられる越前すり鉢が9



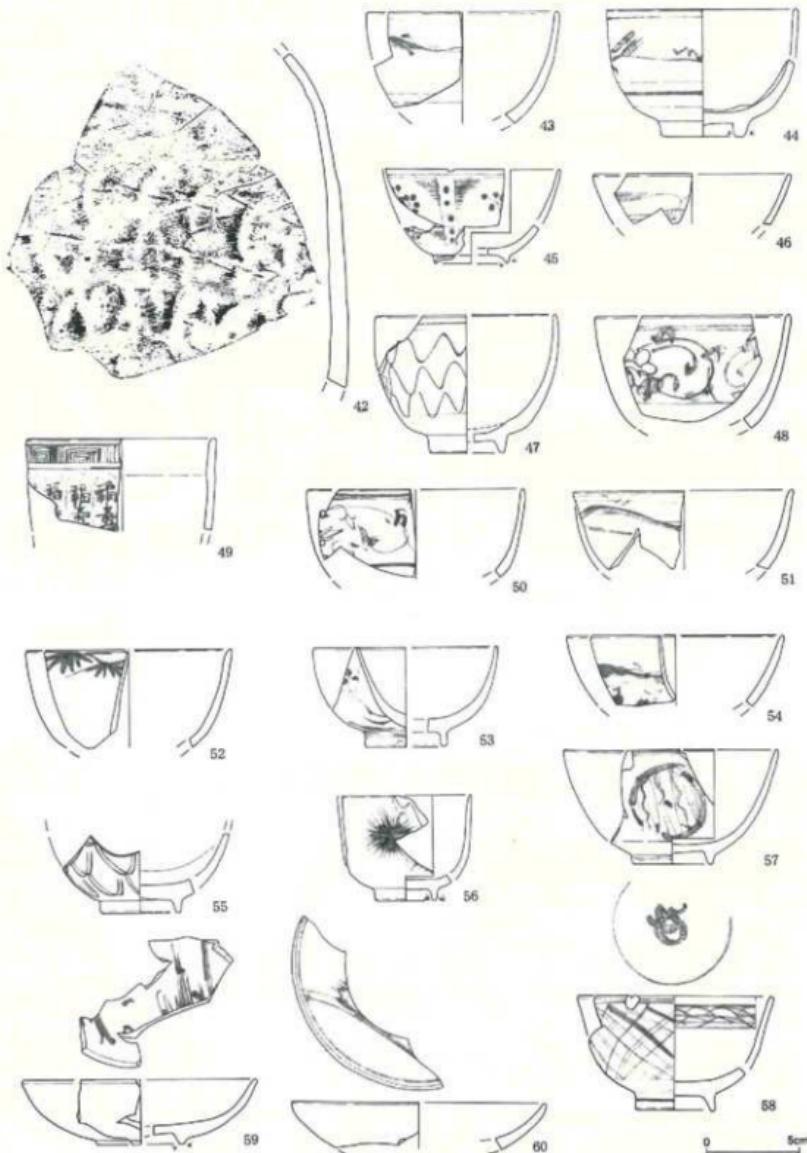
第20図 調査区出土遺物



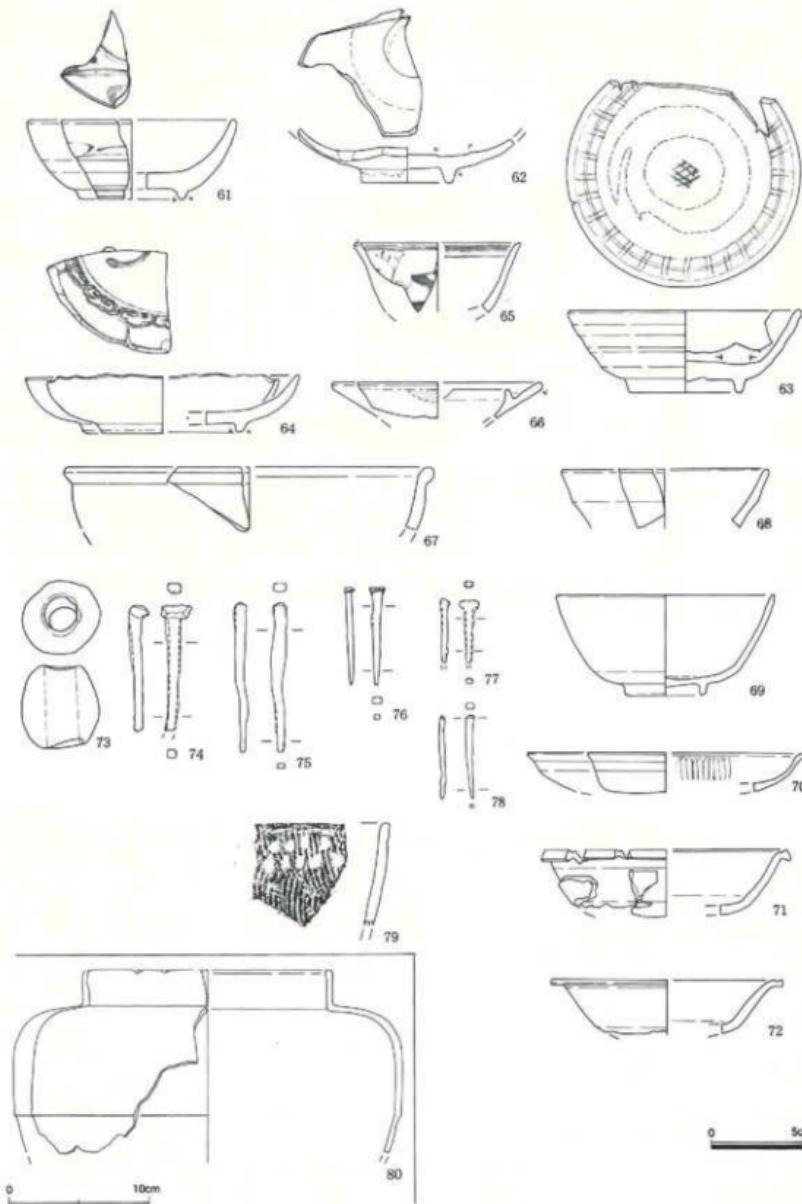
第21図 濃査区出土遺物



第22図 調査区出土遺物



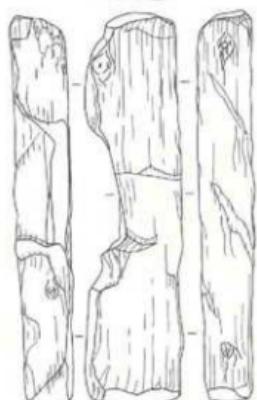
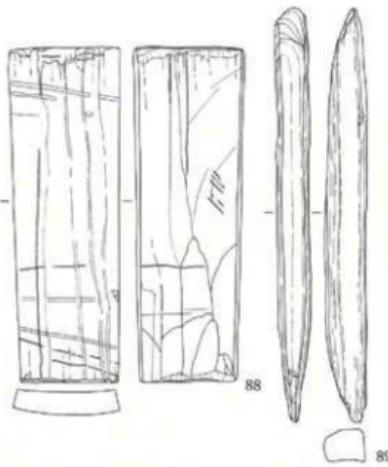
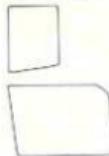
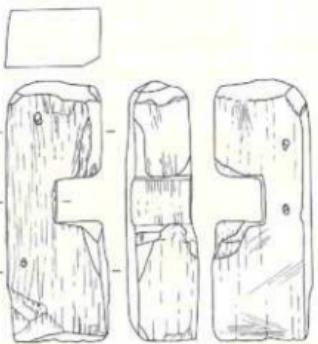
第23図 調査区出土遺物



第24図 調査区出土遺物

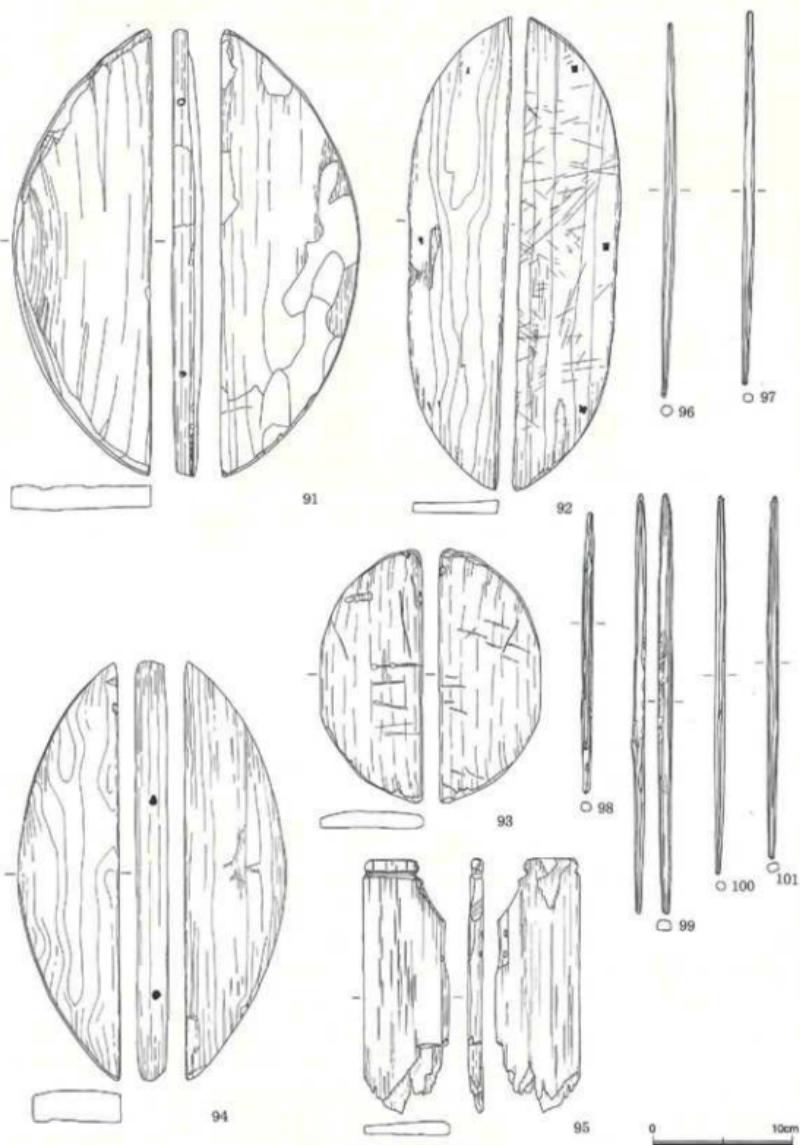


0 5cm

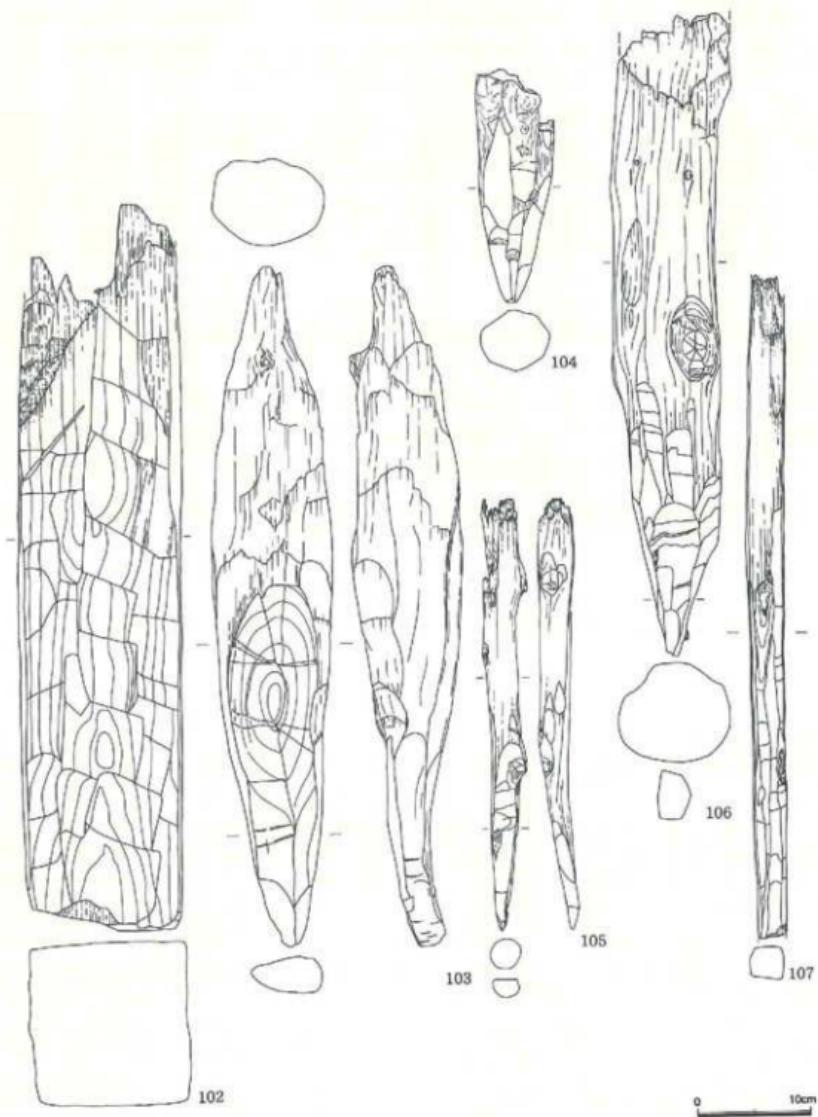


0 10cm

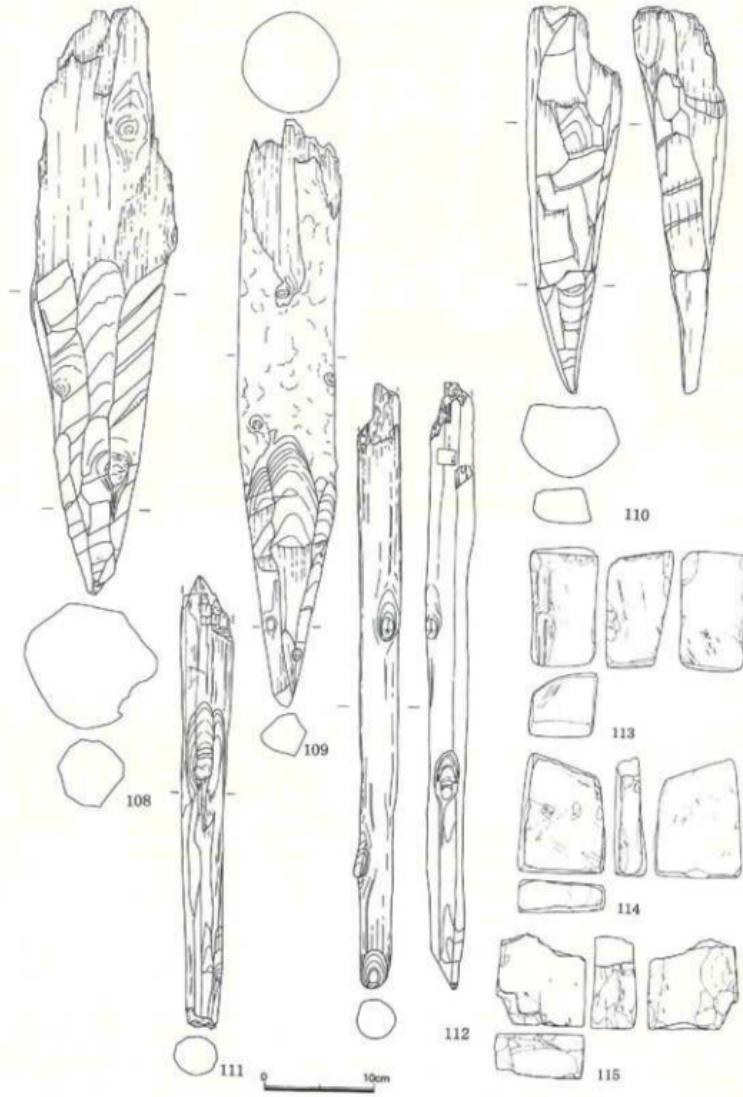
第25図 調査区出土遺物



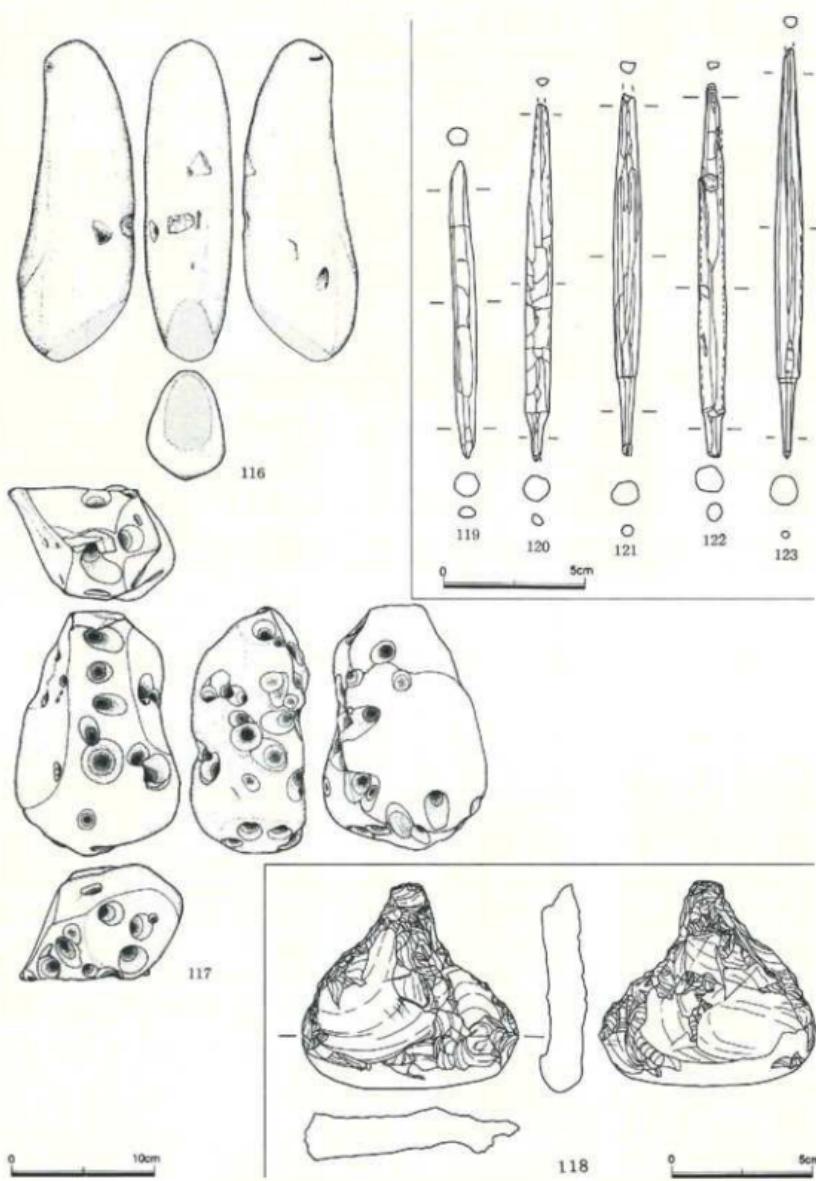
第26図 調査区出土遺物



第27図 調査区出土遺物



第28図 調査区出土遺物



第29図 調査区出土遺物

表16 出土遺物観察表（陶器器）

器物番号	種類	形態	地土	特徴	出土位置	層位	口径mm	底径mm	高さmm		
W20001	灰陶	灰陶	灰白	高台、高台合式遺物	3 V		25				
W20002	灰陶	灰	高台	高台に施込みが入り、見込みに複数焼成が残る	4 P91	(160)	42	28			
W20003	灰陶	灰	灰白	一次焼成	3 P91						
W20004	灰陶	灰	灰陶灰	灰白	見込み、施込みが残る。	3 V		(126)			
W20005	灰陶	灰	白	施込み、蓋が付付着	3 P91b	119	53	35			
W20006	灰陶	灰	青灰灰	青	見込みに「手」と考えられる文字、蓋付に移付着、高台内にカンチケズリ痕が残る。	3 V		(181)	(72)	27	
W20007	灰陶	灰	青灰灰	白	青灰灰に泥文	4 N		(134)			
W20008	灰陶	灰	明るい灰	青灰	青灰、高台内に泥文	3 E					
W20009	灰陶	灰	明るい灰	白	青灰、青灰付着、見込みに「手」の文字。	3 V			86		
W20010	灰陶	灰	明るい灰	白	内面裏面に施込みを施す。大底板足。	4トレンチ	地土	(110)			
W20011	灰陶	灰	灰白	灰白	内面と外面上に施込み、外面下平脚跡、内面にススが付着。大底板足。	1トレンチ	V	(110)	46	68	
W20012	灰陶	灰	灰白	明るいオーリーブ灰	灰白	口縁内面の施込みを施す。施込み足。	2 E		(96)		
W20013	灰陶	灰	灰白	灰白	大底板足。	4 P93		(124)			
W20014	灰陶	灰	明るいオーリーブ灰	灰白	全面に施込みを施す。見込みに泥文。高台内に施込みを残す。口縁にシガサギが付着。大底板足。	2 V	102	57	38		
W20015	灰陶	灰	明るいオーリーブ灰	灰白	明るいオーリーブ灰	3 V		(114)			
W20016	灰陶	灰	明るいオーリーブ灰	灰白	大底板足。	4 V		(112)			
W20017	灰陶	灰	青灰灰	白	口縁に施込みを施す。内面に施込みを施す。	2 V		(126)			
W20018	灰陶	灰	青灰灰	白	口縁に施込みを施す。内面に施込みを施す。	1 V					
W20019	灰陶	灰	青灰灰	灰	八九一一年位の差し日。口縁内面に施込みで付着する。	3 V					
W20020	灰陶	灰	青灰灰	青灰灰	八九一一年位の差し日。口縁内面に施込みが残る。	1 P95		(290)	(121)	130	
W20021	灰陶	灰	青灰灰	青灰灰	八九一一年位の差し日。口縁内面より2cmのところに施込みが残る。	3 V		(382)	(130)	115	
W20022	灰陶	灰	青灰灰	青灰灰	八九一一年位の差し日。	4 V		(185)			
W20023	灰陶	灰	青灰灰	青灰灰	施込みと同様にソグザガラされる。大底板足。	3 V		(111)	36	68	
W20024	灰陶	灰	明るいオーリーブ灰	灰白	施込みに付付着。	3 V					
W20025	灰陶	灰	明るいオーリーブ灰	青灰灰	うす青灰	内面と外面上に施込み。	3 E	地土	(146)		
W20026	灰陶	灰	明るいオーリーブ灰	青灰灰	うす青灰	内面と外面上に施込み。内面下平脚跡。	4 V	113	46	37	
W20027	灰陶	灰	明るいオーリーブ灰	青灰灰	青灰灰	内面と外面上に施込み。	1トレンチ	V	30		
W20028	灰陶	灰	明るいオーリーブ灰	青灰灰	青灰灰	内面と外面上に施込み。	3 V	129	41	36	
W20029	灰陶	灰	明るいオーリーブ灰	青灰灰	青灰灰	内面と外面上に施込み。	3 E		47		
W20030	灰陶	灰	明るいオーリーブ灰	青灰灰	青灰灰	内面と外面上に施込み。	3 V	126	40	37	
W20031	灰陶	灰	明るいオーリーブ灰	青灰灰	青灰灰	内面と外面上に施込み。	4 V		(142)		
W20032	灰陶	灰	明るいオーリーブ灰	青灰灰	青灰灰	内面と外面上に施込み。	4 E		(186)		
W20033	灰陶	灰	明るいオーリーブ灰	青灰灰	青灰灰	内面と外面上に施込み。	4 E		(188)		
W20034	灰陶	灰	明るいオーリーブ灰	青灰灰	青灰灰	内面と外面上に施込み。	4 E		(116)	42	37
W20035	灰陶	灰	明るいオーリーブ灰	青灰灰	青灰灰	内面と外面上に施込み。	4 N		(186)		
W20036	灰陶	灰	明るいオーリーブ灰	青灰灰	青灰灰	内面と外面上に施込み。	3 V	126	40	46	
W20037	灰陶	灰	明るいオーリーブ灰	青灰灰	青灰灰	内面と外面上に施込み。	4 E		42	33	
W20038	灰陶	灰	明るいオーリーブ灰	青灰灰	青灰灰	内面と外面上に施込み。	1 E		(185)	42	35
W20039	灰陶	灰	明るいオーリーブ灰	青灰灰	青灰灰	内面と外面上に施込み。	3 V	113			
W20040	灰陶	灰	すり鉢	にこに	施込みに切削痕が付いており。	1 E				(106)	
W20041	灰陶	灰	青灰灰	青灰灰	青灰灰	折れ端の二形多大皿。	2トレンチ	V	(320)		
W20042	灰陶	灰	青灰灰	青灰灰	青灰灰	内面に丁寧な凹凸を付す。	2 E				
W20043	灰陶	灰	青灰灰	青灰灰	青灰灰	内面に丁寧な凹凸を付す。	3 E		(126)		
W20044	灰陶	灰	青灰灰	青灰灰	青灰灰	内面に丁寧な凹凸を付す。	1 E		(104)	46	39
W20045	灰陶	灰	青灰灰	青灰灰	青灰灰	内面に丁寧な凹凸を付す。	1 E		(96)	(46)	11
W20046	灰陶	灰	青灰灰	青灰灰	青灰灰	内面に丁寧な凹凸を付す。	1 E		(106)		
W20047	灰陶	灰	青灰灰	青灰灰	青灰灰	内面に丁寧な凹凸を付す。	1 E		(66)	(40)	(75)
W20048	灰陶	灰	青灰灰	青灰灰	青灰灰	内面に丁寧な凹凸を付す。	1 E		(106)		
W20049	灰陶	灰	青灰灰	白	内面に施込みが付いており。見込みに「盛身」の文字を記す。二重鉢。	1トレンチ	地土	(182)			
W20050	灰陶	灰	青灰灰	白	内面に施込みが付いており。見込みに「盛身」の文字を記す。	3 E					
W20051	灰陶	灰	青灰灰	白	内面に施込みが付いており。見込みに「盛身」の文字を記す。	1 E		(120)			
W20052	灰陶	灰	青灰灰	白	内面に施込みが付いており。見込みに「盛身」の文字を記す。	1 E		(110)			
W20053	灰陶	灰	青灰灰	白	内面に施込みが付いており。見込みに「盛身」の文字を記す。	3 E		(100)	(42)	34	
W20054	灰陶	灰	青灰灰	白	内面に施込みが付いており。見込みに「盛身」の文字を記す。	1 E		(110)			
W20055	灰陶	灰	青灰灰	白	内面に施込みが付いており。見込みに「盛身」の文字を記す。	2 V		44			
W20056	灰陶	灰	青灰灰	白	内面に施込みが付いており。見込みに「盛身」の文字を記す。	2 E		(72)	32	37	
W20057	灰陶	灰	青灰灰	白	内面に施込みが付いており。見込みに「盛身」の文字を記す。	2 V		(114)	42	62	
W20058	灰陶	灰	青灰灰	白	内面に施込みが付いており。見込みに「盛身」の文字を記す。	1 E		106	42	62	
W20059	灰陶	灰	青灰灰	白	内面に施込みが付いており。見込みに「盛身」の文字を記す。	1 E		(126)	(47)	35	
W20060	灰陶	灰	青灰灰	白	内面に施込みが付いており。見込みに「盛身」の文字を記す。	4トレンチ	地土	(185)			
W20061	灰陶	灰	青灰灰	白	内面に施込みが付いており。見込みに「盛身」の文字を記す。	1 E		(112)	(36)	43	
W20062	灰陶	灰	青灰灰	白	内面に施込みが付いており。見込みに「盛身」の文字を記す。	2 E		(50)			
W20063	灰陶	灰	青灰灰	白	内面に施込みが付いており。見込みに「盛身」の文字を記す。	4 E		128	42	45	
W20064	灰陶	灰	青灰灰	白	内面に施込みが付いており。見込みに「盛身」の文字を記す。	1 E		(140)	(94)	32	
W20065	灰陶	灰	青灰灰	白	内面に施込みが付いており。見込みに「盛身」の文字を記す。	1 E		98			
W20066	灰陶	灰	青灰灰	白	内面に施込みが付いており。見込みに「盛身」の文字を記す。	1 E		(112)			
W20067	灰陶	灰	青灰灰	白	内面に施込みが付いており。見込みに「盛身」の文字を記す。	3 E		(200)			
W20068	灰陶	灰	青灰灰	白	内面に施込みが付いており。見込みに「盛身」の文字を記す。	3 E		(200)			
W20069	灰陶	灰	明るいオーリーブ灰	白	内面に施込みが付いており。見込みに「盛身」の文字を記す。	4 P24		(111)			
W20070	灰陶	灰	青灰灰	白	内面に施込みが付いており。見込みに「盛身」の文字を記す。	1 E		116	38	55	
W20071	灰陶	灰	白	白	内面に施込みが付いており。見込みに「盛身」の文字を記す。	3 E		(180)			
W20072	灰陶	灰	青灰灰	白	内面に施込みが付いており。見込みに「盛身」の文字を記す。	1 V		(105)			
W20073	灰陶	灰	白	白	内面に施込みが付いており。見込みに「盛身」の文字を記す。	1トレンチ	E				

表17 出土遺物観察表（鉄製品他）

出土地番号	種類	形名	地区	層位	高さmm	幅mm	厚さmm	重さg
第24075	陶片		全	粘土	45	43	41	
第24074	片打	馬鹿頭を文様。		3)Ⅳ	67.5	6	6.5	1.3
第24075	片打	頭部を文様。		4)Ⅲ	81	7.5	6.5	3.85
第24076	片打	円形。		3)Ⅲ	54	5.5	3.5	1.9
第24077	片打	台脚部を文様。		3)Ⅳ	33.5	5.5	4.5	6.7
第24078	片打	頭部を文様。		3)Ⅳ	45.5	4.5	3	10.1
第24080	葉葉	頭部に突起をもつ。	3)トレンチ		(17.6)			20.9
第25081	陶瓦	廢物が美しい。		1)Ⅵ	23.7		1	2.3
第25082	瓦筒通水	廢物が美しい。		1)Ⅵ	23		1.1	2.4
第25083	瓦筒通水			3)Ⅴ	25.2		1.3	3.2
第25084	瓦筒通水	瓦筒瓦。		3)Ⅳ	23.1		1.1	3.4
第25085	瓦筒通水	文部。	全	粘土	24.9		1.2	3.5
第25086	瓦筒通水	文部。		2)Ⅵ	23		1.1	2.7
第25087	片打	中央に取り込みを入れる。		1)Ⅵ	156	72	31	
第25088	片打	外側に固定具の跡が残る。		1)Ⅵ	240	78	16	
第25089	片打	頭部に孔がある。		2)Ⅵ	295	30	23	
第25090	角材	中央部に突起ある。	全	粘土	280	70	41	
第25091	橋板	側面に木口が残る。		1)Ⅴ	323	100	17	
第25092	橋板の底	直立状の側面が残る。	4)トレンチ	Ⅹ	847	72	10	
第25093	橋板	側面に木口が残る。		2)Ⅵ	183	73	12	
第25094	橋板	側面に木口が残る。		1)Ⅴ	304	72	21	
第25095	木札	下半身を残す。		3)Ⅸ	189	61	10	
第25096	繩	細い。		2)Ⅹ	270	6	6	
第25097	繩	一部欠損。		3)Ⅸ	270	6	7.5	
第25098	繩	繩端が劣化する。		3)Ⅷ	233	6	6.3	
第25099	繩	空形。		1)Ⅵ	303	10	7	
第25100	繩	一部欠損。片端が変化する。	全	粘土	274	7	7	
第25101	繩	空形。		3)Ⅷ	262	8	6	
第25102	角柱	空端に二つの折れが残る。		3)Ⅸ	646	136	145	
第25103	太枕	先端を加工する。		3)Ⅸ	605	98	106	
第25104	太枕			2)Ⅹ	207	68	54	
第25105	繩板	繩を深くし、先端を斜めに切削する。		4)Ⅹ	383	27	26	
第25106	太枕	繩を深くし、先端を加工する。		4)Ⅹ	572	92	89	
第25107	繩板	先端を斜めに切削する。		4)Ⅹ	531	23	28	
第25108	太枕	先端を斜めに切削する。		2)Ⅹ	549	138	113	
第25109	太枕	先端を斜めに切削する。		2)Ⅹ	543	89	83	
第25110	太枕			3)Ⅹ	550	86	64	
第25111	繩板	先端を斜めに切削する。		4)Ⅹ	418	46	36	
第25112	繩板	繩を深くし、先端を斜めに切削する。		3)Ⅹ	560	39	47	
第25113	端石	端面は凸。	全	粘土	88	30	46	
第25114	端石	端面は端。端縁。性上げ用。		2)粘土	89	64	23	
第25115	端石	端面は端。端縁。性上げ用。		3)粘土	67	65	67	
第25116	端石	端面は端。端縁。性上げ用。		2)Ⅹ	228	67	80	
第25117	端石	端面は端。端縁。性上げ用。		1)Ⅹ	175	117	87	
第25118	端石	全体に六角六稜を刻む。		2)Ⅹ	77	23	14	
第25119	中柄	端面は端。刃部の摩耗が多い。質粗陋。		2)Ⅹ	106	8	8	
第25120	中柄	一部欠損。	4)トレンチ	Ⅹ	126.5	10	9.5	
第25121	中柄	一部欠損。		1)Ⅶ	128	10	9	
第25122	中柄	一部欠損。薄削り跡。		2)Ⅷ	133	9	11	
第25123	中柄	空形。		3)Ⅸ	146.5	10	9.5	

点出土している。

唐津（第21図23～28、第22図29～41、第23図42、第24図71～72）碗、皿、すり鉢、鉢、甕が計173点出土している。そのうち皿が121点と7割を占めている。24～31、34～36は胎土をもつ皿である。体部が内湾するもの（24・26）、体部に段がつくもの（25・27・28～36）、輪花皿（34）をみることができる。32・33・37・38・71・72は砂目をもつ皿である。いずれも溝縁皿である。37は駒ヶ岳火山灰（KO-d）の直下から出土している。71・72のように底部から口縁部にかけて薄く仕上げるグループとそれ以外の厚手に仕上げるグループが見られる。42は甕の体部破片である。内面に円形の叩き痕を残している。ほかに格子目の叩き痕を残すものも見られる。

肥前（第23図43～60、第24図61～64、67～70）

碗、皿、瓶など計339点が出土しており、初期のものから近代のものまで見られる。また器種も碗、皿、瓶などの日用雑器のほかに香炉、仏壇などの宗教色の濃い器種も出土している。

土器（第24図79）繩文土器3点、擦文土器13点が出土している。79は上ノ国式の繩文土器であり、繩文晚期に属する。

鉄製品（第24図74～80）鉄製品は釘や楔などの建築資材を中心に42点出土している。

銅製品（第25図81～86）銅製品は煙管、銅鏡など22点が出土している。

木製品（第25図87～90、第26図91～100、第27図102～107、第28図108～112）木製品は不明製品を合わせて90点出土している。いずれの木製品も山側からの地下水によって保存状態は極めて良好である。杭は細いものと太いものが見られ、いず

表18 出土遺物集計表(商周器)

	陶文	鐵文	青銅	白銅	銀片・米面	北野	瓦器	漆器	越前	南津	若松	關西系	不明	總計
陶文	不	不	2											3
鐵文	不	不	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3
青銅	不	不	1	13	0	0	0	0	0	0	0	0	0	13
總計			0	13	0	0	0	0	0	0	0	0	0	13
中野			7											7
天日	天	日					8							8
瓦				6			9						1	16
下り	銅							3	5	6				15
少當	計		0	0	7	6	8	17	0	2	5	6	0	44
近世初期	陶				11					20	66		1	96
	鐵				16	2	3			116	29	4	170	
	銅						1		3	8			3	
	寸	引	銅					3	8				15	
	馬	・	牛						6	8		3	17	
	包	・	熊							1			1	
	不	可	知							2			2	
近世初期	計		0	0	0	0	27	2	3	1	0	3	151	108
近世中期	陶										32			32
	鐵										2	32	1	36
	銅										1			1
	小	刀	劍								1			1
	鎌										1	6	1	6
	矛	盾									1			1
	不	可	知								3			3
近世中期	計		0	0	0	0	0	0	0	0	3	75	0	280
近世後期	陶											43		43
	鐵											91		91
	銅											1		1
	火	刀										1		1
	馬	・	牛								1	40	10	60
	打	明	劍				1							1
	不	可	知								5			5
近世後期	計		0	0	0	0	0	1	0	0	0	1	126	35
近世	陶					1							1	2
	鐵											1		1
	銅											1		1
	寸	引	銅								8		1	9
	馬	・	牛								2			2
	打	明	劍								1			1
	不	可	知								1			1
近世	計		0	0	0	0	0	1	0	0	0	1	0	143
近代	陶											54		54
	鐵											35		35
	銅											4		4
	火	刀										2	10	2
	馬	・	牛									1		1
	打	明	劍									1		1
	不	可	知									1		1
近代	計		0	0	0	0	0	6	0	0	0	9	0	6
近代	陶											54		54
	鐵											35		35
	銅											4		4
	火	刀										2	10	2
	馬	・	牛									1		1
	打	明	劍									1	30	9
	不	可	知									1		1
近代	計		0	0	0	0	0	6	0	0	0	9	0	6
不明	陶											17		17
	鐵											6	9	15
	銅											7		7
	火	刀										2		2
	馬	・	牛									1		1
	打	明	劍									1	7	8
	不	可	知									1	15	17
不明	計		0	0	0	2	2	2	0	0	0	6	18	26
總計		2	13	7	7	260	122	31	31	0	9	173	346	602

表19 出土遺物概計表(表18品目)

現物	点数	合計
鐵	1	118.3
銅	2	44.5
火	2	153.0
馬	1	42.0
打	1	20.0
丸	7	45.9
鉤	10	29.2
針	1	16.1
角	1	38.8
縄	3	184.2
網	3	341.7
小刀	32	1879.4
不明	20	254.0
合計	43	3144.3
現物	点数	合計
鐵	1	106.9
銅	1	107.9
火	1	103.5
馬	1	140.9
打	1	46.6
丸	1	46.6
鉤	2	107.6
針	1	38.8
角	1	18.1
縄	1	22.0
網	1	181.1
小刀	2	107.6
不明	2	254.0
合計	10	3144.3
現物	点数	合計
鐵	1	106.9
銅	1	107.9
火	1	103.5
馬	1	140.9
打	1	46.6
丸	1	46.6
鉤	2	107.6
針	1	38.8
角	1	18.1
縄	1	22.0
網	1	181.1
小刀	2	107.6
不明	2	254.0
合計	10	3144.3
現物	点数	合計
鐵	1	106.9
銅	1	107.9
火	1	103.5
馬	1	140.9
打	1	46.6
丸	1	46.6
鉤	2	107.6
針	1	38.8
角	1	18.1
縄	1	22.0
網	1	181.1
小刀	2	107.6
不明	2	254.0
合計	10	3144.3

れもまっすぐな自然木の枝を払い、先端を鉈などで尖らせるだけといった簡単な加工を施している。P43から出土した角柱は4面を手斧によって面とりを行った加工痕が残っている。箸は第V層、第VI層から完形で出土したものが多く、長さはいずれも27cm前後である。95は上部に紐でくくれるような加工を施している。木札としたが文字は確認できなかった。また漆器も多く出土している。20は漆器の碗と重なった状態で出土している(PL 14-6)。(三浦英俊)

石製品(第28図113~115、第29図116、117)

113~115は砥石である。いずれも3~4面を使用している。使用面はつるつるの状態であり、最終的な仕上げ用の砥石と思われる。116は繩文の敲打器を擦石に転用しているものである。上部にわずかながら敲打痕が認められる。またほぼ全面に

アスファルト状の黒斑が付着する。擦面はほぼ全面にある。下部の部分が最も美しい。VI層中世面からの出土である。117は直径1.6~3cm、深さ1~4cmの人工的な小孔を4面に穿つものである。小孔は浅いものと、やや深いものがあり、小孔どうしの重複がない箇所では直径1.6cmとなる。棒状の先端が丸い直径1.6cmの金属製品による穿孔の跡と考えられる。石質は凝灰岩質である。小孔以外の部分の表面はほぼ全面が磨耗して丸くなっている。Ⅲ層KO-d面からの出土である。

骨角器(第29図119~123)すべて中柄である。

119は海獣骨製か。他は陸獣骨製。119、120、123はV層。中世~近世初頭の層からの出土。唐津胎土目皿と同一面で出土。120、122はVI層、中世自然堆積層から出土。(齊藤邦典)

### III 小 括

本遺跡から出土した遺物の傾向について若干の検討を加えたい。

本項では調査区から出土した遺物の多くを占める陶磁器類について大橋康二氏の肥前陶磁器の分類をもとに、

中世(~1580)

近世前期(1580~1690)

近世中期(1690~1780)

近世後期(1780~1860)

近代(1860~)

と大きく5つにわけて変遷を追っていきたい。

中世の段階では内外面無文の青磁の碗や高台に抉り込みがはいる白磁の皿など15世紀代のものから出土している。国産陶器では瀬戸・美濃の窑窯で生産された皿、大窯で生産された天目茶碗、皿が出土している。また調理具は珠洲、越前に加えて上ノ国地区では珍しい瓦器のすり鉢が出土している。

近世前期の段階に入ると舶載陶磁器は漳州窯系や景德镇窯系と見られる染付に限定される。国産陶磁器では下層であるほど唐津製の皿が出土点数の大多数を占めている。肥前陶磁器も初期のものから見られ、この時期に特徴的な一重網目文や唐草文を施す碗、体部を薄く仕上げる碗などが出土している。調理具では16世紀末~17世紀初頭までは越前のすり鉢が残るようであるが、それ以降は

唐津系のすり鉢が使用されている。

本遺跡におけるピークは数量的に16世紀後半から17世紀中ごろまでと言うことが出来、出土する陶磁器の内容も天目茶碗がみられるなど高級品指向が伺える。しかしながらこれらの陶磁器が出土する同じ層位で骨角器・魚の骨・獸骨が出土しており、特に獸骨は狼と考えられる頭部の骨が解体されて胸骨と離されたのではないかと考える状況で出土している。このように相反する性格の遺物が30m<sup>2</sup>という狭い範囲の中で同じ層から出土するという状況について今後、周辺遺跡と併せて検討していく必要がある。

近世中期段階では数量的に減少傾向が見られる。コンニャク印判を施した碗、五弁花文を持つ皿などの肥前製品や内面に銅線釉を施す内野山系の皿といったような18世紀に盛行する器種が全くと言ってよいほど出土していない。18世紀代に位置づけられる遺物が無いわけではないが何らかの原因で多少なりとも人の出入りが減ったといえるであろう。平成9年度に行われた字上ノ国市街地分布調査では特にこの時期のみに減少傾向が見られるということはないので、本遺跡に特徴的な事象と言ふことが出来る。

近世後期の段階になると近世中期段階でみられた遺物の減少傾向は解消される。肥前系陶磁器が出土遺物の大半を占めるようになっており、唐津

や瀬戸・美濃など他の生産地の製品は肥前に圧倒されている。

近代に入るとそれまで肥前一辺倒であった磁器製品が瀬戸・美濃系の製品へと転換していることがわかる。また頸部が細長く胴部が膨らむ瓶類や関西系としたが益子焼きと思われる土瓶も目立つようになる。

本遺跡から出土する陶器は基本的には碗・皿などの日用雑器で多くを占めており、それらに加えてわずかながら香炉・仏壇といった仏具が出土している。また貯蔵器類は大型の壺・甕は少なくほとんどが瓶や壺利というような小型のもので占めているのは上ノ国漁港遺跡の報告にある指摘のとおりである。

本遺跡を含む字上ノ国市街地では「津軽一統志 宽文九年（1669）の条」によれば、150戸の家がありアイヌも住んでいたことが記されている。そして天明六年（1786）の記録では戸数210を数え

## IV

字上ノ国市街地分布調査において中世の整地面はTP18~22の現国道から漁港へ至る箇所及び、米沢屋敷遺跡にて確認され、遺物も確認されている。遺物はさらに集落中央部まで散見される状態であるが、集落中央部分では現代盛土層等からの出土であり、中世の生活面はない。向井宅遺跡にては自然堆積面であるが、確認されている。現在までの確認では、向井宅付近までが現在まで中世の生活空間があったと確認できる地域である。土層堆積からそのころ川尻地区は沼地、低湿地状態、集落中央部、海側中通り地区の海側一部は海浜近くであったと推測される。近世前半では遺物が大洞地区から川尻地区中央まで広がりを見せ始めるが、川尻地区では散見的であり、家の密集度は低かったと思われる。集落中央部分では一部整地した箇所もあり遺物も出土することから、このころからこの箇所も生活空間として使用はじめたと推測される。近世中半では漁港付近大洞地区ではやや少なめとなるが、集落中央部、川尻地区では整地面やブライマーな層からの遺物が増えており、この地区で徐々に人が増え始めている様子がわかる。近世後半では川尻地区東側まで遺物の密集度が高くなり町は東へ伸びていくようである。しかし海側中通りの海側、TP107以降への伸び

ている。しかしながらこのころより上ノ国では鰯漁はふるわなくなり、そのため人々が追跡に出掛けたことや海から離れたところで畠作を行うようになったことなどが影響して、文化八年（1811）の時点では80戸程度にまでなったことが記されている。本遺跡はこのような状況下にあった町屋の一角であり、人々の生活の中心が勝山館から海岸線へと移っていく過程を示していると考えられるであろう。

本遺跡における調査では調査区が約30m<sup>2</sup>と狭いため、遺構から空間の使用状況について理解するまでは至らなかった。今後、上之国勝山館が存続していた中世後半から近世・近代に至るまでに現在の字上ノ国地区がどのような変遷をたどり、どのような人々が暮らしていたか解明し、理解するためには地域の皆さんの御理解と御協力の元で調査を進めていく必要があるだろう。（三浦英俊）

## まとめ

はない。これらから1678年檜山泰行が江差へ移ったのちも町は衰退することなく発展していった様子がわかる。しかし近世中半には一時期大洞地区漁港付近での遺物の減少が見られ、中世～近世にかけて町が直線的な人口増加をしたのではないよう思える。町の中心も徐々に集落中央へ移っていったことも考えられる。

向井宅遺跡は16世紀末～17世紀初頭を中心とした遺跡であり、その頃の遺物も多く、中世までは自然堆積面であったが、整地面がはじめて作られた時期でもある。柱穴についてもVI層中世面掘りこみの柱穴にくらべしっかりしたものである。しかし調査区全面から検出されず、現国道側寄りからであった。このことから居住空間は現国道下と考えられ、この調査区は家の裏手であったと思われる。また縄文周囲を固めた杭が3本近世面から確認されており、そのほかにも調査区海側で数本の打ちこみ杭が発見されており、水に間連した遺構の跡と考えられる。いずれにしても字上ノ国市街地分布調査、向井宅遺跡は分析不足であり、特に各テストピット間での出土遺物の時代毎の点数の細かな比較、近世文書記録類と調査結果の細かな比較検討を今後の早急な課題としておきたい。（齊藤邦典）

# 報告書抄録

ふりがな	ちょうないいせきはくつちょうきじょうがいほう							
書名	町内遺跡発掘調査事業概報Ⅱ							
副書名								
巻次	2							
シリーズ名								
シリーズ番号								
編著者名	齊藤邦典 三浦英俊							
編集機関	上ノ国町教育委員会							
所在地	049-0611 北海道檜山郡上ノ国町字大留100 TEL 01395-5-2230							
発行年月日	西暦 1999年3月31日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東經	調査期間	調査面積	調査原因
字上ノ国市街地 遺跡	上ノ国町字上ノ国	013625				平成9年9月7日 ～11月12日	140m <sup>2</sup>	詳細遺跡 分布調査事業
向井宅遺跡	上ノ国町字上ノ国111番地	013625	C-02-96			平成10年4月1日 ～4月21日	30.5m <sup>2</sup>	住宅建設
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物			特記事項	
字上ノ国市街地 遺跡	遺物包含地	縄文 柳文 中・近世	柱穴 土壤	土器・石器 陶磁器 青磁・白磁・染付 伊万里・唐津・備前 瀬戸美濃 鉄製品 釘・鏡・刀子 銅製品 煙管・はばき・古錢				
向井宅遺跡	遺物包含地	中・近世	柱穴 土壤	陶磁器 青磁・白磁・染付 伊万里・唐津・瀬戸 美濃・越前・珠洲 鉄製品 蓋・釘 骨角器 獸骨				

# 図 版

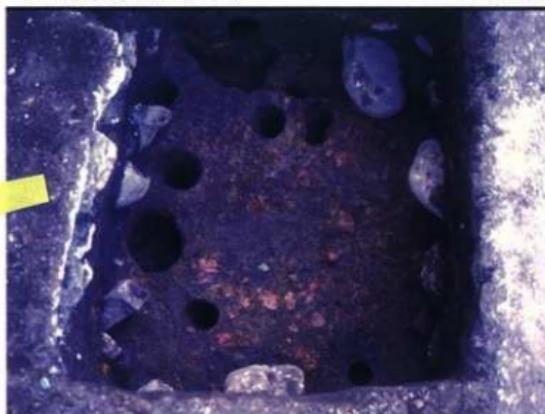




TP18 柱穴検出状況（近世）



TP18 土層堆積状況



TP28 柱穴検出状況



TP31 木製品検出状況（近世）

TP90 土層堆積狀況



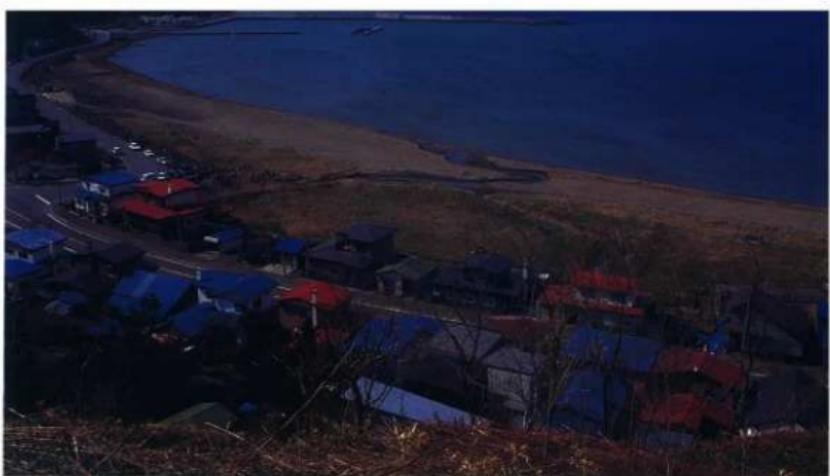
TP105 土層堆積狀況



TP95 土層堆積狀況



TP113 土層堆積狀況



向井宅遺跡遠景及び遺跡周辺地形（写真右端が向井宅遺跡）



第IV層遺構検出状況



P43石組み柱根土層堆積状況



南北東壁土層堆積狀況



東西北壁土層堆積狀況



字上ノ国市街地分布調査出土 染付



字上ノ国市街地分布調査出土 唐津



字上ノ国市街地分布調査出土 伊万里



字上ノ国市街地分布調査出土 近代瀬戸・美濃



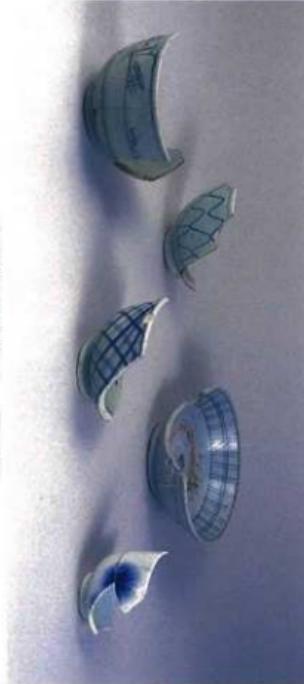
向井宅遺跡出土 船載陶磁器



向井宅遺跡出土 鹽津



向井宅遺跡出土 滾戸・美濃



向井宅遺跡出土 伊万里



宇上ノ国市街地遠景



TP7 柱穴検出状況（近世）



TP10 柱穴検出状況（近世）



TP16 柱穴検出状況



TP18 柱穴検出状況（近世）



TP18 土層堆積状況



TP22 柱穴検出状況



TP18 土層堆積状況



TP22 柱穴検出状況（中世）



TP22 柱穴検出状況（近世）



TP26 土層堆積状況



TP26 遺物検出状況（胎土目唐津皿）



TP28 柱穴検出状況



TP26 遺物検出状況（胎土目唐津皿）



TP31 木製品検出状況（近世）



TP25 柱穴残存部検出状況



TP37 土層堆積狀況



TP52 土層堆積狀況



TP75 土層堆積狀況



TP90 土層堆積狀況



TP76 土層堆積狀況



TP95 土層堆積狀況



TP96 土層堆積狀況



TP103 土層堆積狀況

・向井宅遺跡遠景



TP105 土層堆積状況



TP113 土層堆積状況



TP117 土層堆積状況



よし栄駐車場地点土層堆積状況



TP126 土層堆積状況



よし栄駐車場地点遺物検出状況（人形）



TP129 土層堆積状況



向井宅遺跡遠景（中央部分）

向井宅遺跡遺構検出状況



1. 第IV層遺構検出状況（南から）



2. 第IV層集石遺構検出状況（南から）



3. 第IV層P42石組み柱根土層堆積状況（西から）



4. 第V層土壤3（北から）



1. 第V層P43石組み柱根検出状況（東から）



3. 第VI層P41（西から）



4. 第VI層P33柱根検出状況（南から）



2. 第V層P43石組み柱根土層堆積状況（東から）



5. 第V層土壤2 土層堆積状況（東から）



6. 第V層土壤2（東から）

向井宅遺跡遺構検出状況



1. 第VI層集石遺構検出状況（南から）



2. 第VI層杭検出状況（南東から）



3. 第XVII層面遺構検出状況（西から）



1. 骨角器出土状況



2. 骨角器出土状況



3. 漆器出土状況



5. 染付出土状況



7. 唐津皿 (胎土目) 出土状況



4. 桶底出土状況



6. 唐津皿 (胎土目)・漆器出土状況



8. 唐津清綠皿 (砂目) 出土状況



-



7



1



1



26

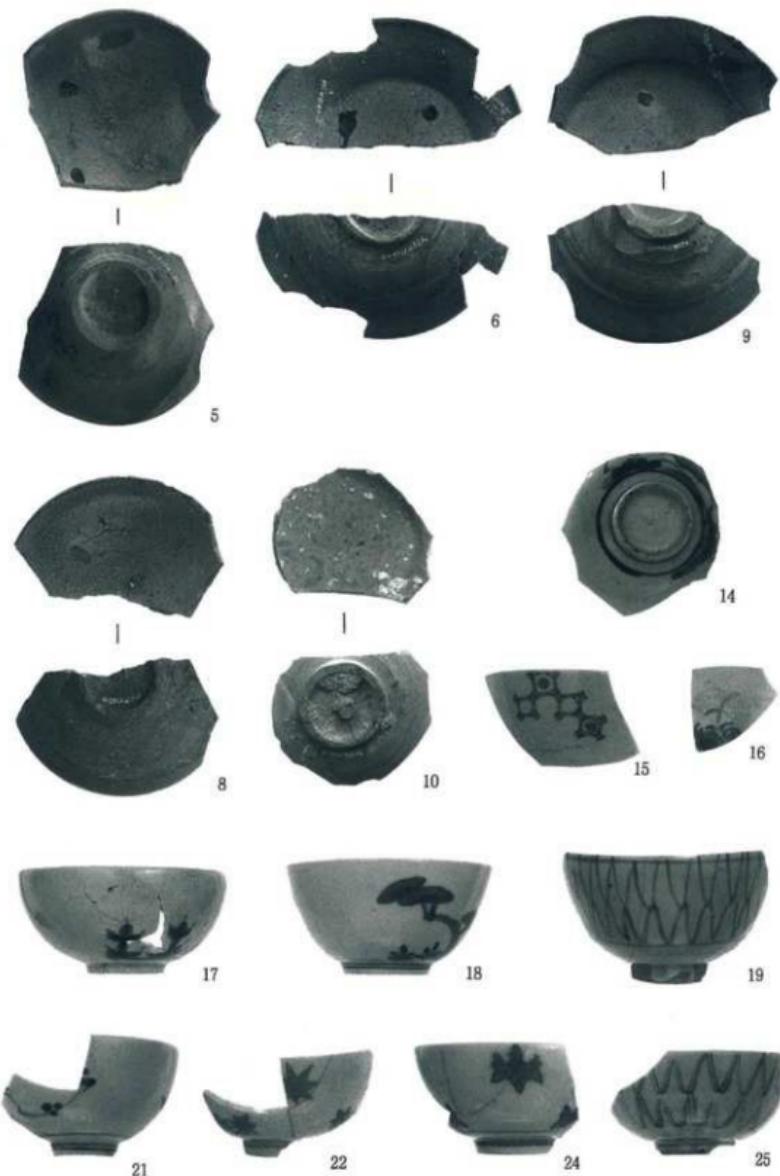


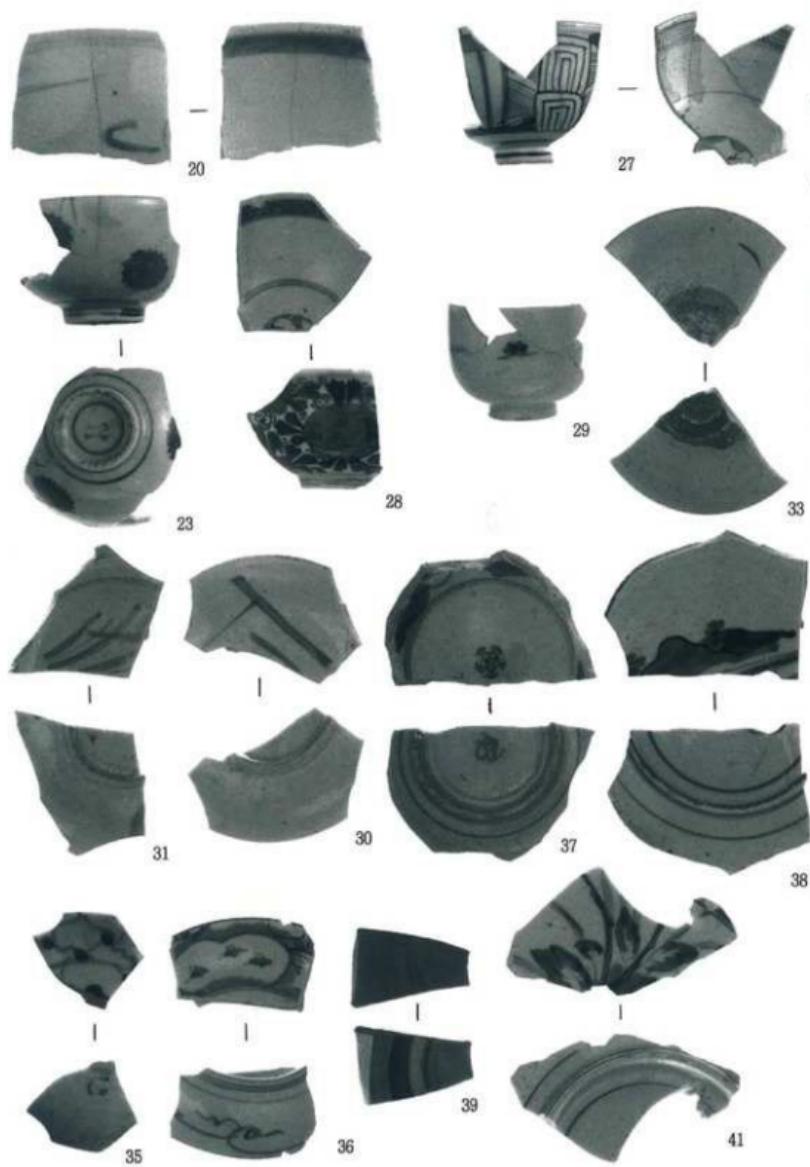
34

P L . 16 字上ノ国市街地分布調査出土遺物

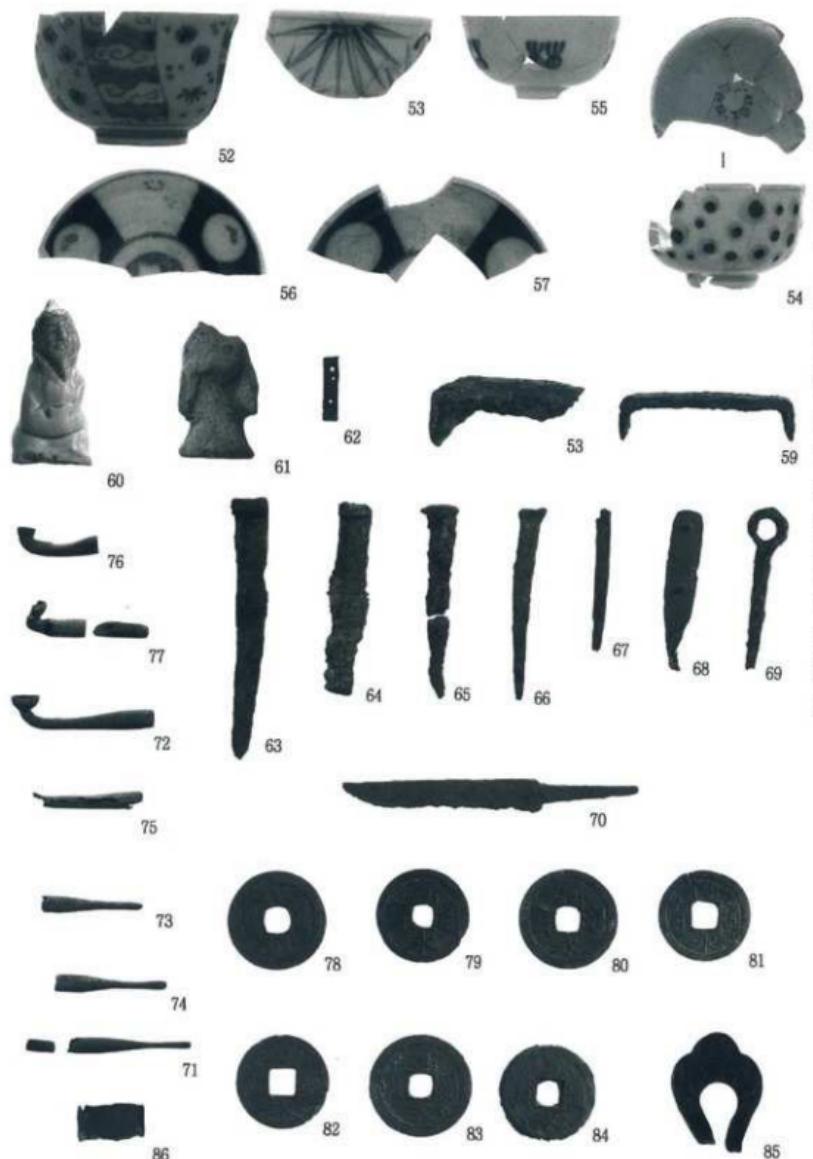
47

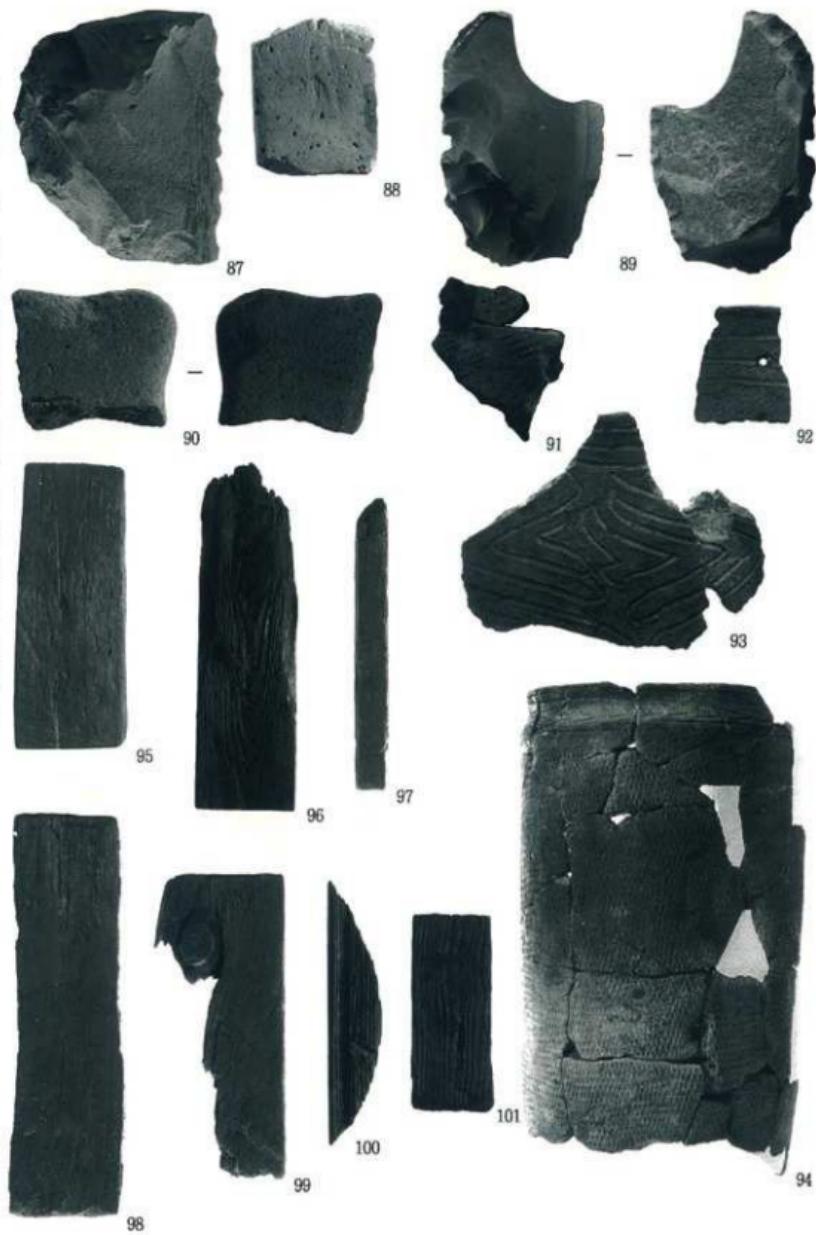






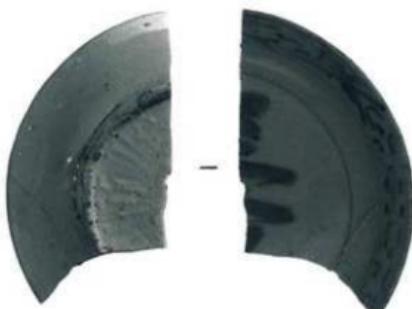








1



6



5



7



8



11



9



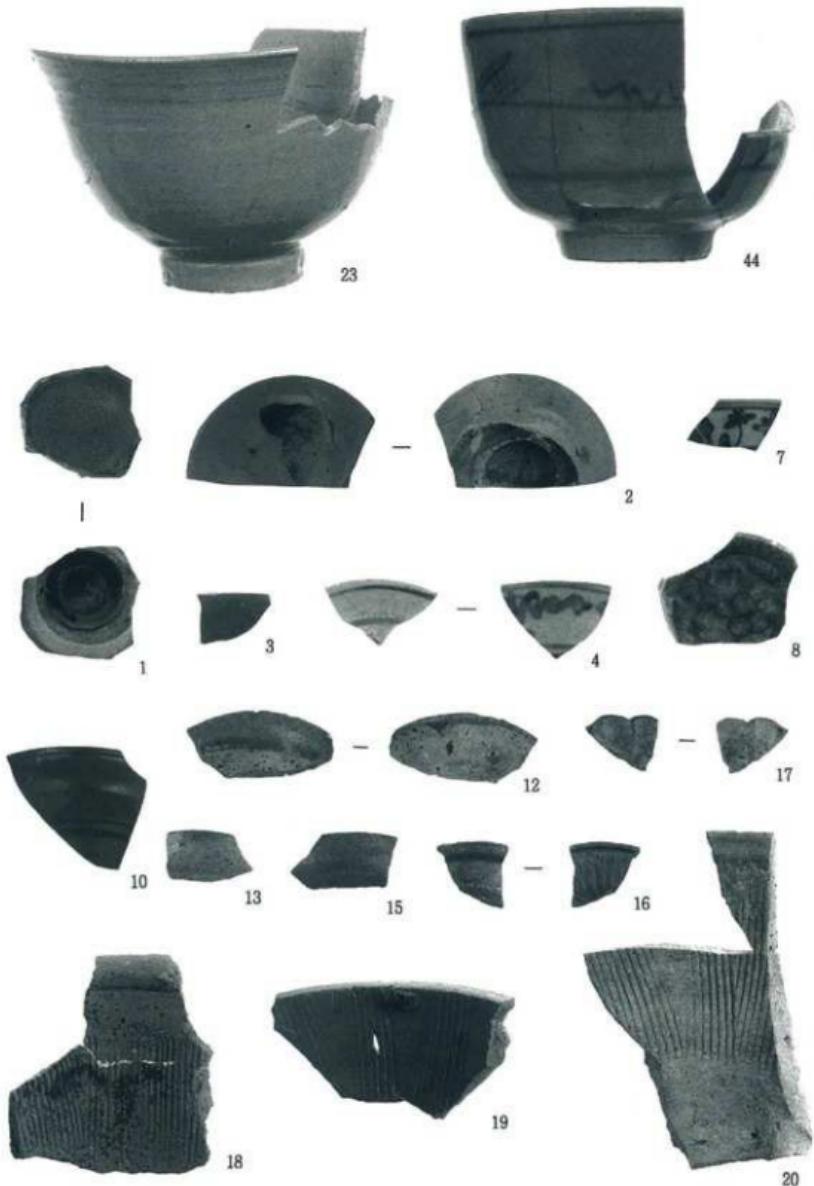
14

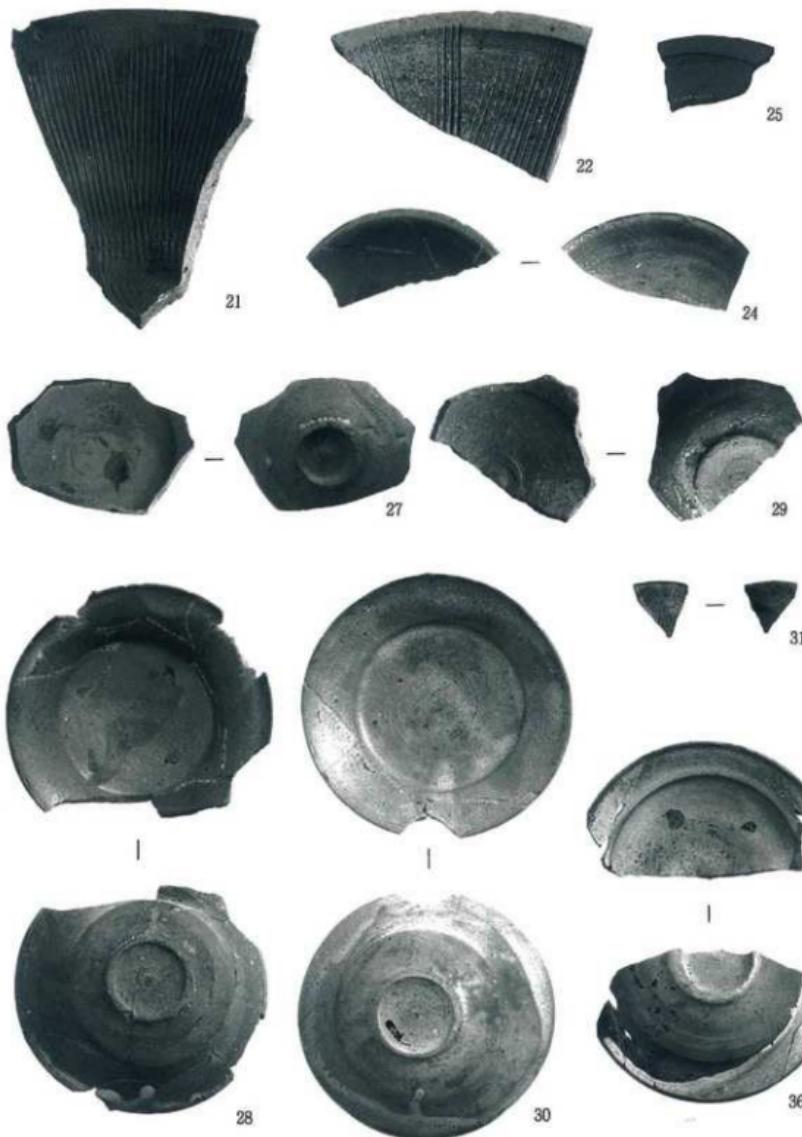


26



37





P L .  
53 26

向井宅遺跡出土遺物



32



53

26



34



35



36



37

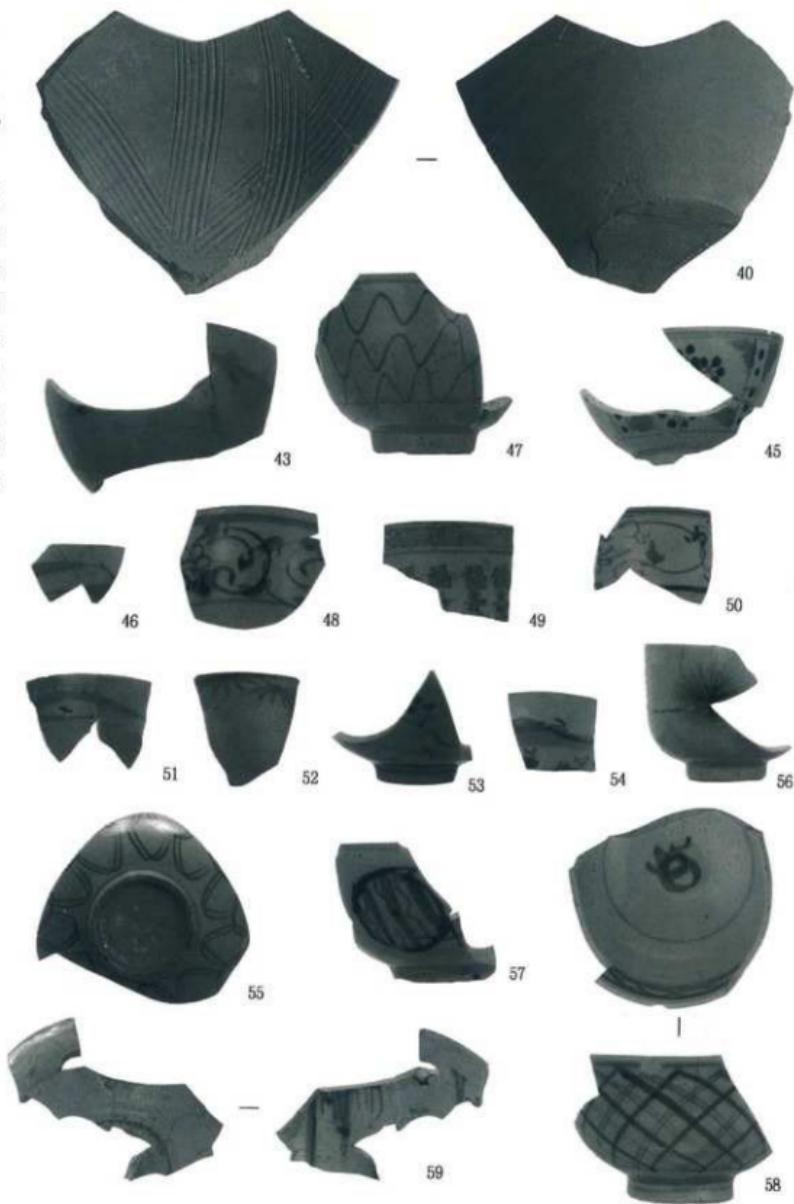


38



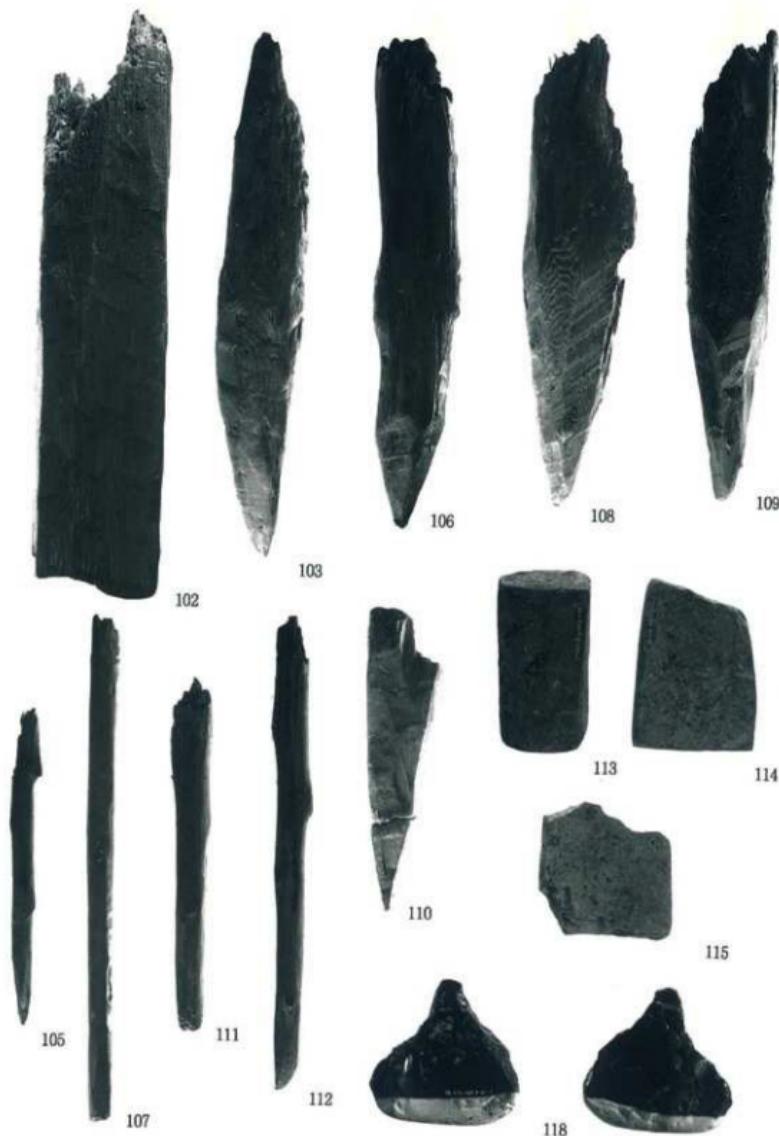
39

—







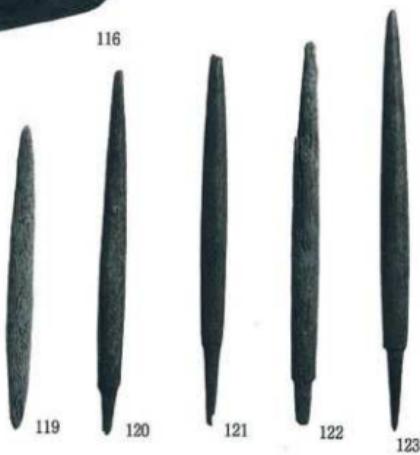




116



117





字上ノ国分布調査出土遺物



向井宅遺跡出土中近世遺物



向井宅遺跡出土近代遺物

---

町内遺跡発掘調査事業概報Ⅱ

字上ノ国市街地詳細遺跡分布調査  
向井宅遺跡発掘調査

発行 上ノ国町教育委員会

北海道桧山郡上ノ国町字大留100

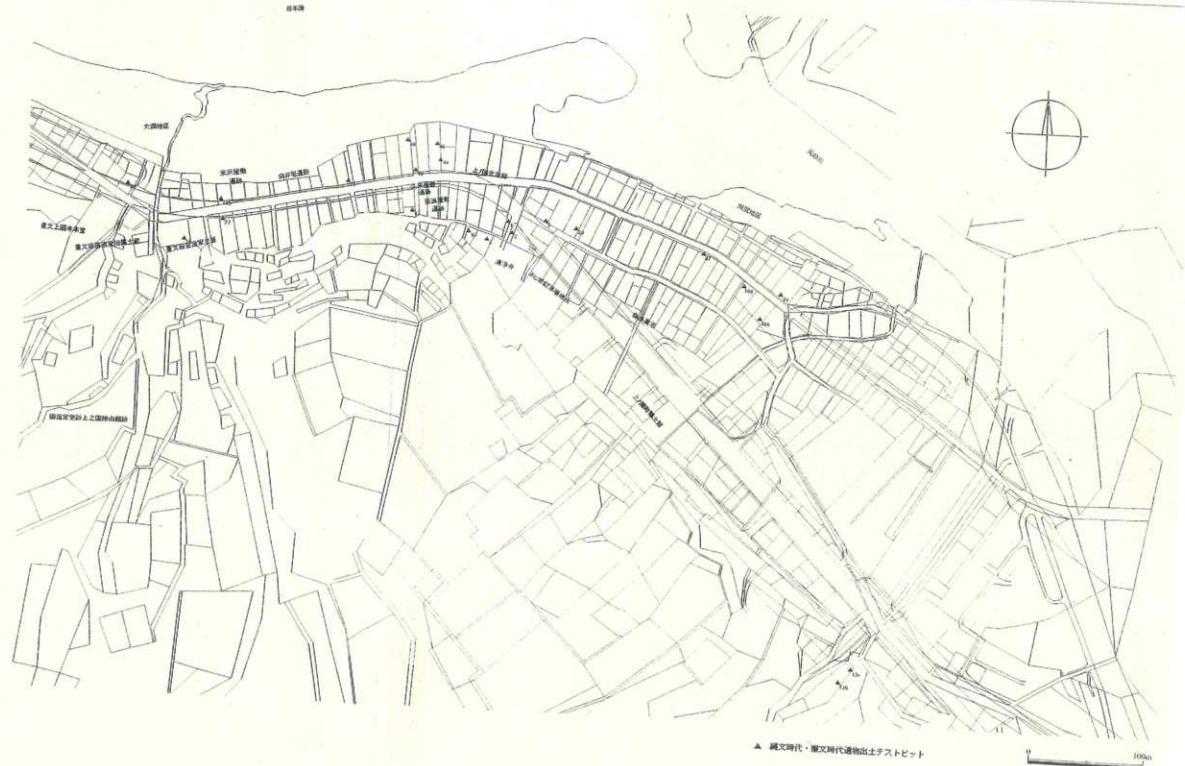
印 刷 平成11年3月26日

発行 平成11年3月29日

印刷所 (株)三和印刷

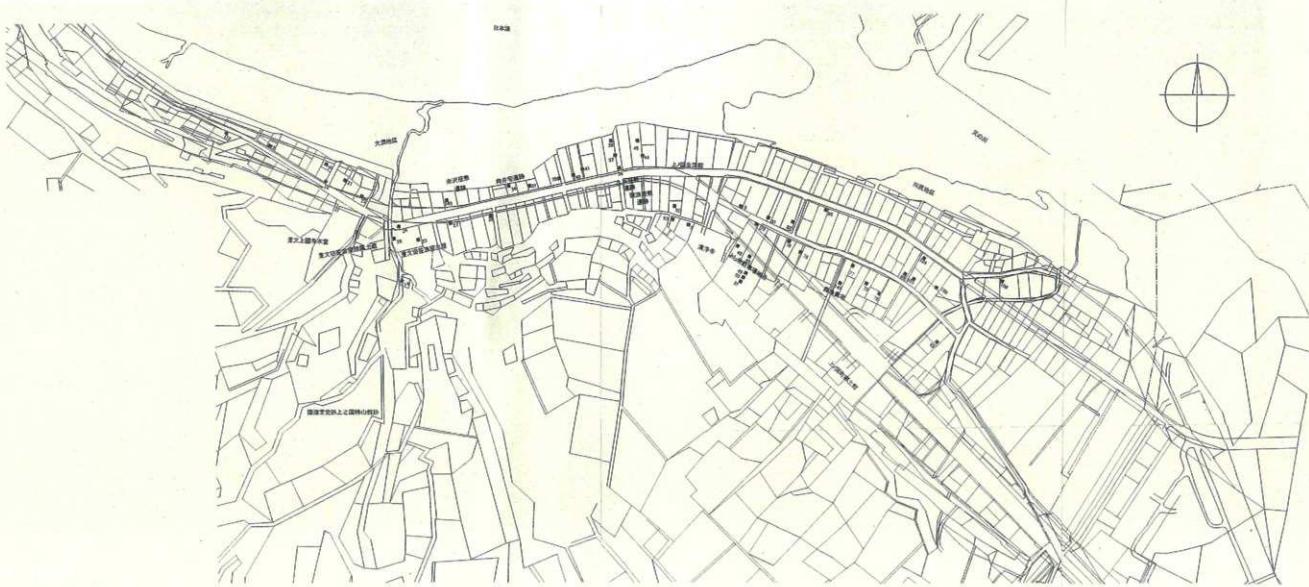
---





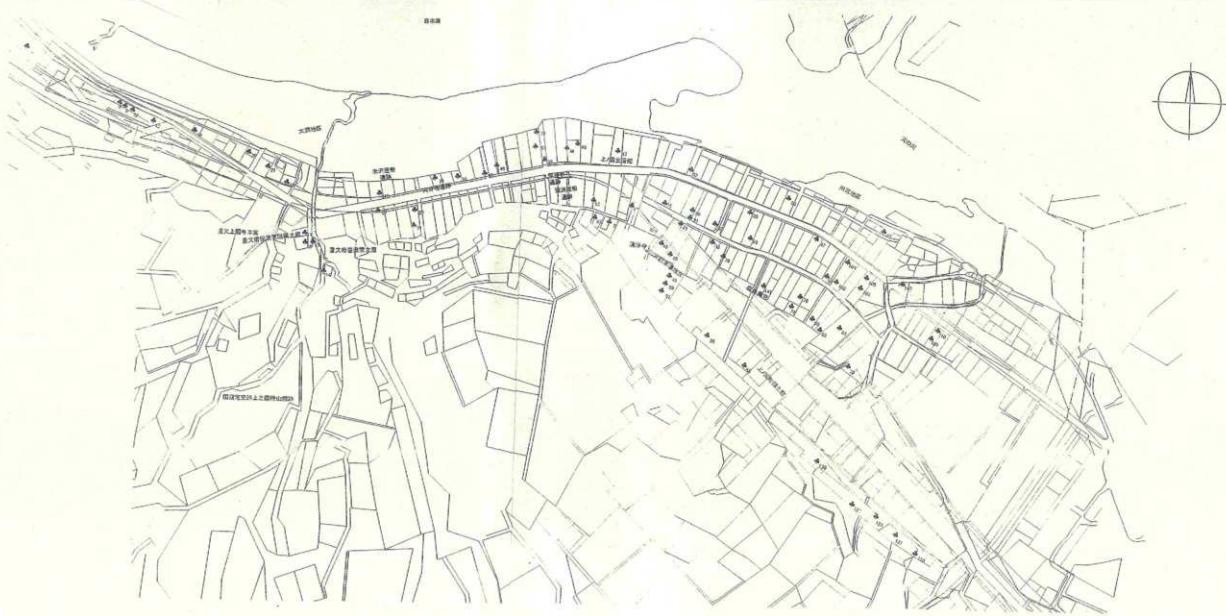
▲ 前文時代・後文時代遺物出土テスツピット

100m



■ 近世軋輶(1500年～1600年代)遺物出土ナストピット

1km

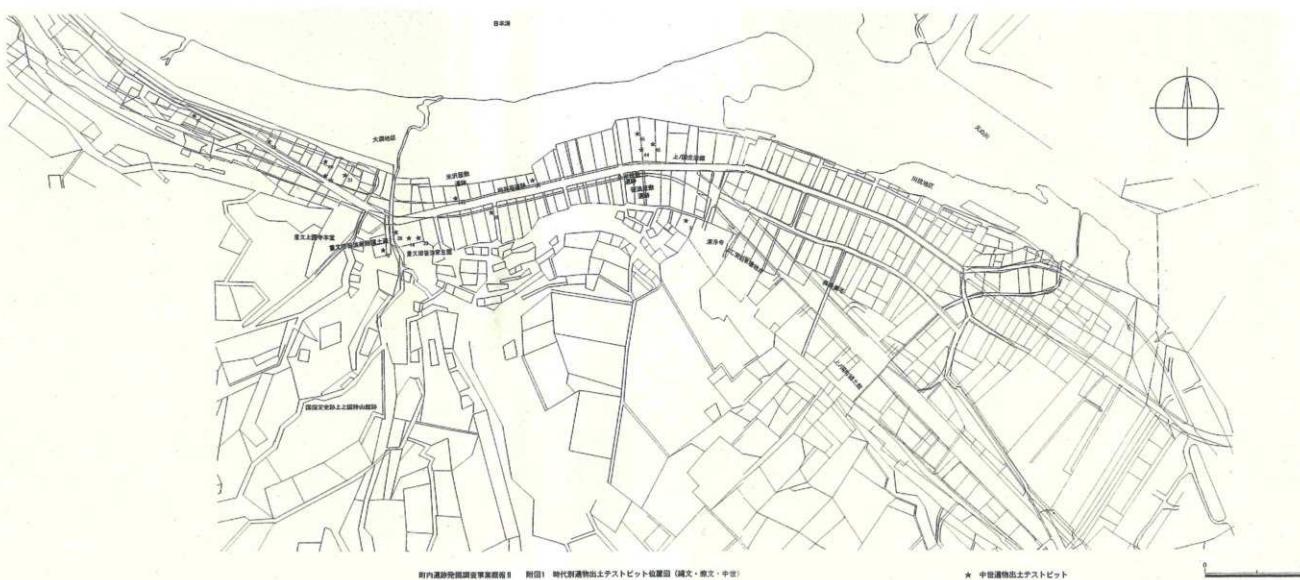


前田遺跡発掘調査事務団体 □ 周囲：時代別道路出土テスティビット位置図 (近世後期)

▲ 洞門(昭和17年5月～1990年代) 旗地古テスティビット

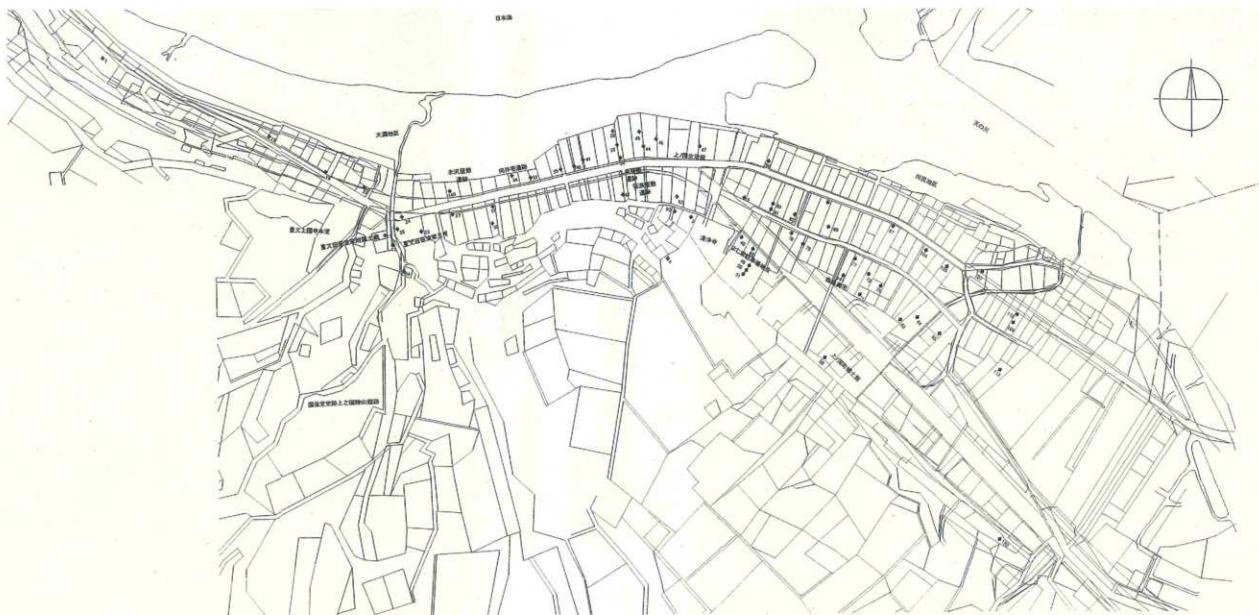
0

100m



昭和11年上河内山古墳 時代引出物出土テストピット (横文・縦文・中世)

★ 中谷遺物出土テストピット



町内道路網と遺構図 2 地図2 時代別遺物出土テラストピット位置図（近世前半・中期）

◆ 近世中期(1600年～1750年代) 遺物出土テラストピット

0 100m